RICOH

リコーメディアコネクション

IM シリーズ

使用説明書

・本書は製品を安全にご使用いただくための注意事項が書かれています。
ご使用になる前に必ずお読みください。
・ご使用になる間は、本書を製品の近くに保管していつでもご活用できる
ようにしてください。

第1章 お使いになる前に
第2章 電話の基本的な使い方
第3章 ディスプレイのメニューの使い方
第4章 電話の便利な使い方
第5章 電話機の調整
第6章 さらに活用したいとき
付録

このたびは、ＩＭシリーズをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

- ご使用の前に、本書をよくお読みの上、本装置を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本装置のそばなどいつもお手元においてお使いください。

◆ ご注意

(1) 本書に記載されている内容の一部または全部を無断記載・無断複写することは固くお断りいたします。
(2) 本書に記載されている内容については、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 天災、停電、あるいは本装置の故障や誤動作などにより、本装置が使えなかったことによる付随的損害保証については当社では、一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

商標について
－ eおとは沖電気工業株式会社の登録商標です。
－ マイeおとは沖電気工業株式会社の商標です。
－ その他、記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

本製品のライセンスについて

本製品は、一部に GNU 一般公衆利用許諾契約書（GNU General Public License：以下「GPL」）および GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書（GNU Lesser General Public License：以下「LGPL」）が適用されたオープンソースソフトウェアを使用しています。これらのオープンソースソフトウェアに限り、GPL、LGPL の定めに従い、入手、改変、再配布等を行って頂くことが可能です。

本製品のライセンスの詳細や、GPL、LGPL 適用オープンソースソフトウェアのソースコードの入手方法につきましては、販売店にお問合せください。

なお、個別の GPL、LGPL 適用オープンソースソフトウェアに関しましては、ソフトウェアの不稼動、稼動不良を含む法律上の瑕疵担保責任、その他保証責任を弊社は一切負わないものとします。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

表記の取り決め

本書では、読者の注意を喚起するために次の図記号を用いています。

■記号の意味

「禁止」を示します。この記号のついた警告・注意文が指定する行為は絶対に行わないでください。

「強制」を示します。この記号のついた警告・注意文が指定する行為は必ず実行してください。

操作上のヒントや注意点を記載しています。

操作や機能の補足説明を記載しています。

関連した説明の参照箇所を記載しています。

データ設定が必要な機能を表しています。販売店にお問い合わせください。

安全上のご注意

― ご使用の前に必ずお読みください ―

この「安全上のご注意」には、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、守っていただきたい事項を示しています。
本装置をご使用の前に、本文をよくお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に必ず保管してください。

■主装置について

⚠警告	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⃠	LAN ポートや PC ポートに接続したネットワークケーブルを、コンセント、アナログ電話回線、デジタル電話回線（ISDN）、PBX デジタル電話回線などには接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	本装置を分解、改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	本装置の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢など、液体の入った容器または、小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電、故障の原因となります。
⃠	濡れた手で、電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
⃠	電源コードのタコ足配線はしないでください。火災、過熱の原因となります。
⃠	電源コードに重い物を載せたり、加熱したり、引っ張ったりしないでください。コードが破損し、火災・感電の原因となります。
⃠	本装置は AC100V ± 10V の電源電圧で動作するように設計されています。この定格電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
❗	電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。
❗	電源プラグのほこりを取ってください。絶縁不良になり、火災の原因になります。
❗	万一、内部に水などが入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電、故障の原因となります。
❗	煙が出ている、異臭がするなどの場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電、故障の原因となります。
❗	万一、本装置を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電、故障の原因となります。
❗	内部の点検・修理は、販売店に依頼してください。

⚠注意	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
⃠	調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所、およびチリ、ほこりの多い場所には置かないでください。火災･感電･故障の原因となることがあります。
⃠	ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
⃠	直射日光の当たる所や、湿度の高い所には置かないでください。内部の温度が上がり、火災・故障の原因となることがあります。
⃠	本装置の通風口をふさがないでください。通風口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。
⃠	振動が多い場所には設置しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
⃠	強い磁界やノイズ発生源から離して設置してください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
⃠	本機を上下逆さまの状態で設置しないでください。内部に熱がこもり、火災･故障の原因となることがあります。
❗	壁掛け用に取り付ける場合は、重みにより本装置が落下しないよう、専用の取付器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因となることがあります。
❗	電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、コードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。
❗	本装置を移動させるときは、先ず装置の電源スイッチの切り方に従い電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。次に、回線コードなど外部の接続線をすべて外してください。 誤った電源スイッチの切り方をしますと、装置に異常をきたす場合があります。また、移設は接続線を外したことを確認した上で行なってください。 コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。
❗	水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。内部に水滴が入ると火災や故障の原因となることがあります。
❗	お手入れの際は安全のために、電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。
❗	必ずアースを接続してください。

■電話機について

以下の内容は、ＩＭ ３０「 」電話機についての記述です。他の電話機や PHS などについては、各端末に添付されている取扱説明書をお読みください。

⚠警告	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⃠	電話機コードをコンセントには接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	本装置を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
⃠	本装置の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢など、液体の入った容器または、小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
❗	内部の点検・修理は、販売店に依頼してください。

⚠注意	次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
⃠	調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるような場所および、ちり、ほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
⃠	ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
⃠	直射日光の当たる所や、湿度の高い所には置かないでください。内部の温度が上がり、火災・故障の原因となることがあります。
❗	水滴がついたら乾いた布で拭き取ってください。内部に入ると、火災・故障の原因となることがあります。
❗	壁掛け用に取り付ける場合は、重みにより本装置が落下しないよう、専用の取付器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因となることがあります。

ご使用にあたってのお願い

- 停電などの外的要因、あるいは本装置の故障、誤動作、不具合によって通信などの機会を逸したために生じた遺失利益等の金銭的損害につきましては、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本装置を人命や、危害に直接的または、間接的に高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください。
- 本装置を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。
- 本装置に登録された内容は故障・修理のときに消失する場合があります。

設置にあたって

- ヘッドセットでお使いになる場合、別売のヘッドセットが必要です。(DTS-HM-10-HDS を推奨)
- 放送局の近くや違法ＣＢ無線など、強い電波を受ける場所では通話中に雑音が入ることがあります。通話に支障をきたす場合には、販売店にご相談ください。
- テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所や違法無線を受ける場所に設置した場合、ノイズや誤動作を引き起こすことがあります。

取り扱い上のご注意

- 落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
- 本装置に接続されている受話器用カールコードやモジュラープラグで差し込まれているラインコードを強く引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。
- 本装置を清掃するときは、揮発性のあるシンナーやアルコール及びシリコン系クリーナなどの使用は絶対にさけてください、変色、変形の原因になることがあります。水を含んだ布をかたく絞って拭いた後、柔らかい布でからぶきしてください。

はじめに

■ 本書の目的

本書は、ＩＭシリーズシステムのビジネスホン機能に焦点をあて、ＩＭシリーズの端末装置（電話機）の操作方法を説明しています。
本書で主に説明の対象としている電話機は「ＩＭ３０「 」電話機」です。
また、巻末には電話機（ＩＭ ３０「 」電話機）の操作が一目で確認できるように「操作早見表」をご用意しました。切り取り線で切り取り、電話機利用者の方々にコピー / 配布してご利用になると便利です。

■ 対象読者

本書の対象読者として、以下の方を想定しています。

- ＩＭシリーズのシステム管理者（お客様）
- ＩＭシリーズの端末装置（電話機）の利用者

システム管理者だけが行える操作の場合には、その旨を記載しています。

メモ ＩＭシリーズは専用線機能を有しておりません。本書および電話機のディスプレイのメニューの中で専用線という記述がある機能については、提供することができませんので、予めご了承ください。

■ 本書の構成

第１章　お使いになる前に	
	ＩＭ シリーズシステム（主装置）および端末装置（電話機）をご利用いただく上で必要な各部の名称や電話機のディスプレイの見方など、予備知識を説明しています。
第２章　電話の基本的な使い方	
	電話のかけ方、受け方、保留して転送する方法など、電話機の基本的な操作方法を説明しています。
第３章　ディスプレイのメニューの使い方	
	電話機のディスプレイのメニューを利用して電話帳や履歴などを操作する方法、メニューを使って電話機に機能を登録する方法などを説明しています。
第４章　電話の便利な使い方	
	夜間や留守中など電話に出られない場合に便利な機能など、知っておくと便利な機能を説明しています。
第５章　電話機の調整	
	電話機を快適にお使いいただくために必要な日時や角度や音量など、電話機の調節のしかたを説明しています。
第６章　さらに活用したいとき	
	周辺機器と接続している場合の操作、ＩＭ ３０「 」電話機以外の電話機（アナログ単独電話機、PHS、無線 LAN デュアル端末など）を使用する場合の留意点について説明しています。
付録	
	電話に登録できる機能の一覧、用語解説などを掲載しています。
操作早見表	
	電話機（ＩＭ ３０「 」電話機）の操作が一目で確認できます。切り取れるようになっていますので、必要に応じて切り取り線で切り取り、必要な部数をコピーして端末装置（電話機）の利用者の方々に配布してご利用ください。

目　次

表記の取り決め …… i

安全上のご注意 …… ii

はじめに …… v

本書の目的 …… v
対象読者 …… v
本書の構成 …… vi

第１章 お使いになる前に …… 1

1-1 ＩＭ シリーズの特長 …… 2

1-2 主装置について …… 3

添付品 …… 3
カバーの外し方 …… 4
ランプ表示 …… 5
電源をオンにする …… 6
電源をオフにする …… 7
停電について …… 8

1-3 電話機の各部の名称と説明 …… 9

ＩＭ３０「」電話機 …… 9

1-4 電話機のディスプレイの見方 …… 12

1-5 システム管理電話機と一般電話機 …… 13

第２章 電話の基本的な使い方 …… 15

2-1 電話をかける …… 16

外線にかける …… 16
外線が空いていないときは …… 18
内線にかける …… 19
音声で内線を呼び出す …… 20
ダイヤルしてから受話器を上げる …… 21
ハンズフリーで電話をかける …… 22
リダイヤルする …… 23
電話帳を使って電話をかける …… 24
履歴を使って電話をかける …… 25
短縮番号をダイヤルして電話をかける …… 26
ワンタッチで電話をかける …… 27

2-2 電話を受ける …… 28
外線を受ける …… 28
内線（着信音）を受ける …… 30
内線（音声呼出し）を受ける …… 30
内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける …… 31
特殊な着信音／着信ランプの電話を受ける …… 31
キャッチホンの電話を受ける …… 33

2-3 電話を保留する …… 34
他の電話機で取れるように保留する …… 34
他の電話機で取れないように保留する …… 35
グループの中だけで取れるように保留する …… 36

2-4 電話を取り次ぐ …… 37
保留したあと口頭で取り次ぐ …… 37
転送先の内線と話してから取り次ぐ …… 38
転送先の内線と話さずに取り次ぐ …… 39
かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する …… 40
かかってきた電話を外線に転送する（手動転送）…… 42

第3章 ディスプレイのメニューの使い方 …… 45

3-1 メニューを操作するためのキー …… 46

3-2 文字入力方法 …… 47
入力モードとキーの割り当て …… 47
文字入力モードの切替え …… 48
漢字の入力例 …… 49
カナの入力例 …… 50
文字入力の修正例 …… 51

3-3 メニュー項目について …… 52

3-4 パスワードを設定する …… 53
各電話機のパスワードを入力する …… 53
各電話機のパスワードを変更する …… 54
管理者用パスワードを入力する …… 55

3-5 内線の名前を登録する …… 57

3-6 電話帳を使う …… 59
電話帳に新規に登録する …… 59
電話帳にグループ名を登録する …… 62
電話帳を名前で検索する …… 63
電話帳をメモリ番号で検索する …… 64
電話帳をグループで検索する …… 65
電話帳の内容を修正する …… 66

電話帳から 1 件削除する …… 67
電話帳の内容をすべて消去する …… 68

3-7 履歴を使う …… 69

発信記録を表示する …… 69
着信記録を表示する …… 71
履歴を電話帳に登録する …… 73
履歴を 1 件ずつ削除する …… 74
履歴をすべて削除する …… 75

3-8 短縮ダイヤルを使う …… 76

相手の名前から短縮ダイヤルを検索する …… 76
メモリ番号（短縮番号）から相手の名前を検索する …… 78
短縮ダイヤルを登録する …… 79
短縮ダイヤルの登録をすべて消去する …… 82

3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける …… 83

フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける …… 83
フレキシブルキーに短縮キーを割り付ける …… 85
フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける …… 86
フレキシブルキーに内線 DSS を割り付ける …… 88
フレキシブルキーの割付けをクリアする …… 90

3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する …… 91

第４章 電話の便利な使い方 …… 93

4-1 指定した外線を別の外線へ転送する（自動転送）……94

転送電話を有効にする／解除する …… 94
転送する回線と転送先の外線を指定する …… 95

4-2 不在時に他の電話へ転送する …… 97

不在転送を有効にする／解除する …… 98
かかってきた電話の転送先を設定する …… 99
かかってきた相手によって転送先を設定する …… 101

4-3 夜間モードに切り替える …… 104

昼／夜モードを切り替える …… 104
昼夜の着信音を設定する …… 105

4-4 着信を 1 台の電話機で受ける …… 107

4-5 迷惑電話を拒否する …… 108

通話中の相手を着信拒否に設定する …… 108
着信記録から相手を選んで着信拒否に設定する …… 109
着信拒否の電話番号を登録する …… 110
着信拒否の電話番号を削除する …… 112
迷惑電話への対処方法を設定する …… 114

4-6 3人以上で通話する …… 115
社内の人を口頭で呼びかけて会議通話に加える …… 115
社内外で会議通話をする …… 117

4-7 内線をもっと活用する …… 118
不在時にかかってきた内線の相手にメッセージを送る …… 119
転送先の内線から転送指示をする …… 121
グループ内の電話を一斉に音声で呼び出す …… 122
グループ内の一斉音声呼出しを受ける …… 123
他のグループを呼び出す …… 124
グループ内の電話に代理で応答する …… 125
他グループの電話に代理で応答する …… 126
話し中の内線を呼び出す …… 127
話し中の内線を予約する …… 128
話し中の内線の近くの内線を呼び出す …… 129

4-8 回線の数を制限する …… 130

4-9 外出時に便利な機能 …… 132
外出先から転送電話の設定などを変更する …… 132
無線 LAN デュアル端末を社内で内線として使用する …… 134

4-10 その他の便利な機能 …… 135
ｉ・ナンバー機能を利用する …… 135
INS ボイスワープを利用する …… 135
プッシュホン信号を送る …… 139

第５章 電話機の調整 …… 141

5-1 ファンクションカードを取り替える …… 142
取り外し方 …… 142
取り付け方 …… 143

5-2 電話機の角度を変える …… 144
角度を大きくする …… 144
角度を元に戻す …… 145

5-3 ディスプレイの角度を変える …… 146

5-4 電話機を壁に取り付ける …… 147

5-5 日付・時刻を合わせる …… 149
日付を合わせる …… 149
時刻を合わせる …… 151

5-6 着信音の音色を選択する …… 153
電話機の音源を使って着信音の音色を変える …… 153
主装置の音源を使って着信音の音色を変える …… 154

5-7 音量を調節する …… 155
着信音量を調節する …… 155
受話音量を調節する …… 156
送話音量を調整する …… 157
マイク音量を調整する …… 159
キータッチ音のオン／オフを切り替える …… 160
「マイ e おと」の設定を調整する …… 161

5-8 ディスプレイ表示を調節する …… 162
ディスプレイのバックライトの色を選択する …… 162
バックライトタイマを調節する …… 163
ディスプレイの濃度を調節する …… 164

5-9 ハンドセット／ハンズフリー／ヘッドセットを切り替える …… 165

第6章 さらに活用したいとき …… 167

6-1 周辺機器との接続 …… 168
構内放送装置との接続 …… 168
ドアホンとの接続 …… 170

6-2 アナログ単独電話機の操作 …… 172
アナログ単独電話機で利用可能なサービス機能 …… 172
アナログ単独電話機に特有な操作手順 …… 172

6-3 PHS の操作 …… 176
PHS に特有な機能の紹介 …… 176
PHS で利用可能なサービス機能 …… 177
PHS 端末に特有な操作手順 …… 177

6-4 無線 LAN デュアル端末について …… 180

付録 …… 183

フレキシブルキー機能一覧 …… 184

用語解説 …… 186

故障かな？とお考えになる前に …… 192

操作早見表 …… 193

索引 …… 199

第１章 お使いになる前に

1-1 ＩＭ シリーズの特長 …… 2
1-2 主装置について …… 3
1-3 電話機の各部の名称と説明 …… 9
1-4 電話機のディスプレイの見方 …… 12
1-5 システム管理電話機と一般電話機 …… 13

1-1 ＩＭシリーズの特長

ＩＭ シリーズは、オフィスの規模や業務に合わせて、多彩なオプションから構築できるビジネスシステムです。以下のような特長があります。

● フル IP 対応

- IP 公衆電話直収機能を内蔵しているため、設備を増設することなく、IP 外線の使用を可能にします。通信コストの低減に役立ちます。

● モバイル対応

- 無線 LAN デュアル端末を、外出先では携帯電話、社内では内線電話として利用できます。社内も外出先も 1 台の端末で通話可能となり、社内用・外出用で複数の端末を使い分けるわずらわしさを解消します。
- 無線 LAN デュアル端末で社内から社外へ発信するときは、一般電話網が使用されるため、携帯電話としての通話料金が大幅に削減できます。
- 社内から無線 LAN デュアル端末へ発信するときは、相手が社内にいる場合は内線として接続され、外出先にいる場合は携帯電話網経由で接続されます。

※無線 LAN デュアル端末とは、無線 LAN と携帯電話網を利用できる電話機です。ＩＭ シリーズでは、この電話機を無線 LAN 圏内では内線、無線 LAN 圏外では携帯電話として使用できます。

● 新型デジタル多機能電話機：ＩＭ ３０「 」電話機

ＩＭ シリーズ用新型デジタル多機能電話機として、ＩＭ ３０「 」電話機を提供します。

- 2 色バックライト付き大型ディスプレイで視認性が向上しています。さらに、ディスプレイは使い方にあわせて角度調整が可能です。
-「マイ e おと」機能の搭載で、相手端末や回線種別を問わず、相手の声をクリアに聞き取ることができます。
- パスワードによる保護機能により、電話帳などの個人情報の漏洩を防止することが可能です。

● 充実の電話機能

- ワンタッチダイヤル・電話帳・着信音などの設定を、電話機から簡単に操作できます。
- 使い方に応じた多彩な転送機能があります。
- 携帯電話へ発信する際、自動的に事業者識別番号「００ｘｘ」を付与するため、特別な操作なしに通信コストの低減化を図れます。
- 識別着信（発信番号を識別して、予め設定された内線番号に着信または着信拒否）が可能です。
- メロディ識別着信（かけてくる相手ごとに着信音を設定）が可能です。
- ハンズフリー通話が可能です。

● 低廉な構内 PHS システム

- UM7588 のファンクションボタンを活用した機能や、ボタンの組み合わせで各種機能を登録できるラインキーとしての機能を提供します。

● 本格的なソフトフォン（Com @ WILL ソフトフォン®）の導入と CTI 連携

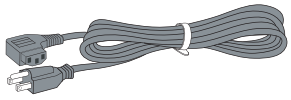
- ソフトフォンの導入により、小規模な CTI システムで一般的な PC 接続型専用電話機が不要になるため、安価にシステム構築が可能です。
- Com@WILL ソフトフォン（別売）により、4 者間の TV 会議が開催できます。さらに参加者間で資料を共有してビジネスコミュニケーションを効率化できます。

1-2 主装置について

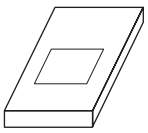
ここでは、主装置（ＩＭシリーズ）について説明します。

■ 添付品

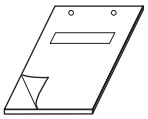
電源コード
1本



使用説明書（本書）
1冊



マイバンク & QA 登録票
（保証書含む）
1冊

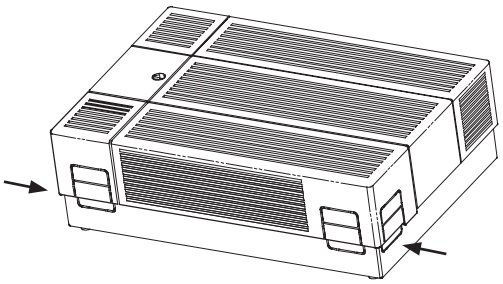


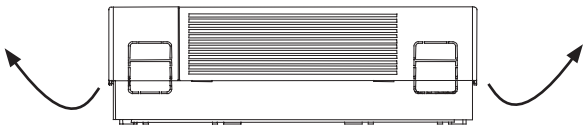
メモ　電話機の付属品については、電話機に付属のマニュアルを参照してください。

■ カバーの外し方

主装置の状態を表す各種ランプは、カバーを外すと確認することができます。また、電源をオフにするときは、SHUT スイッチを押すためにカバーを外す必要があります。カバーは以下の手順で外します。

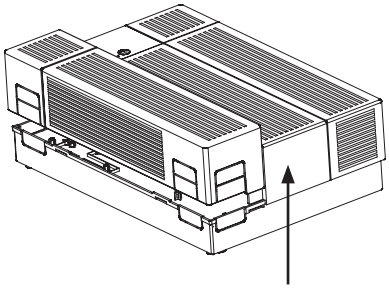
1



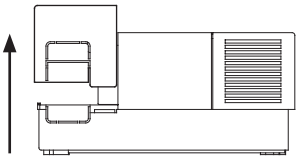


両側のツメに指を引っかけ広げる。

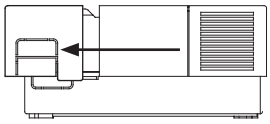
2



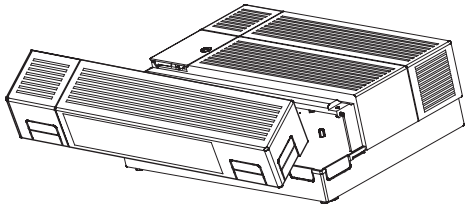
そのまま真っすぐ上に上げる



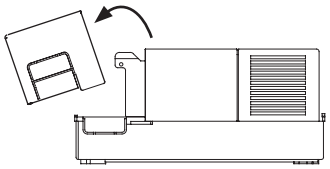
※この方向では外れないようになっています。



3



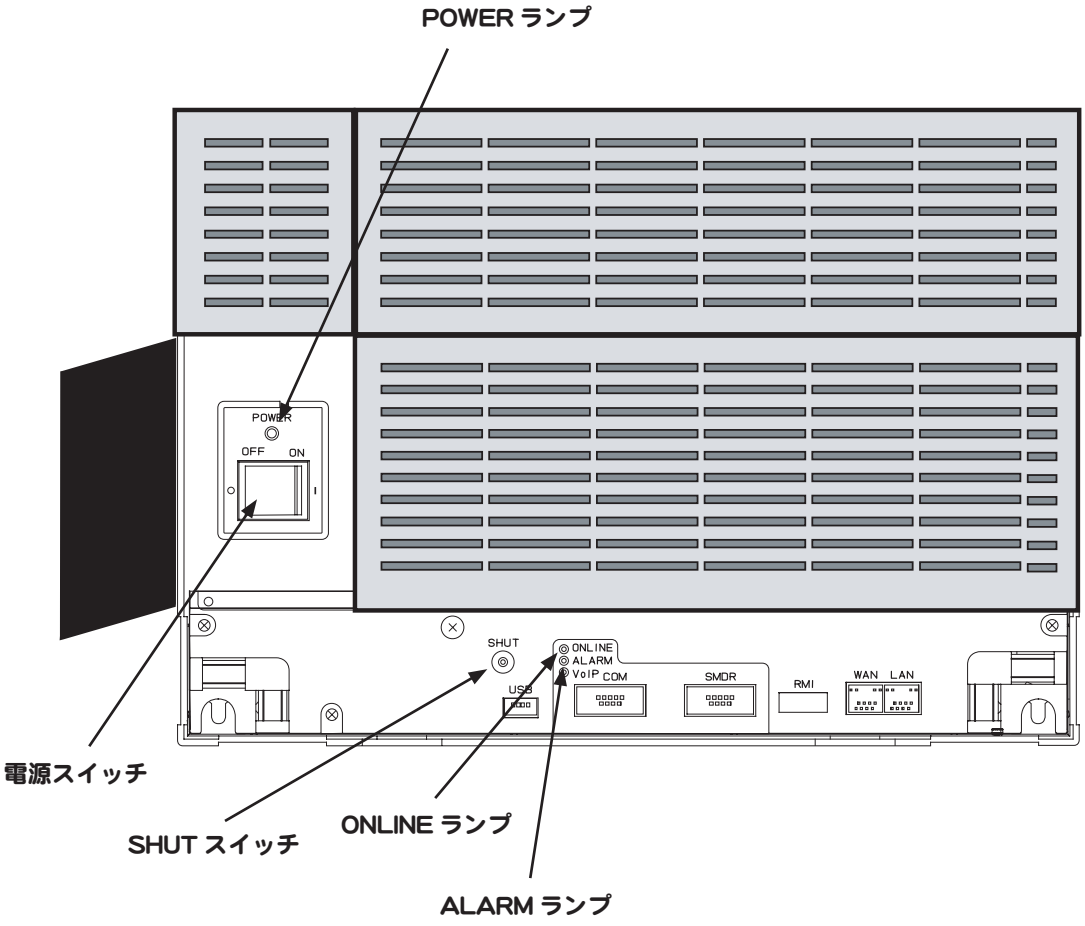
取り外す



■ ランプ表示

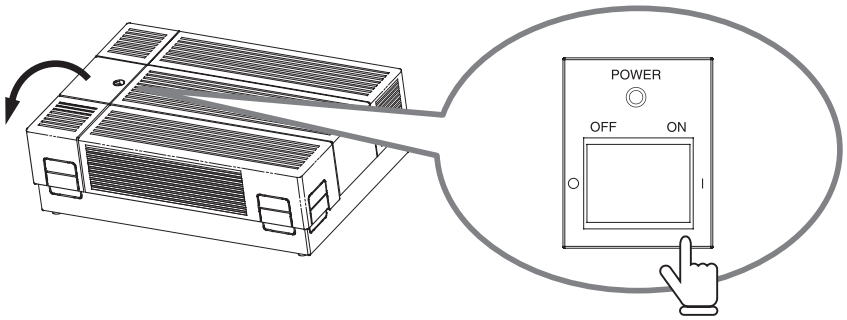
主装置の状態を表しているのは以下の３つのランプです。
各ランプの表示状態と装置の状態との対応を下表に示します。

ランプ名	表示状態	装置の状態
POWER ランプ	緑点灯	電源オン
	消灯	電源オフ
ONLINE ランプ	緑点灯	オンライン動作中
	オレンジ点灯	・シャットダウン中（電源オフ時） ・起動中　など
	消灯	・シャットダウン完了 ・電源オフして良い状態　など
ALARM ランプ	赤点灯	障害あり
	消灯	正常動作中



■ 電源をオンにする

主装置の電源を入れるには、スイッチカバーを開けて、電源スイッチをオンにします。



電源スイッチをオンにしてから、主装置の動作が開始するまでの様子を示します。

電源をオンにしてから主装置が動作するまでの流れ

1 電源スイッチをオンにする

↓

2 POWER ランプが点灯する

↓

3 ONLINE ランプがオレンジ点灯を開始する

↓

4 ONLINE ランプが緑点灯する

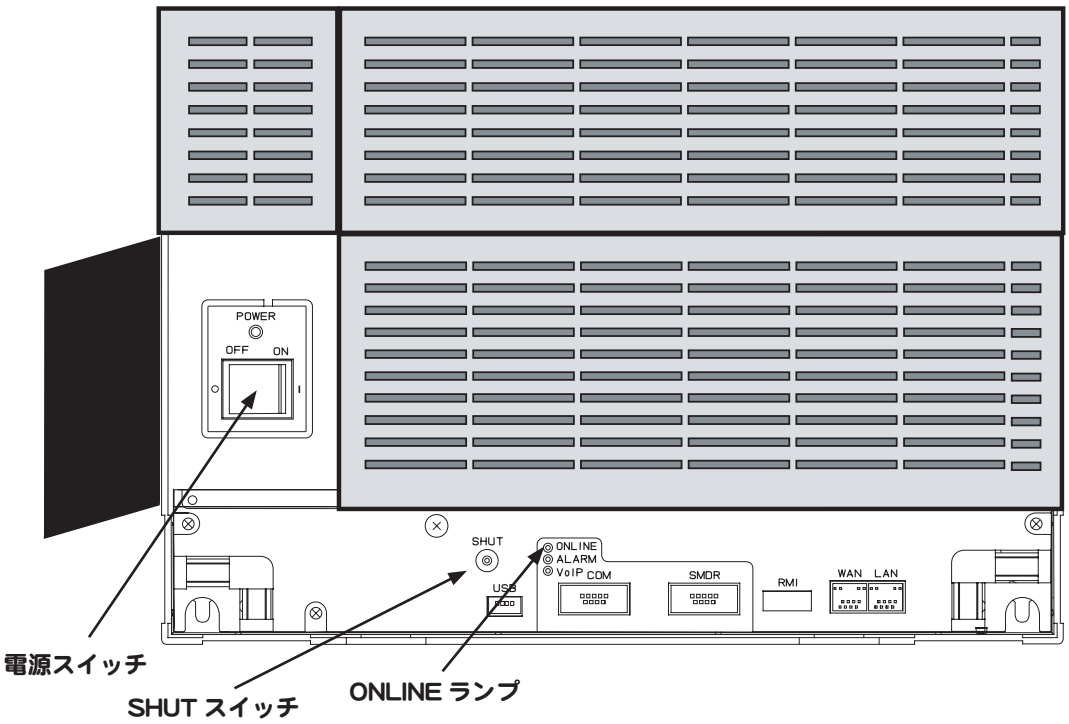
↓ 十数秒後

5 主装置が動作を開始する

メモ 10 分程度放置しても、ONLINE ランプが点灯しない場合は、ROM、RAM または LED の故障が考えられます。販売店にご相談ください。

■ 電源をオフにする

主装置の電源をオフにしてシステムを停止させるときは、その前に SHUT スイッチを押してシャットダウン処理を行なう必要があります。SHUT スイッチを押したあと、必ず ONLINE ランプの消灯を確認してから電源スイッチをオフにします。



電源をオフにするまでの流れ

1 SHUT スイッチを 1 秒以上押す

↓

2 ONLINE ランプがオレンジ点灯を開始する

↓ 約2分後

3 ONLINE ランプが消灯する

↓

4 電源スイッチをオフにする

シャットダウン処理

メモ **電源スイッチをオフにするのは、必ず ONLINE ランプが消えてからにしてください。**
シャットダウン処理は、各種設定データ（局データや IP アドレスなど）、障害情報などの最新情報を FLASH メモリに格納する処理です。
ONLINE ランプが点灯中（シャットダウン処理中）に電源をオフにすると、FLASH メモリの内容が破壊され、最悪の場合は次回電源スイッチをオンにしても正常に立ち上がらなくなる可能性があります。

■ 停電について

■ 停電中に一定時間電話の機能を維持する

オプションのバッテリーを接続すると、停電中でも一定時間は電話をかけたり、受けたりできます。通常の使用状態では標準バッテリーで約 10 分、電話の機能を維持することができます。

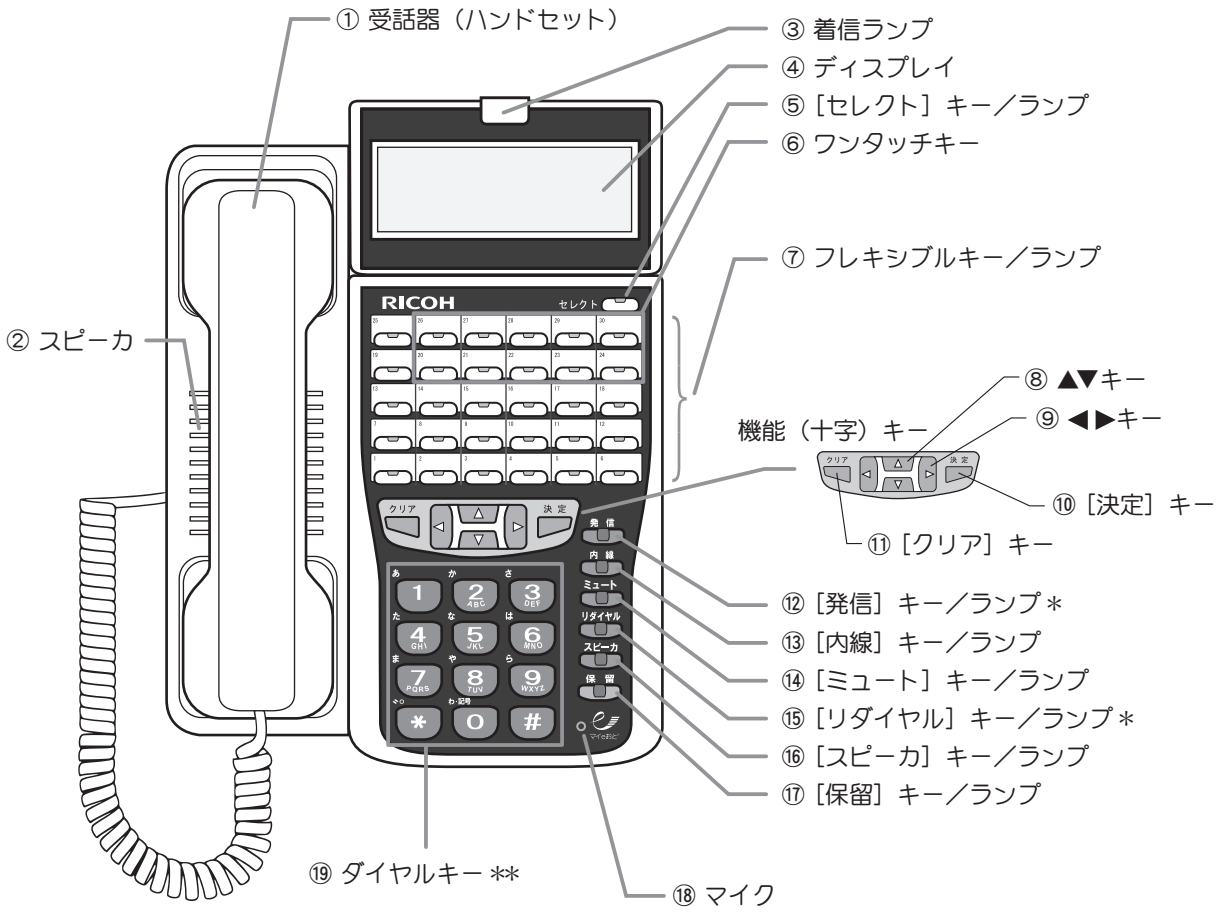
■ 停電対応の電話機について

停電時は、停電対応の電話機を接続することにより、通常通り電話をかけたり受けたりできます。
停電対応の電話機としてアナログ回線用とデジタル回線用の電話機を用意しています。

メモ 停電の対策は、販売店にご相談ください。

1-3 電話機の各部の名称と説明

■ IM30「」電話機



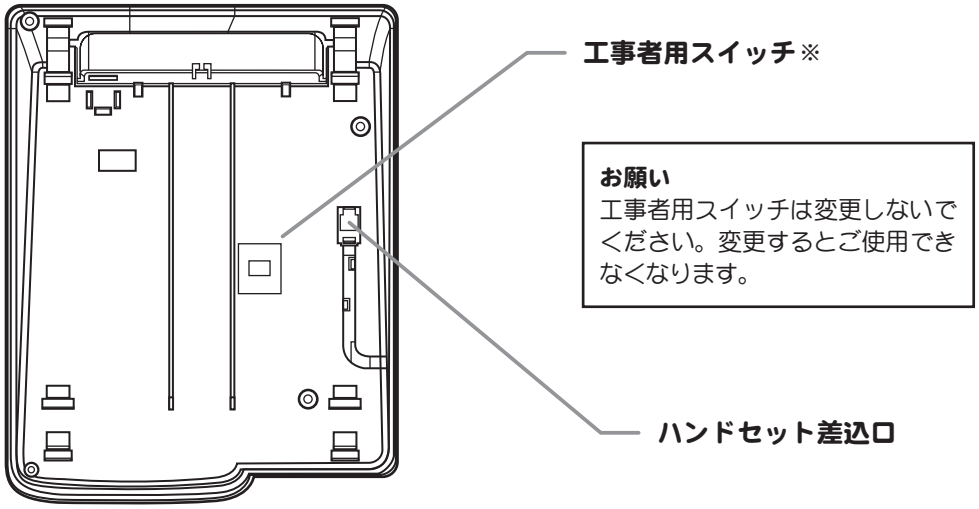
＊［発信］キーと［リダイヤル］キーは、フレキシブルキーとして使用することができます。

＊＊ ダイヤルキーの斜め上に記載されている「あ」「か」などの小さな文字は、ダイヤルキーで文字を入力するときに、各キーに割り当てられている文字（「あ行」「か行」…）を表しています。

名称	説明
① 受話器（ハンドセット）	こちらの声を伝えたり、相手の声を聞くときに使います。
② スピーカ	着信音を聞いたり受話器を取らずに相手の声を聞くことができます。
③ 着信ランプ	個別着信時に点滅します。（グループ着信時は、グループを割り当てたフレキシブルキーが点滅します）
④ ディスプレイ	電話機を使うための操作案内や、登録・設定画面などを表示します。
⑤［セレクト］キー／ランプ	ワンタッチキーに登録された 2 つの番号の切替えに使用します。
⑥ ワンタッチキー	特番・内線・外線番号を登録し、ワンタッチで発信できます。
⑦ フレキシブルキー／ランプ	様々な機能を割り当てて使えます。たとえば、外線キーとして設定すると、回線の使用状況を色で判別でき、発信や着信応答にも使用できます。
⑧ ▲▼キー	受話音量など電話機の音量を調節できます。 ▼キーを押すと、電話帳検索画面を表示します。 ディスプレイにメニューを表示しているときは、カーソルを移動して項目を選択するために使います。
⑨ ◀▶キー	直前の発信記録、着信記録を表示します。 また、文字入力時、カーソルを移動するときに使用します。
⑩［決定］キー	ディスプレイに電話帳や短縮ダイヤルなど各種設定を行うメニューを表示します。また、設定の登録／変更の決定に使います。
⑪［クリア］キー	ディスプレイのメニューで設定した内容を無効にしたり、メニューを終了するときに使います。
⑫［発信］キー／ランプ	キーに割り付けた回線を使って発信できます。
⑬［内線］キー／ランプ	内線着信時に点滅、内線通話時に点灯します。また、通話中のダイヤル転送や、内線の保留に使用します。
⑭［ミュート］キー／ランプ	通話中の送話オン／オフ切替えに使用します。
⑮［リダイヤル］キー／ランプ	前回発信した番号へワンタッチで発信できます。
⑯［スピーカ］キー／ランプ	スピーカ受話とハンドセット通話のオン／オフ切替えに使用します。
⑰［保留］キー／ランプ	通話中に外線や内線を保留するときに使います。
⑱ マイク	ハンズフリーで通話するときに使います。
⑲ ダイヤルキー	電話をかけたり、登録や設定のときに使います。

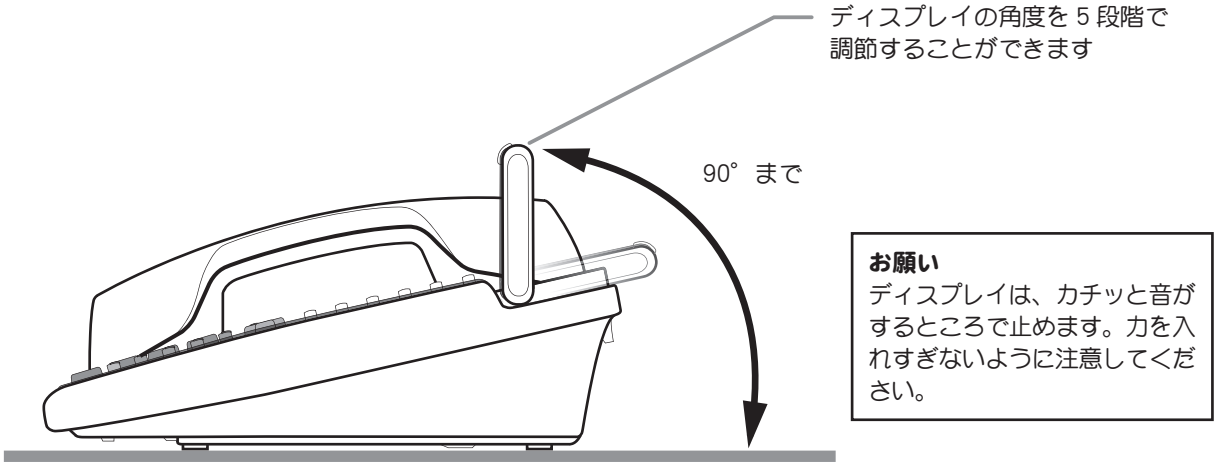
■ 底面

下記はチルト台をはずした底面の図です。

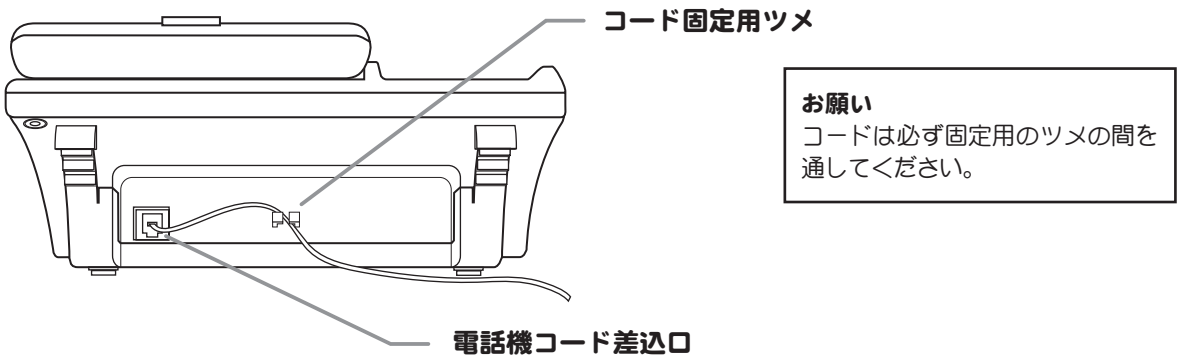


※ 工事者用スイッチがあるのは、停電対応の電話機のみです。標準タイプの電話機にはありません。

■ 右側面



■ 背面

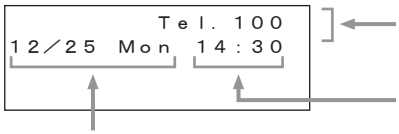


※ 上記は標準タイプの電話機の図です。停電対応の電話機では、コード差込口の位置などが異なります。

1-4 電話機のディスプレイの見方

ディスプレイの表示は電話の操作によって変化します。各状態で表示される項目について説明します。

●待受状態



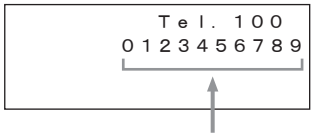
この電話の内線番号

時刻（12 時間制表示も選べます*）

月／日　曜日（曜日は漢字表示も選べます*）

●外線にかける

（1）発信中



ダイヤルした番号が表示されます

（2）通話中

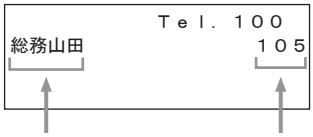
通話時間が表示されます

●内線にかける

（1）発信中

ダイヤルした番号が表示されます

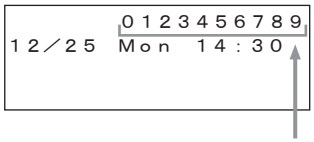
（2）通話中



相手の内線番号と名前**が表示されます

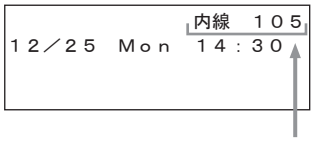
●外線から着信したとき

（相手が電話帳に登録されている場合）



相手の電話番号または名前が表示されます

●内線から着信したとき



相手の内線番号または名前**が表示されます

設定 * ：曜日の漢字表示と時刻の 12 時間制表示については、販売店にご相談ください。

** ：内線の名前は各電話機で設定します。詳しくは、p.57「3-5 内線の名前を登録する」を参照してください。

1-5 システム管理電話機と一般電話機

電話機は、工事設定により、システム管理者が使用する電話機とそれ以外の方が使用する電話機に分かれています。

- **システム管理電話機**
  システム共通の設定や、データの表示・変更ができます。

- **一般電話機**
  自分の電話機についての設定やデータの表示・変更ができます。

それぞれのタイプの電話機から行える機能は、あらかじめ決まっています。たとえば、システムで共通に使用する短縮ダイヤル番号は、システム管理電話機から登録できますが、一般電話機からは登録できません。
ただし、一般電話機に管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力することで、一時的にシステム管理電話機と同じ機能を持たせることができます。

第２章 電話の基本的な使い方

2-1 電話をかける ……16
2-2 電話を受ける ……28
2-3 電話を保留する ……34
2-4 電話を取り次ぐ ……37

2-1 電話をかける

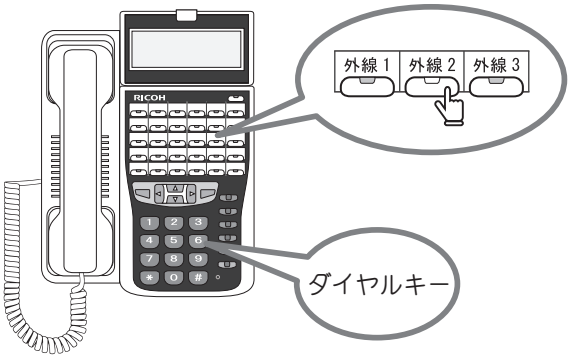
ここでは、外線、内線に電話をかけるときの基本的な操作について説明します。

電話をかける相手	説明箇所	
外線	外線にかける	p.16
	外線が空いていないときは	p.18
内線	内線にかける	p.19
	音声で内線を呼び出す	p.20
外線／内線	ダイヤルしてから受話器を上げる	p.21
	ハンズフリーで電話をかける	p.22
	リダイヤルする	p.23
	電話帳を使って電話をかける	p.24
	履歴を使って電話をかける	p.25
	短縮番号をダイヤルして電話をかける	p.26
	ワンタッチで電話をかける	p.27

➤➤ 電話のもっと応用的な使い方は「第4章　電話の便利な使い方」で紹介しています。

■ 外線にかける

受話器を上げてダイヤルします。一般的な外線のかけ方です。



1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 ランプが点灯していない外線キーを押す

- 使用中の外線キーのランプは赤点灯しています。
- 外線とつながり、発信音は「ツー」に変わります。
- 押したキーのランプは緑点灯します。他の電話機では、同じキーのランプは赤点灯します。

3 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

使用したキーのランプは消灯します。

IP回線通話時は、こちらが受話器を戻す前でも、相手が受話器を戻したときに、キーのランプが消灯します。

メモ

- 外線キーはフレキシブルキーです。あらかじめ割り当てておく必要があります。
- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 外線用のフレキシブルキーのランプがすべて点灯しているときは、外線がすべて使われています。ランプが消えるまでお待ちください。
- 外線がすべて使われている場合、発信が点灯しています。
- 使用したい外線が使われているとき、発信を予約をしておくことができます。この予約操作については、p.18「外線が空いていないときは」を参照してください。

外線に発信できるキー

- 外線キーの代わりに以下のキーを押して外線に発信することもできます。
  - 発信を押して、相手の電話番号をダイヤル
  - O を押して、相手の電話番号をダイヤル（ルート選択発信）
- 社内の部署ごとに応答／発信のためのキーを割り当てている場合は、各部署に割り当てられたキーの中で空いているキーを押して発信を行います。

例：営業部で

総務部で

部署ごとにキーを割り当てる方式の詳細については、p.28「2-2 電話を受ける」で説明しています。

設定 受話器を上げるだけで外線につながる設定

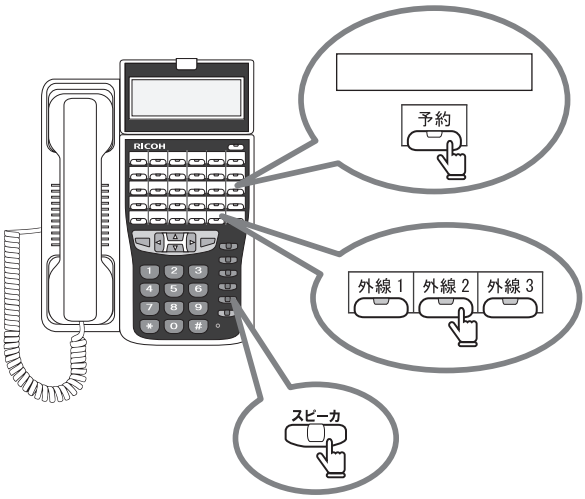
キーを何も押さずに、受話器を上げるだけで外線とつなぐようにすることができます。この設定は「オフフック外線自動捕捉」といいます。ご利用になるには販売店への相談が必要です。なお、この設定を行った場合は、内線にかける場合には、内線を押す必要があります。

■ 外線が空いていないときは

（トランクキャンプオン）

外線が空いていない場合の便利な機能を紹介します。
使用したい外線が使われているとき、この操作を行っておくと、その外線が空いたことを知らせる呼出し音が鳴ります。

➤➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに［予約］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



1 外線が空いていない状態で、［予約］キーを押す

2 使用したい外線キーを押す

3 スピーカを押す

・この状態で外線が空くのを待ちます。
・外線が空くと呼出し音が鳴ります。

4 呼出し音が鳴ったら受話器を上げる

5 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

6 通話が終了したら受話器を戻す

使用した外線ランプは消灯します。

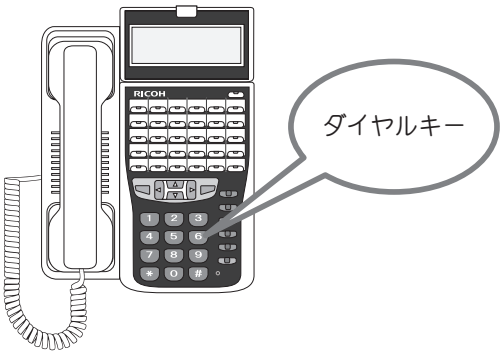
メモ

- 外線キーと［予約］キーはフレキシブルキーに割り当てられています。
- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）指定外線予約
予約

■ 内線にかける

受話器を上げてダイヤルします。一般的な内線のかけ方です。



メモ

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、操作手順 **1** の前に 内線 を押します。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 相手の内線番号をダイヤルする

相手の電話機で名前が登録されている場合は、ディスプレイに相手の所属や名前が表示されます。

```
          Tel. 105
総務山田        100
```

内線電話機の名前の登録方法については、p.57「3-5 内線の名前を登録する」を参照してください。

3 通話が終了したら受話器を戻す

こんな内線のかけ方もできる

- **ホットライン** 設定

  受話器を上げるだけで、登録されている内線に電話をかけることができます。

  この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

- **DSS キーを使う**

  DSS（Direct Station Selection）は、相手の内線をワンタッチのキー操作で呼び出せるようにした機能のことです。フレキシブルキーに割り付けて使用します。

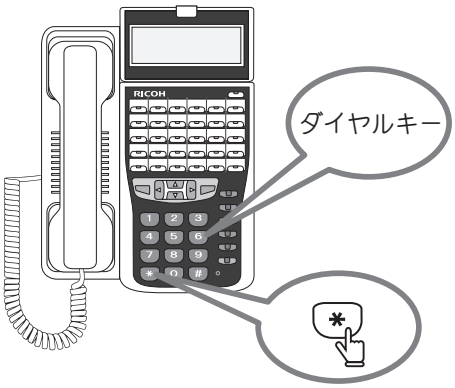
  DSS キーは、登録している相手の電話機が使用中のとき点灯するため、相手の電話機が使用中かどうか一目でわかります。

  フレキシブルキーに DSS 機能を登録するには、p.88「フレキシブルキーに内線 DSS を割り付ける」を参照してください。

■ 音声で内線を呼び出す

（内線音声呼出し）

内線では、電話機の着信音の代わりに、自分の声で相手を呼び出すことができます。



メモ

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、操作手順 **1** の前に 内線 を押します。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 内線番号をダイヤルする

受話器から「プルルー」と相手を呼び出す音が聞こえます。

3 (*)を押す

4 受話器に向かって、音声で相手を呼び出す

たとえば「田中さーん」と呼ぶと、相手の電話機のスピーカから、その音声が流れます。

相手が応答すると、通話ができます。

音声で呼び出された場合の応答方法については、以下を参照してください。

p.30「内線（音声呼出し）を受ける」
p.31「内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける」

5 通話が終了したら受話器を戻す

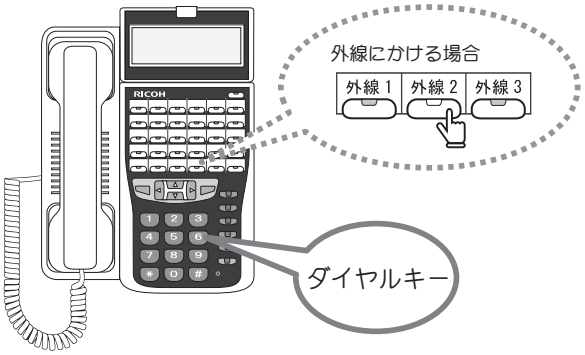
内線の活用方法

内線にはグループ全体を一斉に音声で呼び出したり、呼び出そうとした内線が通話中の場合、その近くの内線を呼び出すなどの便利な使い方があります。詳しくは、p.118「4-7 内線をもっと活用する」を参照してください。

■ ダイヤルしてから受話器を上げる 設定

（プリセットダイヤル）

携帯電話のように、電話番号をダイヤルしてから発信操作を行う方法です。内線にかけるときも外線にかけるときも、この方法を使うことができます。
この機能を利用するには、販売店にご相談ください。



メモ

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、内線にかけるときは、操作手順 2 の代わりに 内線 を押します。

1 相手の電話番号をダイヤルする

2 外線にかける場合は、ランプが点灯していない外線キーを押す

- 外線キーは、外線に発信するためのキーです。キー名称はお使いの電話機によって異なります。
- 外線キーの代わりに、発信 を押すこともできます。

3 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話する

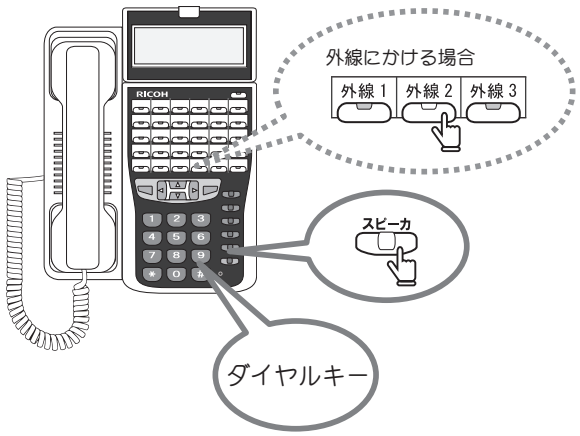
4 通話が終了したら受話器を戻す

手順 1 と手順 2 の順番を逆にしても電話をかけることができます。
その場合は、外線キーの代わりに O を押すこともできます。

■ ハンズフリーで電話をかける

受話器を上げずに電話をかけることができます。

➤➤ ハンズフリーで電話をかけるには、電話機の端末設定機能で、ハンズフリーの設定を行っておく必要があります。詳しくは、p.165「5-9 ハンドセット／ハンズフリー／ヘッドセットを切り替える」を参照してください。



メモ

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、内線にかけるときは、操作手順 **2** の代わりに 内線 を押します。

※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

1 スピーカ **を押す**

2 外線にかける場合はランプが点灯していない外線キーを押す

- 外線キーは、外線に発信するためのキーです。キー名称はお使いの電話機によって異なります。
- 外線キーの代わりに、発信 または O を押すこともできます。

3 相手の電話番号をダイヤルする

4 相手の応答する声が聞こえたら、通話する

同時に話した場合や周囲環境によっては、聞き取りにくい場合があります。

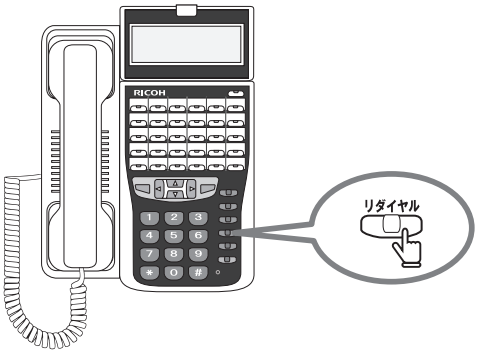
■ リダイヤルする

（リダイヤル）

最後にかけた電話番号にもう一度かける場合、リダイヤル機能を利用すると便利です。

設定 内線へリダイヤルするには、販売店にご相談ください。

>> 最後にかけた番号ではなく、もっと前にかけた番号にかけたい場合は履歴を利用できます。使い方は p.25「履歴を使って電話をかける」を参照してください。



1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

受話器を上げる操作は省略できます。その場合、リダイヤルを押すと、自動的にスピーカ状態になって発信します。

2 リダイヤルを押す

- 最後にかけた相手に自動的にダイヤルされます。
- ディスプレイには電話番号が表示されます。
- 外線の場合、あらかじめ外線キーを押しておくと、その外線を指定して発信することができます。

3 通話が終了したら受話器を戻す

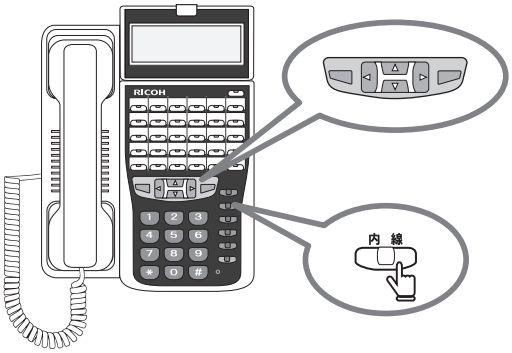
クイックリダイヤル

相手が話中だったのですぐかけ直したいという場合には、受話器を戻すことなく、リダイヤルを押すだけでリダイヤルすることができます。

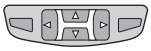
■ 電話帳を使って電話をかける

相手の電話番号が電話帳に登録されている場合は、電話帳を使って電話をかけることができます。

➤➤ 電話帳に電話番号を登録する方法については、p.59「3-6 電話帳を使う」を参照してください。



メモ

電話帳はディスプレイのメニューを使って表示します。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

1 電話帳から相手の情報を検索してディスプレイに表示する

電話帳から相手の情報を検索する方法は、下の「電話帳の表示方法」を参照してください。また、詳細な操作については以下を参照してください。

p.63「電話帳を名前で検索する」
p.64「電話帳をメモリ番号で検索する」
p.65「電話帳をグループで検索する」

<メモリ番号>　　No. 100
外線　　HN
0312345678
<鈴木一郎>

2 内線を押す

自動的にダイヤルされます。

3 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話する

4 通話が終了したら、受話器を戻す

電話帳の表示方法

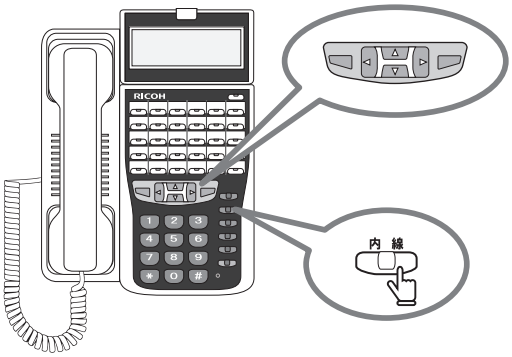
電話機が待受状態のときに、▽を押すと、電話帳検索画面が表示されます。

電話帳検索
1：名前検索
2：メモリ番号検索
3：グループ検索

※パスワードを設定している場合は、この画面が表示される前にパスワード入力画面が表示されます。
詳しい操作については、p.63「電話帳を名前で検索する」、p.64「電話帳をメモリ番号で検索する」または、p.65「電話帳をグループで検索する」を参照してください。

■ 履歴を使って電話をかける

これまでに発信 / 着信した番号（履歴）に電話をかけることができます。



メモ

履歴はディスプレイのメニューを使って表示します。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

1 履歴から相手の情報を検索してディスプレイに表示する

履歴から相手の情報を検索する方法は以下を参照してください。

p.69「発信記録を表示する」
p.71「着信記録を表示する」

```
発信記録                    01
  01／15  13：45  外線
        0312345678
鈴木一郎
```

2 内線 を押す

自動的にダイヤルされます。

3 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話する

4 通話が終了したら、受話器を戻す

履歴の表示方法

以下の操作で、直前の履歴を表示できます。

- 電話機が待受状態のときに ◁ を押す → 発信記録が表示される
- 電話機が待受状態のときに ▷ を押す → 着信記録が表示される

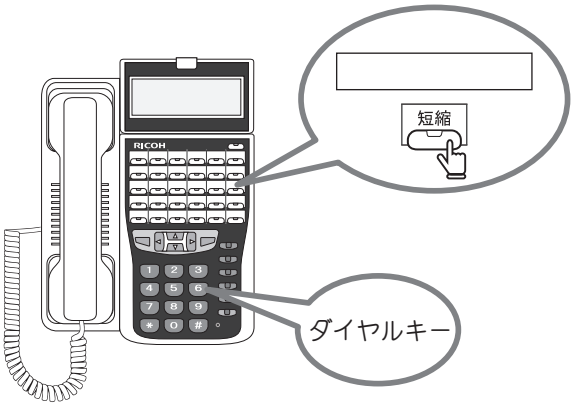
※パスワードを設定している場合は、この画面が表示される前にパスワード入力画面が表示されます。

最新の発信記録または着信記録を表示したあとは、▽ を押してもっと古い履歴を表示することもできます。

■ 短縮番号をダイヤルして電話をかける

相手の短縮番号を知っている場合は、この方法で電話をかけることができます。短縮番号には外線も内線も登録することができます。

➤➤ 短縮番号の登録はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力して行うことができます。短縮番号の登録方法については、p.79「短縮ダイヤルを登録する」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）短縮ダイヤル
短縮

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 短縮 を押す

ディスプレイに短縮番号の入力をうながすメッセージが表示されます。

```
Tel. 100
短 縮 No. :
```

3 短縮番号（たとえば“123”）をダイヤルする

- 電話番号を表示すると同時に、自動的にダイヤルされます。
- 相手が応答すると、通話ができます。

```
Tel. 100
短 縮 No. :123
```

↓

```
Tel. 100
1234567890
```

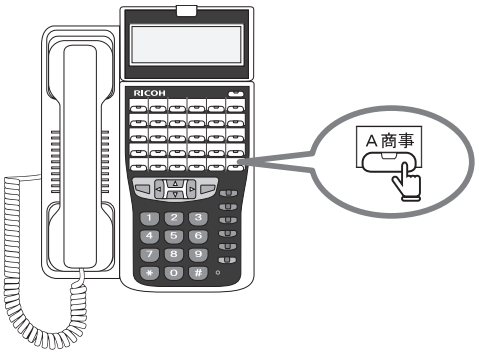
4 通話が終了したら受話器を戻す

➤➤ 登録されている短縮番号は、ディスプレイのメニューから検索して確認することができます。詳しくは p.76「3-8 短縮ダイヤルを使う」を参照してください。

■ ワンタッチで電話をかける

（オートダイヤル）
オートダイヤル機能を登録したフレキシブルキーや、オートダイヤル機能を持つワンタッチキーに電話番号を割り当てると、そのキーを押すだけで電話番号がダイヤルされます。オートダイヤルには外線も内線も登録することができます。

➤➤ フレキシブルキーにオートダイヤルを登録する方法については、p.83「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。ワンタッチキーに電話番号を割り当てる方法については、p.91「3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話番号を登録したフレキシブルキーやワンタッチキーには、相手先の名称を書いておくと便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 オートダイヤルキーやワンタッチキー（たとえば A商事 ）を押す

- 電話番号がダイヤルされます。
- 相手が応答すると通話ができます。

3 通話が終了したら受話器を戻す

使用した外線ランプは消灯します。

2-2 電話を受ける

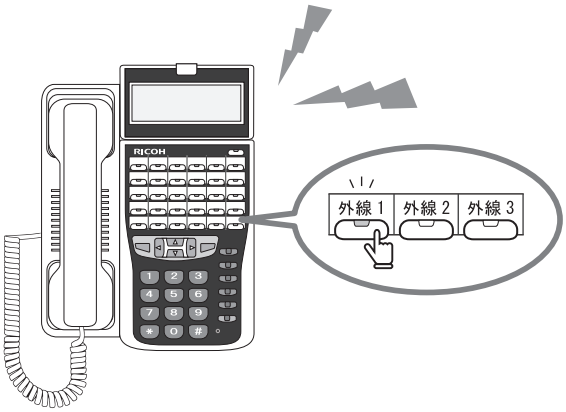
ここでは、外線や内線からの電話を受ける方法を説明します。
外線と内線は、点灯するランプや着信音で区別することができます。以下の表を参考にしてどこからの電話かを判断して各説明をお読みください。

電話機から聞こえる音	説明箇所	
外線着信音が鳴り、かかってきた回線のキーが赤点滅する	外線を受ける	p.28
内線着信音が鳴る	内線（着信音）を受ける	p.30
スピーカーから人の声がする	内線（音声呼出し）を受ける	p.30
	内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける	p.31
外線着信音、内線着信音でもない着信音がする	特殊な着信音／着信ランプの電話を受ける	p.31
話中に「プップッ プップッ」という音がする	キャッチホンの電話を受ける	p.33

■ 外線を受ける

（任意外線応答）

外線から電話がかかってくると外線着信音が鳴り、かかってきた外線キーのランプが赤点滅します。外線着信音は、お使いの電話機の設定によって異なる場合があります。



メモ

- 外線キーはフレキシブルキーです。あらかじめ割り当てておく必要があります。
- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 外線自動応答が設定されている電話機では、受話器を上げるだけで相手と通話できます。

  設定 電話機の設定については、販売店にご相談ください。

1 着信音が鳴ったら、受話器を上げる

2 点滅している外線キーを押す

- 通話ができる状態になります。
- 外線ランプは、赤点灯から緑点灯に変わります。

着信方式が DGL モード（次ページの説明参照）の場合は、通話中、再度着信があると同じランプが点滅し、他の電話機で応答できます。

3 相手と通話する

4 通話が終了したら受話器を戻す

使用した外線ランプは消灯します。

IP 回線通話時は、こちらが受話器を戻す前でも、相手が受話器を戻したときに、外線ランプが消灯します。

設定 着信方式について

※以下の機能をご利用になる場合はデータ設定が必要になります。
販売店にお問い合わせください

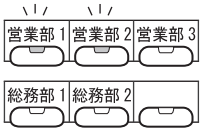
内線を任意のグループ（部署）に分け、それぞれのグループの応答キーを設定できます。ダイヤルイン番号の着信先を応答キーに割り当てておけば、どこのグループへの着信か一目でわかるうえ、そのキーを押すと応答もできます。

- **DGL（ダイレクトグループライン）モード**

  グループに着信があると、割り当てられた応答キーのランプが点滅します。通話中に再度着信しても同じランプが点滅し、グループ内の他の電話機で応答できます。

- **MSA（マルチステーションアクセス）モード**

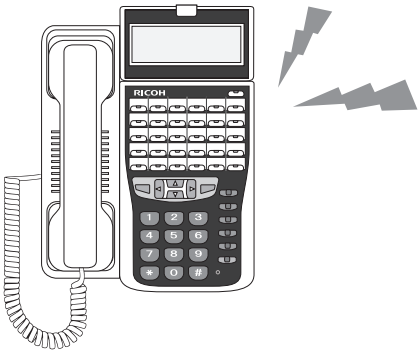
  グループに着信があると、割り当てられた複数の応答キーのうち、空いているキーのランプが点滅します。発信や保留も同じキーで行えます。また、電話機操作によって応答キーごとの着信規制 / 解除ができます。操作方法については、p.130「4-8 回線の数を制限する」を参照してください。



  この機能が設定されている場合は、自部門に割り当てられた外線キーを押して発信／応答を行います。マルチステーションアクセスでは、割り当てたキーごとに契約した番号を発信番号として通知する機能があります。

■ 内線（着信音）を受ける

内線は、着信音でかかってくる場合と、音声呼出しでかかってくる場合があります。ここでは、内線着信音が鳴った場合の内線の受け方を説明します。内線着信音は、お使いの電話機の設定によって異なる場合があります。



1 着信音が鳴ったら、受話器を上げる

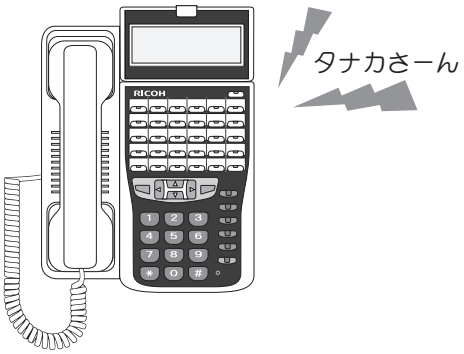
通話ができる状態になります。

2 相手と通話する

3 通話が終了したら受話器を戻す

■ 内線（音声呼出し）を受ける

スピーカから音声が聞こえて呼び出されたときは、次のように操作します。



1 スピーカから音声が聞こえたら、受話器を上げる

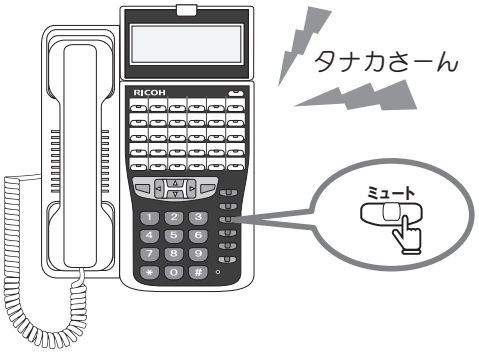
通話ができる状態になります。

2 相手と通話する

3 通話が終了したら受話器を戻す

■ 内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける

スピーカから音声が聞こえて呼び出されたときは、受話器を上げずにマイクに向かって話すことでも通話できます。



1 スピーカから音声が聞こえたら、受話器を上げずにミュートを押す

・ミュートランプが消灯します。
・通話ができる状態になります。

2 マイクに向かって話す

3 通話が終了したらスピーカを２回押す

このランプの表示は、電話機の内線ハンズフリー応答がオフの場合のものです。
音声呼び出しを受けると、ミュートが点灯します。（この状態では通話できません。）
ミュートを押すと、通話ができる状態になります。

内線ハンズフリー応答機能がオンの場合は、ミュートを押さずに通話ができます。

■ 特殊な着信音／着信ランプの電話を受ける

（DIL/ 付加番号 DID 着信）

普通の外線や内線とは違う着信音（たとえば「プルプルプル」）が鳴り、着信ランプが表示されるのは、以下の着信があった場合です。

- DIL（ダイレクトインライン）
- 夜間ダイレクトインライン
- PBX ダイヤルイン
- 付加番号 DID

このような着信の場合は、受話器を上げるだけで通話ができる状態になります。
各着信方式については、次ページの説明を参照してください。また、着信音はお使いの電話機の設定によって異なる場合があります。

1 ディスプレイの表示を確認する

右上に「DIL nn」または「DID nn」と表示されます。（nn は外線番号）

2 受話器を上げる

通話ができる状態になります。

3 相手と通話する

4 通話が終了したら受話器を戻す

使用した外線ランプは消灯します。

➤➤ ドアホンから着信した場合は、上記とは異なる「ピンポーン」という着信音になります。ドアホンについては、p.168「6-1 周辺機器との接続」を参照してください。

着信方式について

- **DIL (Direct-In-Line) 方式**

  個別着信方式とも言います。

  外線ごとに着信させる内線を決めて使用する方式です。

- **PBX ダイヤルイン方式**

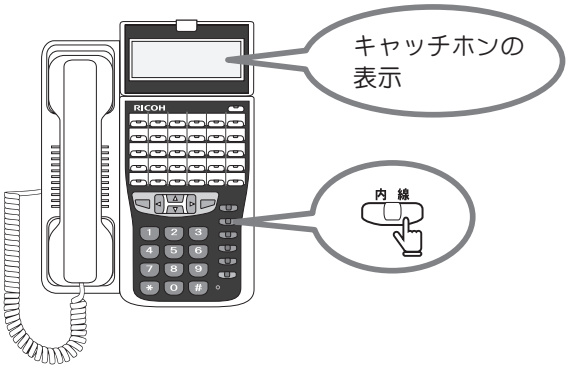
  利用する通信事業者とダイヤルイン契約を行うことで、電話回線の数よりも多くの電話番号（ダイヤルイン番号）を持つことができます。ダイヤルイン番号をそれぞれの内線に割り当てて、オフィス内の一人ひとりの電話機を呼び出すことができます。

- **付加番号 DID 方式**

  通信事業者とダイヤルイン契約を行わずに、オフィス内の一人ひとりの電話機を呼び出すことができます。DID 専用の代表番号をダイヤルし、音声メッセージに従って内線番号をダイヤルするだけで、目的の相手を直接呼び出せます。

■ キャッチホンの電話を受ける 設定

外線または内線と通話中に他の内線から着信があると、「キャッチホン」の信号が聞こえ、ディスプレイに「ＣＷＴ」と表示されます。通話中の相手を一時保留し、着信の相手と通話できます。
この機能を利用するには、販売店にご相談ください。



メモ

内線を押す操作を繰り返すことにより、２つの相手と交互に通話できます。

1 キャッチホンの信号が聞こえたら、ディスプレイの表示を確認する

ディスプレイの１段目に『ＣＷＴ（割り込み先内線）』と表示されます。

```
CWT  200
内線100
```

2 通話中の相手に保留することを伝え 内線 を押す

- かかってきた内線電話とつながります。
- 通話中だった相手には、保留音（メロディー）が聞こえます。
- 内線ランプが赤点滅します。

3 前の相手に戻るときは、 内線 を押す

4 通話が終了したら受話器を戻す

相手が受話器を戻すまでは、 内線 で繰返し相手を変えて通話できます。

2-3 電話を保留する

通話中の相手に一時お待ちいただく場合は、電話を保留にします。保留を解除すると通話を再開できます。保留には、それを解除できる電話機の範囲によって次の３種類があります。

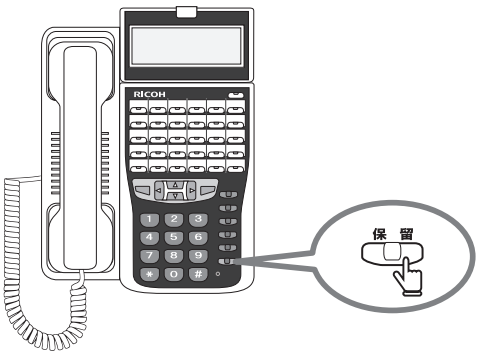
保留の種類	解除できる電話機	説明箇所	
保留	他の電話機すべて	他の電話機で取れるように保留する	p.34
自己保留	保留した電話機のみ	他の電話機で取れないように保留する	p.35
パーク保留	保留した電話機と同じグループの電話機のみ	グループの中だけで取れるように保留する	p.36

■ 他の電話機で取れるように保留する

（保留）

他の人に取り次ぐ場合や、自分が移動して他の電話機で通話を再開したいときなどは、この方法で保留します。

設定 内線を保留する場合は、フレキシブルキーに［パーク保留］キーを登録しておく必要があります。［パーク保留］キーの登録については、販売店にご相談ください。



1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 保留を押して、受話器を置く

- 受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。
- 外線を保留した場合は、保留した外線キーのランプはオレンジと緑で交互に点滅します。
  他の電話機では、該当する外線キーのランプ は緑点滅します。
- 内線を保留した場合は、［パーク保留］キーのランプがオレンジと緑で交互に点滅します。
  他の電話機では、該当する［パーク保留］キーのランプは緑点滅します。

3 再度通話するときは、以下のキーを押す

- 外線の場合：保留している外線キー
- 内線の場合：点滅している［パーク保留］キー

保留した電話機でも、他の電話機でも、通話を再開できます。

次ページに操作つづく

4 受話器を上げて通話する

5 通話が終了したら受話器を戻す

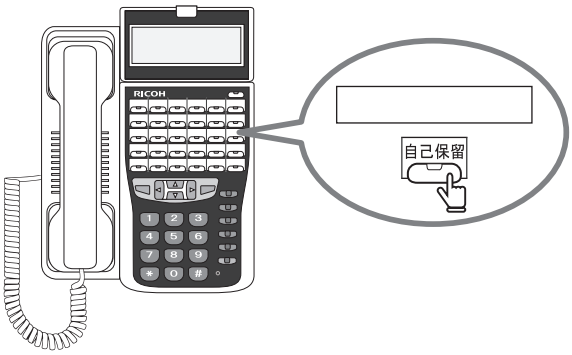
点灯していたランプは消灯します。

■ 他の電話機で取れないように保留する

（自己保留）

保留した電話機以外では、保留の解除ができないようにすることができます。
他の電話機から保留を解除されたくない場合にこの方法を使用します。

➤➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに［自己保留］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）保留
自己保留

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 自己保留 を押して、受話器を置く

- 受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。
- ［自己保留］キーのランプはオレンジと緑で交互に点滅します。
- 外線を保留した場合は、その外線ランプはオレンジと緑で交互に点滅します。

3 再度通話するときは、自己保留 を押す

他の電話機からは、保留を解除できません。

4 受話器を上げて通話する

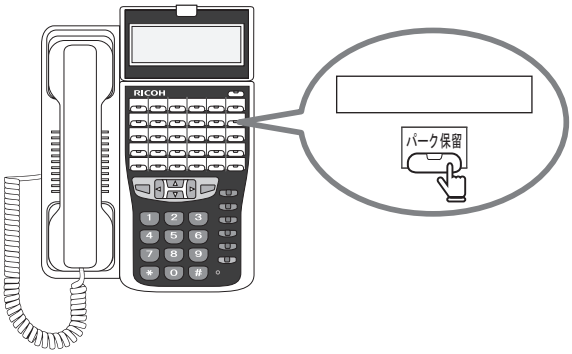
5 通話が終了したら受話器を戻す

点灯していたランプは消灯します。

■ グループの中だけで取れるように保留する 設定

（パーク保留）

目的に合わせてグループを設定し、そのグループ内の電話機で保留と解除ができるようにした機能です。グループの設定については販売店にご相談ください。また、この機能を利用する場合は、フレキシブルキーに［パーク保留］キーを登録しておく必要があります。［パーク保留］キーの登録についても、販売店にご相談ください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）グループ保留
パーク保留

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 パーク保留を押して、受話器を置く

- 受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。
- ［パーク保留］キーのランプはオレンジと緑で交互に点滅します。
- 外線を保留した場合は、その外線ランプは赤点灯します。

3 再度通話するときは、パーク保留を押す

グループ外の電話機からは、保留を解除できません。

4 受話器を上げて通話する

5 通話が終了したら受話器を戻す

点灯していたランプは消灯します。

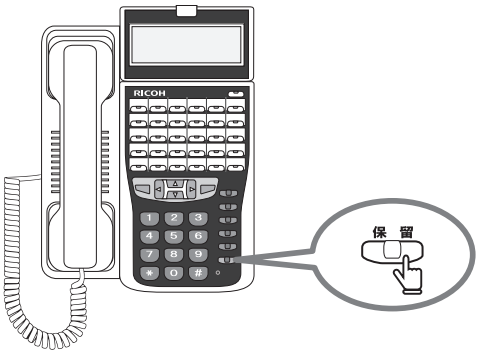
2-4 電話を取り次ぐ

外線からかかってきた電話を内線や外線に取り次ぐ方法を説明します。ここでは、以下の 4 つの取次ぎ方を説明します。

説明箇所	
保留したあと口頭で取り次ぐ	p.37
転送先の内線と話してから取り次ぐ	p.38
転送先の内線と話さずに取り次ぐ	p.39
かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する	p.40
かかってきた電話を外線に転送する（手動転送）	p.42

■ 保留したあと口頭で取り次ぐ

外線からの電話を受けたら、いったん通話を保留します。取り次ぐ人に口頭で伝えてその人に保留を解除してもらう方法です。



電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 保留を押して、受話器を戻す

- 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- 内線ランプは赤点灯します。
- 外線ランプはオレンジと緑が交互に点滅します。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 口頭で呼びかけて用件を伝える

例）「タナカさん。××さんから外線〇番にお電話です。」

転送される人の操作

1 受話器を上げて、赤点滅している外線キーを押す

- 通話ができる状態になります。
- 外線ランプは緑点灯に変わります。

2 つながった外線の相手と通話する

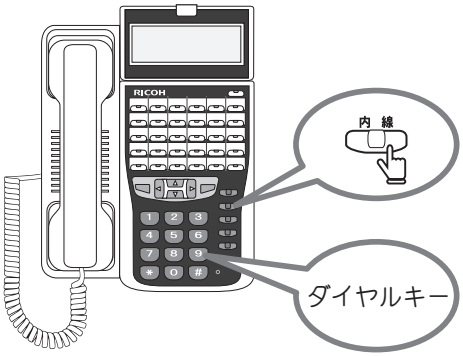
3 通話が終了したら受話器を戻す

点灯していたランプは消灯します。

■ 転送先の内線と話してから取り次ぐ

（ダイヤル転送）

外線からの電話を受けたら、それを内線に転送できます。その際、転送先の人と話をしてから外線と転送先をつなぐ方法です。



電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 内線を押す

- 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- 内線ランプは赤点滅します。
- 外線ランプは緑点灯のままです。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 転送先の内線番号をダイヤルする

短縮ダイヤル、オートダイヤルなども使えます。

4 転送先に用件を伝える

例）「××さんからのお電話を転送します。」

5 受話器を戻す

転送される人の操作

（内線着信音が鳴る）

1 受話器を上げて内線を受け、用件を聞く

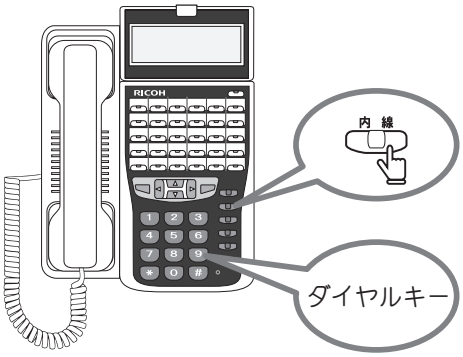
2 転送された外線につながるので、相手と通話する

3 通話が終了したら受話器を戻す

■ 転送先の内線と話さずに取り次ぐ

（キャンプオンリンギング）

外線からの電話を、内線で用件を伝えずにそのまま転送する方法です。



電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に、転送するため待っていただくよう伝える

たとえば、「担当部署にお回しますので、そちらでご確認お願いいたします。」

2 内線を押す

- 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- 内線ランプは赤点滅します。
- 外線ランプは緑点灯のままです。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 転送先の内線番号をダイヤルする

- 短縮ダイヤル、ワンタッチキーなども使えます。
- 内線の呼出し音を確認します。

4 受話器を戻す

転送される人の操作

（内線着信音が鳴る）

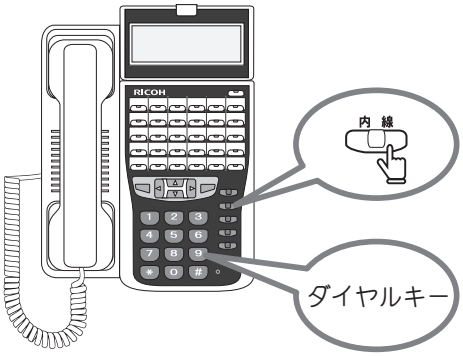
1 受話器を上げて、つながった外線の相手と通話する

2 通話が終了したら受話器を戻す

■ かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する

（チェンジオーバー）

電話をかけてきた人と、転送先の人と交互に通話することができます。



メモ

内線を押す操作を繰り返すことにより、2つの相手と交互に通話できます。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2 内線を押す

- 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- 内線ランプは赤点滅します。
- 外線ランプは緑点灯のままです。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 転送先の内線番号をダイヤルする

短縮ダイヤル、ワンタッチキーなども使えます。

（内線着信音が鳴る）

4 転送先に用件を伝える

例）「タナカさんに、××さんからお電話です。」

5 内線を押して、かかってきた相手と再び通話する

例）「申し訳ありません。タナカはただ今、席をはずしております。」

（保留音が聞こえている）

6 内線を押して、転送先との通話を再開して用件を伝える

- 以降も内線を押す操作を繰り返すことで、転送先とかかってきた相手と交互に通話ができます。
- 受話器を戻すと、かけてきた相手と転送先がつながります。

転送される人の操作

1 受話器を上げて用件を聞く

2 たとえば、発信元にどのような用件か聞いて欲しいと返答する

3 保留が解除され、内線がつながるので、用件を聞く

こんなこともできる

- **３人で会話**

  転送される人が［秘話／会議］キーを押すと、発信元と転送先との３者会議通話ができます。詳しくは、p.115「4-6 ３人以上で通話する」を参照してください。

- **２本の外線と交互に通話する**

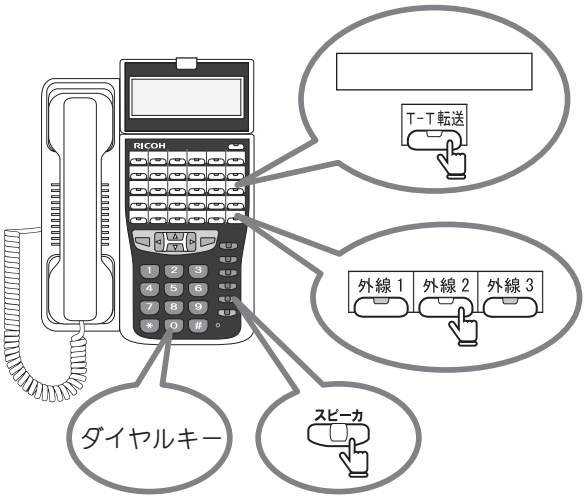
  外線から外線へ転送する際にも、内線を押す操作を繰り返すことにより、２つの相手と交互に通話できます。

  外線へ転送する方法については、p.42「かかってきた電話を外線に転送する（手動転送）」を参照

■ かかってきた電話を外線に転送する（手動転送）

かかってきた電話を、空いている外線を使って他の外線に転送することができます。

➤➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに［指定外線転送］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）指定外線転送
T-T転送

※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に、外線に転送するので待っていただくよう伝える

2 内線を押す

- 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- 内線ランプは赤点滅します。
- 外線ランプは緑点灯のままです。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 空いている外線キーを押す

ランプが点灯していない外線キーを押します。

4 転送先の電話番号をダイヤルする

短縮ダイヤル、オートダイヤルなども使えます。

5 転送先に用件を伝える

例）「××さんからのお電話を転送します。」

転送される人の操作

（転送先の電話機の着信音が鳴る）

1 受話器を上げて用件を聞く

次ページに操作つづく

6 T－T転送 **を押す**

・かかってきた相手と転送先が通話状態となります。
・使用中の外線ランプは赤点灯となります。

7 受話器を戻す

2 外線につながるので、相手と通話する

3 通話が終了したら受話器を戻す

自動転送もできる

席を離れるときなど、かかってきた電話をあらかじめ指定した電話に自動転送させることができます。

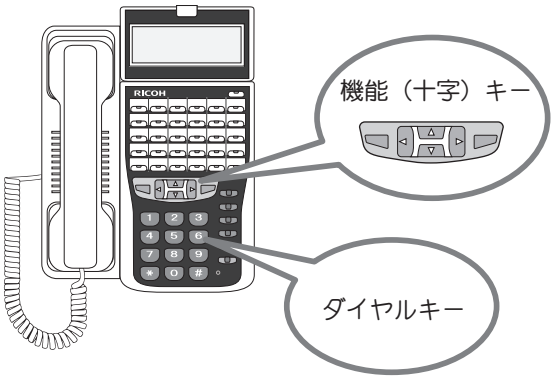
自動転送機能については、p.94「4-1 指定した外線を別の外線へ転送する（自動転送）」、p.97「4-2 不在時に他の電話へ転送する」を参照してください。

第3章 ディスプレイのメニューの使い方

3-1 メニューを操作するためのキー ……46
3-2 文字入力方法 ……47
3-3 メニュー項目について ……52
3-4 パスワードを設定する ……53
3-5 内線の名前を登録する ……57
3-6 電話帳を使う ……59
3-7 履歴を使う ……69
3-8 短縮ダイヤルを使う ……76
3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける ……83
3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する ……91

3-1 メニューを操作するためのキー

ディスプレイにメニューを表示して、電話帳や履歴を表示したり、短縮ダイヤルやフレキシブルキーを登録することなどができます。ここでは、ディスプレイのメニューを操作するためのキーについて説明します。
メニューを操作するときに使用するのは、機能（十字）キーとダイヤルキーです。

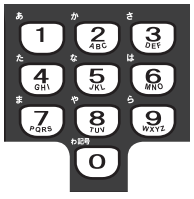


■ 機能（十字）キー

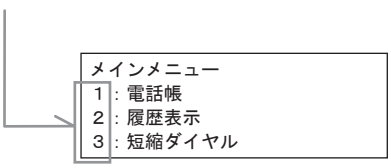
キー	操　作
決 定	・待受状態のとき、このキーを押すと、メインメニューが表示されます。（※） ・メニューで行った設定を決定するときに押します。
△	・待受状態のとき、このキーを押すと、電話機の音量やディスプレイの設定などを行う端末設定メニューが表示されます。 ・メニュー内の項目を選択するためにカーソルを移動するときに押します。
▽	・待受状態のとき、このキーを押すと、電話帳検索メニューが表示されます。（※） ・メニュー内の項目を選択するためにカーソルを移動するときに押します。 ・検索結果が複数ある場合、検索結果を順番に表示するときに押します。
◁	・待受状態のとき、このキーを押すと、直前の発信記録を表示します。（※） ・文字入力時、カーソルを移動させる場合に押します。
▷	・待受状態のとき、このキーを押すと、直前の着信記録を表示します。（※） ・文字入力時、カーソルを移動させる場合に押します。
クリア	・1 つ前のメニューに戻るときに押します。 ・入力した文字を 1 文字削除するときに押します。

（※）：パスワードを設定している場合は、先にパスワード入力画面が表示されます。

■ ダイヤルキー



メニュー内の項目を番号で選択するときに使用します。



メモ

メニュー内の項目を △、▽ で選択する場合は、カーソル移動後に 決定 を押しますが、ダイヤルキーで選択する場合は、ダイヤルキーを押すだけでその項目が選択され、次の画面に移ります。

3-2 文字入力方法

メニューを使った操作では、電話帳の名前を登録するなど、文字入力が必要な場合があります。ここでは、文字入力の操作について説明します。

■ 入力モードとキーの割り当て

各ダイヤルキーには、それぞれ複数の文字が割り当てられており、キーを押した回数により表示文字が切り替わります。また、入力モードによって、各キーで入力できる文字が変わります。

例：漢字モードで(2 ABC)を続けて押したときに表示される文字

押した回数　：1回 → 2回 → 3回 → 4回 → 5回 → 6回・・・・

表示される文字：か → き → く → け → こ → か・・・・

文字はすべて全角で入力されます。
各ダイヤルキーで入力できる文字と、文字入力時に使用するキーについて、下表に示します。

キー	入力モード			
	漢字モード	カナモード	英字モード	数字モード
1	あいうえおぁぃぅぇぉ	アイウエオァィゥェオ		1
2 ABC	かきくけこ	カキクケコ	ＡＢＣａｂｃ	2
3 DEF	さしすせそ	サシスセソ	ＤＥＦｄｅｆ	3
4 GHI	たちつてとっ	タチツテトッ	ＧＨＩｇｈｉ	4
5 JKL	なにぬねの	ナニヌネノ	ＪＫＬｊｋｌ	5
6 MNO	はひふへほ	ハヒフヘホ	ＭＮＯｍｎｏ	6
7 PQRS	まみむめも	マミムメモ	ＰＱＲＳｐｑｒｓ	7
8 TUV	やゆよゃゅょ	ヤユヨャュョ	ＴＵＶｔｕｖ	8
9 WXYZ	らりるれろ	ラリルレロ	ＷＸＹＺｗｘｙｚ	9
0	わをん一、。？！「」（）｛｝［］	ワヲン一、。？！「」（）｛｝［］	．／＋－＝：；＊？！＜＞（）｛｝［］	0
*	゛゜	゛゜	無効	＊
#	候補確定（漢字モード時）、または無効			#
△	・文字候補からの変換 ・前の変換候補を表示	無効		
▽	・文字候補からの変換 ・次の変換候補を表示	無効		
◁	・入力位置を左に移動 ・変換したい文字を左に移動	入力位置を左に移動		
▷	・入力位置を右に移動 ・変換したい文字を右に移動	入力位置を右に移動		
決定	・入力候補の決定 ・変換候補の決定 ・入力文字の決定	入力文字の決定		
クリア	・入力文字の消去 ・変換のキャンセル	入力文字の消去		

メモ　入力モードは保留(0)で切替えます。

■ 文字入力モードの切替え

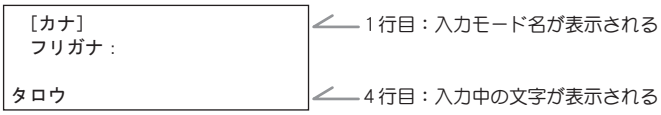
文字入力が必要な画面では、自動的に文字入力モードになります。
たとえば電話帳の登録では、漢字名称を入力する画面は自動的に漢字モードになり、フリガナを入力する画面は自動的にカナモードになります。
もし漢字名称の中にアルファベットや数字を入力する必要がある場合は、入力モードを切り替えます。

メモ 入力モードが切り替えられるのは、漢字モードの画面だけです。フリガナ入力（カナモード）や、パスワード入力（数字モード）の画面では入力モードを切り替えることはできません。

● 電話帳登録の例

<漢字名称入力時>
自動的に漢字モードになる

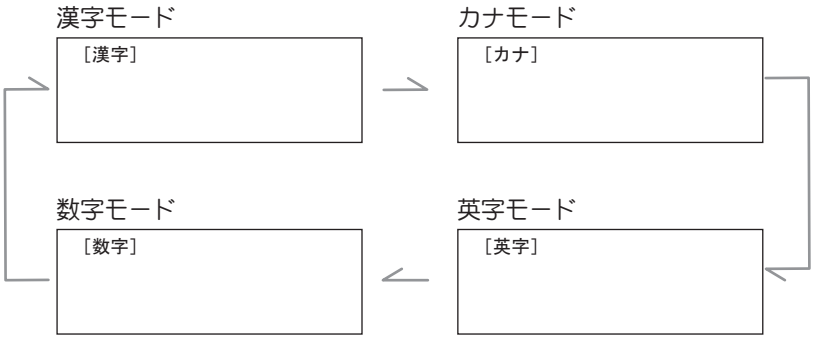
<フリガナ入力時>
自動的にカナモードになる



上記画面の文字入力の概要
ダイヤルキーを押すと、画面の一番下の行にその文字が表示されます。

● 入力モードの切替え

入力モードを切り替えるときは、4行目に確定前の文字を表示していない状態で、保留を押します。
保留を押すごとに、下図のように切り替わります。



■ 漢字の入力例

漢字を入力するときの操作を説明します。

ここでは、電話帳の登録画面を例に説明します。電話帳の登録画面を表示するまでの操作については、p.59「3-6 電話帳を使う」を参照してください。

例)「鈴木」と登録する

1 よみがなを入力する

①「す」：(3 DEF)を３回押す

② (▷)を押し、カーソルを移動する

③「ず」：(3 DEF)を３回押し、(*)を１回押す

④「き」：(2 ABC)を２回押す

・「すす」のように同じキーを使用する文字を続けて入力するときは、(▷)を押してカーソルを右に移動します。

2 (▽)を押して漢字に変換する

・変換候補が表示されます。

・変換候補が複数あるときは、(△)、(▽)を押して前後の候補を表示することができます。

・「す」、「すず」だけの変換候補を表示させたい場合は、(◁)、(▷)を押して変換する範囲を変え、再度(▽)を押します。

3 変換が正しい場合は(決定)を押す

漢字が確定されます。

■ カナの入力例

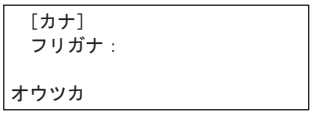
カナは変換しないでそのまま確定します。

ここでは、電話帳の登録画面を例にして説明します。電話帳の登録画面を表示するまでの操作については、p.59「3-6 電話帳を使う」を参照してください。

例）名前「桜塚（さくらづか）」を入力する際に「おう」「つか」と入力したためフリガナが「オウツカ」になってしまった。フリガナを「サクラヅカ」に入力し直す

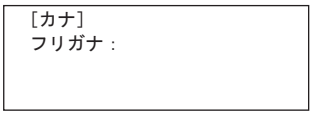
1 フリガナを入力する画面を表示する

現在設定されているフリガナが表示されます。



2 修正したい文字を削除する

ここでは、すべて削除するので（クリア）を 4 回押します。



3 正しいフリガナを入力する

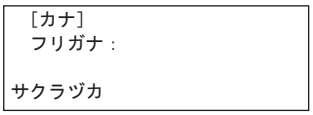
①「サ」：3 DEF を 3 回押す

②「ク」：2 ABC を 3 回押す

③「ラ」：9 WXYZ を 1 回押す

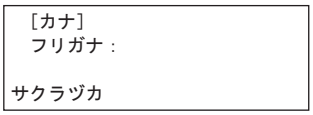
④「ヅ」：4 GHI を 3 回押し、＊を 1 回押す

⑤「カ」：2 ABC を 1 回押す



4 確定する場合は（決定）を押す

フリガナが確定されます。



メモ 電話帳や短縮ダイヤルの登録では、フリガナ登録の前に漢字名称の登録を行っているので、そのときの漢字のよみがながフリガナとして自動的に表示されます。
表示されたフリガナが正しくない場合だけ、修正が必要になります。

また、一度登録した漢字名称を修正した場合、その修正はフリガナには反映されませんので、そのような場合もフリガナを修正します。

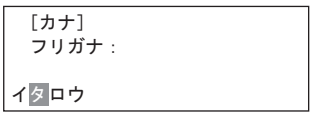
■ 文字入力の修正例

文字を確定する前に修正する場合は、以下のように操作します。

例）イタロウ→　イチロウ　に修正する

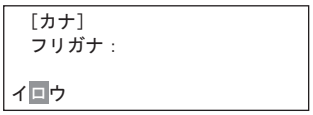
1 修正する文字にカーソルを移動する

◁、▷を押して、「タ」にカーソルを移動します。



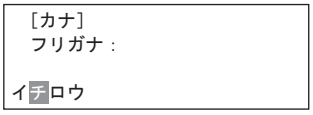
2 クリアを押す

修正する文字は、正しい文字を入力する前に削除します。



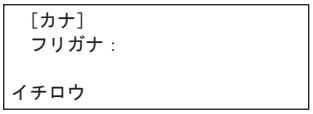
3 正しい文字を入力する

4 GHI を 2 回押します。
カーソルの位置に新しい文字が挿入されます。



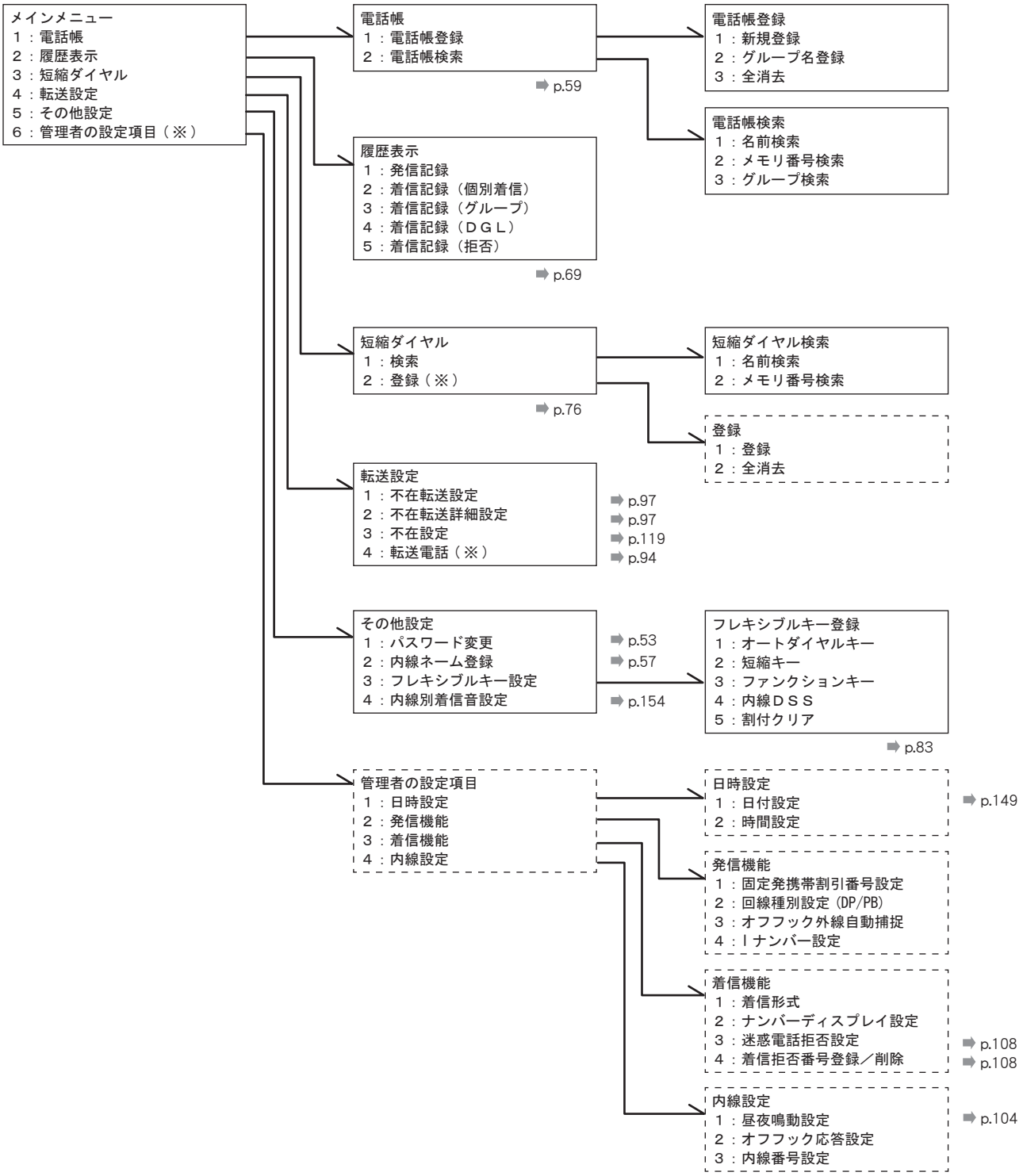
4 確定する場合は決定を押す

入力が確定されます。



3-3 メニュー項目について

メインメニューおよびサブメニューの項目を以下に示します。
（ページ番号は、詳細説明が記載されているページです）。



（※）の付いている項目と［ ］で囲まれた項目は、システム管理電話機で表示されます。
一般電話機で表示するためには、管理者用パスワード（工場出荷時：1234）の入力が必要になります。

3-4 パスワードを設定する

電話帳、履歴などの個人情報を保護するため各電話機でパスワードが設定できます。
個人用パスワードの設定は必須ではありませんが、管理者用パスワード（工場出荷時：1234）は、一般電話機で管理者用項目を操作するときに入力が必須となります。

■ 各電話機のパスワードを入力する

電話機にパスワードを設定すると、ディスプレイにメニューを表示したときに、パスワード設定画面が表示されます。電話機は、最初はパスワードが設定されていません。次ページの「各電話機のパスワードを変更する」の操作で、パスワードを設定すると、次回からメニューを表示するたびにパスワード入力画面が表示されるようになります。

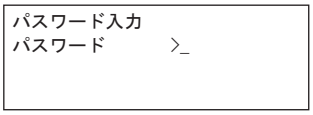
1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

パスワード入力画面が表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

2 パスワードを入力し、決定を押す

- パスワードは数字４桁で入力します。
- この画面は数字入力モードになっていますので、ダイヤルキーを押すと、そのまま数字が入力できます。
- メインメニューが表示されます。



■ 各電話機のパスワードを変更する

以下のような場合は、パスワードの変更操作を行います。
- パスワードを設定していなかったが、設定するようにしたい
- パスワードを設定していたが、設定をなくしたい
- パスワードを変更したい

1 電話機が待受状態のとき、決定 を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
            Tel. 100
11／07  Tue  16：00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

2「5：その他設定」を △、▽ で選び、決定 を押す

その他設定メニューが表示されます。

```
メインメニュー
3：短縮ダイヤル
4：転送設定
5：その他設定
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3「1：パスワード変更」を △、▽ で選び、決定 を押す

パスワード変更画面が表示されます。

```
その他設定
1：パスワード変更
2：内線ネーム登録
3：フレキシブルキー設定
```

4 新パスワードを入力し、決定 を押す

- パスワードは数字4桁で入力します。
- この画面は数字入力モードになっていますので、ダイヤルキーを押すと、そのまま数字が入力できます。

入力が終わると、新パスワードの確認画面が表示されます。

```
パスワード変更
新パスワード     >_
```

パスワード設定を削除したい場合は、ここで何も入力しないで決定を押します。

5 新パスワードを確認し、決定 を押す

パスワードの登録が完了し、その他設定メニューに戻ります。

表示例

```
パスワード変更（確認）
新パスワード     >8787
```

パスワード設定を削除したい場合は、ここで何も入力しないで決定を押します。

■ 管理者用パスワードを入力する

ここでは、一般電話機で管理者用項目を操作するために管理者用パスワードを入力する手順を説明します。管理者用パスワード（工場出荷時：1234）は、工事者による電話機設置時に設定します。管理者用パスワードについては販売店にご相談ください。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※個人用パスワード設定を行っている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字４桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
            Tel. 100
11／07 Tue 16：00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

2 Oを押す

管理者用パスワードを入力する画面が表示されます。

```
メインメニュー
１：電話帳
２：履歴表示
３：短縮ダイヤル
```

「０：」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード（数字４桁）を入力し、決定を押す

- パスワードはあらかじめ設定されているものを入力します。
- この画面は数字入力モードになっていますので、ダイヤルキーを押すと、そのまま数字が入力できます。

入力が終わると、メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目が表示されます。

入力例

```
パスワード入力
パスワード       >９８７６_
```

4 「６：管理者の設定項目」を△、▽で選び、決定を押す

管理者の設定項目のメニューが表示されます。

```
メインメニュー
４：転送設定
５：その他設定
６：管理者の設定項目
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

メモ　管理者用パスワードが必要な項目

メインメニューの「6：管理者の設定項目」の他にも管理者用パスワードが必要な項目があります。以下の2つです。

・短縮ダイヤルの登録
・転送電話

一般電話機からこれらの設定を行うときも、前ページの手順で管理者用パスワードを入力してください。

3-5 内線の名前を登録する

電話機 1 台 1 台に、部署名や個人名などの名称を登録することができます。この登録を行っておくと、内線をかけた相手の電話機に、内線の名前が表示されます。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
            Tel. 100
11／07  Tue  16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「5：その他設定」を△、▽で選び、決定を押す

その他設定メニューが表示されます。

```
メインメニュー
3：短縮ダイヤル
4：転送設定
5：その他設定
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 「2：内線ネーム登録」を△、▽で選び、決定を押す

内線ネームを登録する画面が表示されます。

```
その他設定
1：パスワード変更
2：内線ネーム登録
3：フレキシブルキー設定
```

4 名前を漢字で入力して決定を押す

この画面は、自動的に漢字入力モードになっています。ダイヤルキーを押して文字を入力します。

漢字の入力方法については、p.49「漢字の入力例」を参照してください。

```
［漢字］
名　前：

総務山田
```

メモ 内線の名前を削除するには

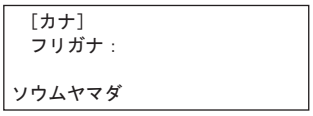
上記と同様の操作を行い、手順 4 で内線の名前が表示されたら、削除したい文字数分クリアを押します。決定を押すと、内線の名前が削除されます。

次ページに操作つづく

5 フリガナを確認して決定を押す

- 入力された漢字名から自動的にフリガナが表示されます。修正する場合は、ダイヤルキーを使って修正します。この画面は自動的にカナ入力モードになっています。
- フリガナの入力方法については、p.50「カナの入力例」を参照してください。

入力が終わると、内線ネームが登録され、その他設定メニューに戻ります。

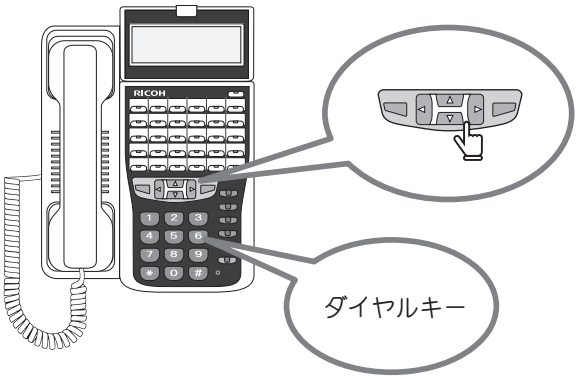


3-6 電話帳を使う

相手の電話番号を電話帳に登録しておくと、メモリ番号、名前、グループから検索して電話をかけることができます。電話帳には外線も内線も登録できます。ここでは、電話帳を使った以下の操作について説明します。

操作	説明箇所	
電話帳への登録	電話帳に新規に登録する	p.59
	電話帳にグループ名を登録する	p.62
電話帳を検索 （電話をかける）	電話帳を名前で検索する	p.63
	電話帳をメモリ番号で検索する	p.64
	電話帳をグループで検索する	p.65
電話帳を修正	電話帳の内容を修正する	p.66
電話帳を削除	電話帳から 1 件削除する	p.67
	電話帳の内容をすべて消去する	p.68

電話帳の操作は、以下のキーを使って行います。



■ 電話帳に新規に登録する

電話帳に相手の電話番号、名前などを新規に登録します。

メモ 登録したい相手の発信／着信記録がある場合は、それを利用して電話帳に登録することができます。詳しくは、p.73「履歴を電話帳に登録する」を参照してください。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/07  Tue  16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2「1：電話帳」を△、▽で選び、決定を押す

電話帳メニューが表示されます。

```
メインメニュー
1：電話帳
2：履歴表示
3：短縮ダイヤル
```

3「1：電話帳登録」を△、▽で選び、決定を押す

電話帳登録メニューが表示されます。

```
電話帳
1：電話帳登録
2：電話帳検索
```

4「1：新規登録」を△、▽で選び、決定を押す

電話帳に登録するメモリ番号を入力する画面が表示されます。

```
電話帳登録
1：新規登録
2：グループ名登録
3：全消去
```

5 メモリ番号を入力して決定を押す

- メモリ番号には、最初、使用されていないメモリ番号の中で一番若い番号が表示されます。違うメモリ番号で登録したい場合は、クリアを押して数字を削除してから入力します。
- メモリ番号は０００～９９９の範囲で、ダイヤルキーで入力します。
- 入力したメモリ番号がすでに登録されている場合は、上書きするかどうか尋ねられます。上書きする場合は「1：はい」を選び、上書きしないで、別のメモリ番号を入力し直す場合は「2：いいえ」を選びます。

```
 上書きしますか？
1：はい
2：いいえ
```

- メモリ番号の設定が終わると、「番号種別」の選択画面になります。

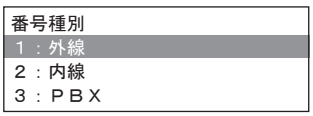
```
メモリ番号          No. 003

未登録
```

次ページに操作つづく

6 番号種別を△、▽で選び、決定を押す

番号種別が設定され、電話番号を登録する画面が表示されます。



7 電話番号を入力して決定を押す

- 電話番号はダイヤルキーで入力します。
- 相手にこちらの番号を非通知にする場合は非通知を押します。ディスプレイの右下に「H」と表示されます。
- 相手に電話をかけるときに ARS 機能を停止させる場合は、ARS停止を押します。ディスプレイの右下に「N」が表示されます。

非通知、ARS停止は、フレキシブルキーにあらかじめ登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.83「3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。ARS については、p.186「用語解説」を参照してください。

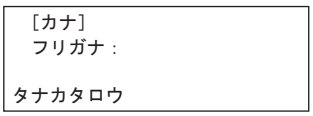
8 名前を漢字で入力して決定を押す

この画面は、自動的に漢字入力モードになっています。ダイヤルキーを押して文字を入力します。

漢字の入力方法については、p.49「漢字の入力例」を参照してください。

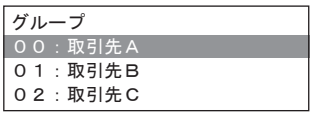
9 フリガナを確認して決定を押す

- 入力された漢字名から自動的にフリガナが表示されます。修正する場合は、ダイヤルキーを使って修正します。
- フリガナの入力方法については、p.50「カナの入力例」を参照してください。



10 グループを△、▽で選び、決定を押す

- グループは「00」～「15」までの 16 個あります。
- 電話帳への登録が完了し、手順 5 のメモリ番号を入力する画面に戻ります。
- 続けて登録する場合は、手順 5 ～ 10 を繰り返します。
- 登録を終了する場合は、クリアを押します。



グループ名をまだ登録していない場合は、グループ番号だけが表示されます。グループ名を登録する手順は、p.62「電話帳にグループ名を登録する」を参照してください。

■ 電話帳にグループ名を登録する

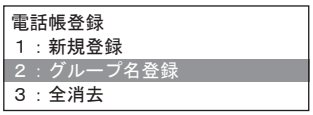
電話帳にはグループ番号 0 ～ 15 までの 16 個のグループが用意されています。最初は、グループ名が登録されていませんので、用途に合わせたグループ名を登録することができます。

1 電話帳登録メニューを表示する

p.59「電話帳に新規に登録する」の手順 1 ～ 3 を行ってください。

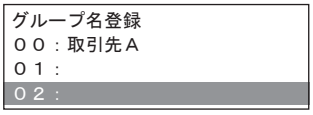
2 「2：グループ名登録」を △、▽で選び、決定を押す

グループ名を登録するための画面が表示されます。



3 グループ名を登録するグループ番号を △、▽で選び、決定を押す

- グループは「00」～「15」までの 16 個あります。
- すでに登録されているグループには、グループ名が表示されます。



4 グループ名を入力して決定を押す

- 文字の入力方法については、p.47「3-2 文字入力方法」を参照してください。
- グループ名が設定され、グループ名登録の画面に戻ります。
- 他のグループ名も登録する場合は、手順 3 ～ 4 を繰り返します。
- 登録を終了する場合は、クリアを押します。

■ 電話帳を名前で検索する

電話をかけるときや、電話帳を編集するときに、電話帳を名前のフリガナで検索できます。

1 電話機が待受状態のとき、▽を押す

ディスプレイに電話帳検索メニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
            Tel. 100
11／07  Tue  16：00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「1：名前検索」を△、▽で選び、決定を押す

検索する名前を入力する画面が表示されます。

```
電話帳検索
 1：名前検索
 2：メモリ番号検索
 3：グループ検索
```

3 検索する名前のフリガナの先頭から 1 ～ 5 文字を入力して決定を押す

- 文字の入力方法については、p.47「3-2 文字入力方法」を参照してください。
- 検索結果が表示されます。

```
 [カナ]
 検　索：

スズ
```

4 検索結果を確認する

- 検索結果が複数ある場合は、△▽を押して、検索結果を順番に表示することができます。
- 目的の相手を表示します。

```
<スズ>          No. 100
外線              HN
          0312345678
鈴木一郎
```

この画面で決定を押すと、表示されている電話帳を編集することができます。

→ p.66「電話帳の内容を修正する」
→ p.67「電話帳から 1 件削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、内線キーを押す

- 自動的にダイヤルされます。
- 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

相手が外線の場合は、外線キーを押して発信することもできます。

■ 電話帳をメモリ番号で検索する

電話をかけるときや、電話帳を編集するときに、電話帳をメモリ番号で検索できます。

1 電話機が待受状態のとき、▽を押す

ディスプレイに電話帳検索メニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字４桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード      >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11／07  Tue  16：00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「２：メモリ番号検索」を△、▽で選び、決定を押す

メモリ番号を入力する画面が表示されます。

```
電話帳検索
１：名前検索
２：メモリ番号検索
３：グループ検索
```

3 メモリ番号を入力して決定を押す

- メモリ番号は０００～９９９の範囲で、ダイヤルキーで入力します。
- 検索結果が表示されます。
- 登録されていないメモリ番号を入力した場合は、ディスプレイの４行目に「未登録」と表示されます。

```
メモリ番号検索　No：__
```

4 検索結果を確認する

- 目的の相手が表示されていることを確認します。
- △/▽を押すと、前後のメモリ番号の内容を確認することができます。

```
                No. 100
外線                HN
          0312345678
鈴木一郎
```

この画面で決定を押すと、表示されている電話帳を編集することができます。

→ p.66「電話帳の内容を修正する」
→ p.67「電話帳から１件削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、内線キーを押す

- 自動的にダイヤルされます。
- 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

相手が外線の場合は、外線キーを押して発信することもできます。

■ 電話帳をグループで検索する

電話帳の中は 16 個のグループに分かれています。電話をかけるときや、電話帳を編集するときに、電話帳をその中の 1 つのグループを指定して検索できます。

1 電話機が待受状態のとき、▽を押す

ディスプレイに電話帳検索メニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
            Tel. 100
11／07  Tue  16：00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「3：グループ検索」を△、▽で選び、決定を押す

グループを選択する画面が表示されます。

```
電話帳検索
1：名前検索
2：メモリ番号検索
3：グループ検索
```

3 グループを△、▽で選び、決定を押す

- グループは「00」～「15」までの 16 個あります。
- 選択したグループの中で、最初に登録されている名前が表示されます。

```
グループ
00：取引先A
01：取引先B
02：取引先C
```

4 目的の相手を表示する

- △▽を押すとそのグループに登録されている内容を順番に表示することができます。
- 目的の相手を表示します。

```
00：取引先A        No.100
外線                   HN
              0312345678
鈴木一郎
```

この画面で決定を押すと、表示されている電話帳を編集することができます。

→ p.66「電話帳の内容を修正する」
→ p.67「電話帳から 1 件削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、内線キーを押す

- 自動的にダイヤルされます。
- 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

相手が外線の場合は、外線キーを押して発信することもできます。

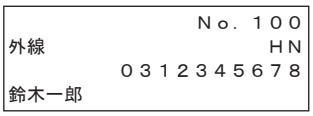
■ 電話帳の内容を修正する

相手の電話番号が変わったときなど、電話帳に登録している内容を修正します。

1 修正したい相手の情報を電話帳で表示する

電話帳から相手の情報を検索する方法は、以下を参照してください。

- p.63「電話帳を名前で検索する」
- p.64「電話帳をメモリ番号で検索する」
- p.65「電話帳をグループで検索する」



2 決定を押す

登録内容変更メニューが表示されます。

3 「1：内容変更」を△、▽で選び、決定を押す

電話帳の各項目を設定する画面が表示されます。

4 登録内容を修正する

以降の操作は、電話帳を新規に登録するときと同じ操作になります。詳細は、p.59「電話帳に新規に登録する」を参照してください。

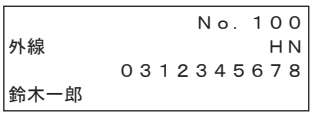
■ 電話帳から 1 件削除する

電話帳から 1 件削除します。

1 削除したい相手の情報を電話帳で表示する

電話帳から相手の情報を検索する方法は、以下を参照してください。

- p.63「電話帳を名前で検索する」
- p.64「電話帳をメモリ番号で検索する」
- p.65「電話帳をグループで検索する」



2 決定 を押す

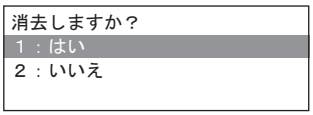
登録内容変更メニューが表示されます。

3「2：登録削除」を △、▽ で選び、決定 を押す

登録削除を確認する画面が表示されます。

4 削除してよい場合は、「1：はい」を △、▽ で選び、決定 を押す

登録内容が削除され、電話帳検索メニューに戻ります。



■ 電話帳の内容をすべて消去する

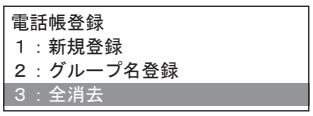
電話帳に登録した電話番号などの情報をすべて消去することができます。

1 電話帳登録メニューを表示する

p.59「電話帳に新規に登録する」の手順 1 ～ 3 を行ってください。

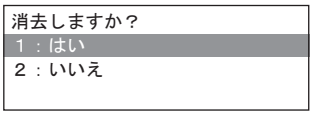
2 「3：全消去」を △、▽で選び、決定を押す

全消去を確認する画面が表示されます。



3 削除してよい場合は、「1：はい」を △、▽で選び、決定を押す

電話帳の内容がすべて消去され、電話帳登録メニューに戻ります。

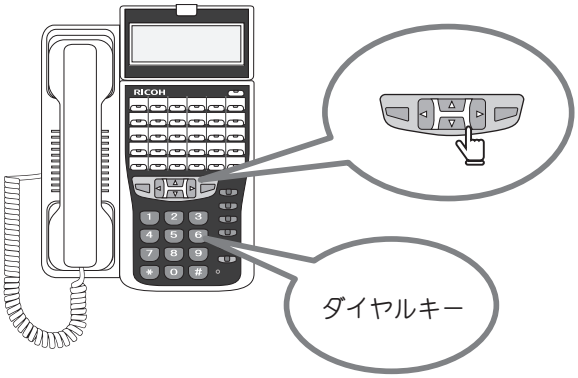


3-7 履歴を使う

これまでに発信または着信した番号は、履歴として記録されています。
履歴を使って電話をかけたり、履歴の中から必要なものを電話帳に登録することができます。
ここでは、履歴の以下の操作について説明します。

操作	説明箇所	
履歴の表示	発信記録を表示する	p.69
	着信記録を表示する	p.71
履歴から電話帳への登録	履歴を電話帳に登録する	p.73
履歴の削除	履歴を 1 件ずつ削除する	p.74
	履歴をすべて削除する	p.75

履歴の操作は、以下のキーを使って行います。



■ 発信記録を表示する

発信記録を表示します。

1 電話機が待受状態のとき、決定 を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード        >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
            Tel. 100
11/07 Tue  16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「2：履歴表示」を △、▽ で選び、決定 を押す

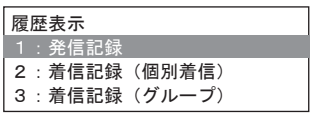
履歴表示のメニューが表示されます。

```
メインメニュー
1：電話帳
2：履歴表示
3：短縮ダイヤル
```

次ページに操作つづく

3 「1：発信記録」を△、▽で選び、決定を押す

最新の発信記録が表示されます。



4 △▽を押して、目的の発信記録を表示する

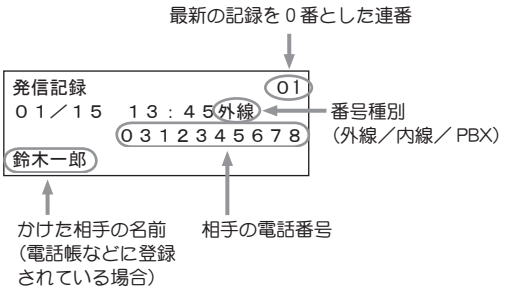
発信記録には次の情報が表示されます。

- 発信日時
- 番号種別（外線／内線※／ PBX）
- 相手の電話番号
- 相手の名前（電話帳や短縮ダイヤルに登録されている場合のみ）

設定 ※内線の発信記録を取得するには、販売店に相談して設定を行う必要があります。

・▽を押すと 1 つずつ古い発信記録が表示されます。△で 1 つずつ新しい発信記録に戻ります。

・発信記録は 20 件まで記録されています。



ここで決定を押すと、発信記録を電話帳に登録したり、履歴から削除することができます。

→ p.73「履歴を電話帳に登録する」
→ p.74「履歴を 1 件ずつ削除する」
→ p.75「履歴をすべて削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、内線を押す

・自動的にダイヤルされます。

・相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

直前の発信記録／着信記録を表示する

- 電話機が待受状態のとき、◁を押すと、最新の発信記録を表示できます。
- 電話機が待受状態のとき、▷を押すと、最新の着信記録を表示できます。

※パスワードを設定している場合は、発信記録／着信記録の画面が表示される前にパスワード入力画面が表示されます。

最新の発信記録または着信記録を表示したあとは、▽を押してもっと古い履歴を表示することもできます。

■ 着信記録を表示する

着信記録を表示します。内線からかかってきた電話は着信記録には残りません。

1 電話機が待受状態のとき、決定 を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字４桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード      >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11／07  Tue  16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「２：履歴表示」を △、▽ で選び、決定 を押す

履歴表示のメニューが表示されます。

```
メインメニュー
１：電話帳
２：履歴表示
３：短縮ダイヤル
```

3 表示する着信記録を △、▽ で選び、決定 を押す

着信記録は、次の４種類に分かれています。目的の着信記録の種類を選ぶと、最新の着信記録が表示されます。

```
履歴表示
１：発信記録
２：着信記録（個別着信）
３：着信記録（グループ）
４：着信記録（ＤＧＬ）
５：着信記録（拒否）
```

- **着信記録（個別着信）**

  この電話機で応答したすべての着信（個別着信／グループ着信／ＤＧＬ着信）の履歴が記録されます。また、個別着信の呼出しに応答しなかった着信の履歴も記録されます。最新の着信履歴から順に最大２０件表示することができます。

- **着信記録（グループ）**

  グループ着信の呼出しに誰も応答しなかった着信の履歴が記録されます。

  最新の着信履歴から順に最大１００件表示することができます。

- **着信記録（ＤＧＬ）**

  DGL/MSA 着信の呼出しに誰も応答しなかった着信の履歴が記録されます。

  設定 本機能をご使用になるには販売店にご相談ください。

- **着信記録（拒否）**

  電話に出たくない相手の番号をあらかじめ登録しておいた場合、拒否した着信の履歴が記録されます。

メニューに表示されていない項目は、▽ を押してカーソルを移動させると表示できます。△ を押すとメニューの上のほうに戻ります。

個別着信／グループ着信／ＤＧＬ着信 については、次ページの説明を参照してください。

次ページに操作つづく

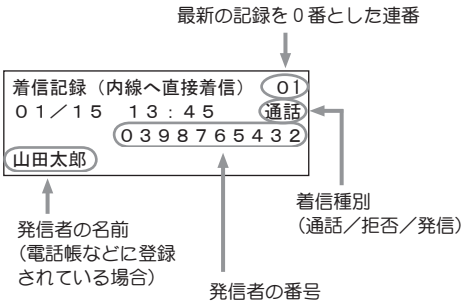
4 △/▽を押して、目的の着信記録を表示する

着信記録には次の情報が表示されます。

- 着信日時
- 着信種別（通話／拒否／発信）
- 相手の電話番号
- 相手の名前（電話帳や短縮ダイヤルに登録されている場合）

・▽を押すと 1 つずつ古い発信記録が表示されます。△で 1 つずつ新しい発信記録に戻ります。

・着信記録は 20 件まで記録されています。



ここで 決定 を押すと、着信記録を電話帳に登録したり、履歴から削除することができます。

→ p.73「履歴を電話帳に登録する」
→ p.74「履歴を 1 件ずつ削除する」
→ p.75「履歴をすべて削除する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、外線キーを押す

・自動的にダイヤルされます。

・相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

外線キーは、外線に発信するためのキーです。
キー名称はお使いの電話機によって異なります。

個別着信／グループ着信／ＤＧＬ着信

- **個別着信とは**

  内線電話機を個別に呼び出す着信を個別着信と呼びます。

- **グループ着信とは**

  着信があった場合、グループ内の電話機のキーが点滅し、キーを押すことで応答できる着信をグループ着信と呼びます。

- **ＤＧＬ着信とは** 設定

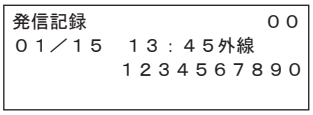
  ＤＧＬ（ダイレクトグループライン）/ＭＳＡ（マルチステーションアクセス）は、グループ着信とは別のグループで着信を受けることができます。着信があった場合、DGL/MSA グループ内の DGL/MSA キーが点滅し、キーを押すことで応答できます。本機能をご使用になる場合は、販売店にご相談ください。

■ 履歴を電話帳に登録する

履歴の中から必要な番号を電話帳に登録することができます。

1 電話帳に登録したい履歴を表示する

履歴の表示方法は、p.69「発信記録を表示する」または p.71「着信記録を表示する」を参照してください。



2 決定 を押す

編集メニューが表示されます。

3 「１：電話帳登録」を △、▽で選び、決定 を押す

電話帳登録の画面が表示されます。

4 電話帳の各項目を設定する

以降の操作は、電話帳を新規に登録するときと同じ操作になります。詳細は、p.59「電話帳に新規に登録する」を参照してください。

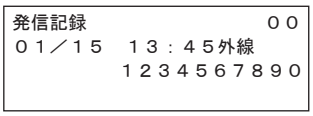
ただし、電話番号は自動的に設定されています。

■ 履歴を 1 件ずつ削除する

履歴から 1 件を選んで削除できます。

1 削除したい履歴を表示する

履歴の表示方法は、p.69「発信記録を表示する」または p.71「着信記録を表示する」を参照してください。



2 決定 を押す

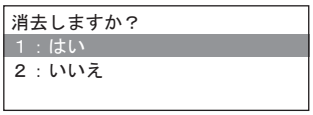
編集メニューが表示されます。

3 「2：記録削除」を △、▽ で選び、決定 を押す

記録削除を確認する画面が表示されます。

4 削除してよい場合は、「1：はい」を △、▽ で選び、決定 を押す

履歴が 1 件削除されます。

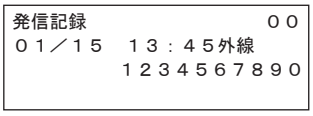


■ 履歴をすべて削除する

発信記録と着信記録のすべてを削除することができます。

1 履歴を表示する

履歴の表示方法は、p.69「発信記録を表示する」または p.71「着信記録を表示する」を参照してください。



表示するのは、発信記録と着信記録のどちらでもかまいません。

2 決定 を押す

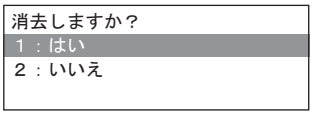
編集メニューが表示されます。

3 「３：全記録削除」を △、▽で選び、決定 を押す

全記録の削除を確認する画面が表示されます。

4 削除してよい場合は、「１：はい」を △、▽で選び、決定 を押す

すべての発信記録と着信記録が削除されます。



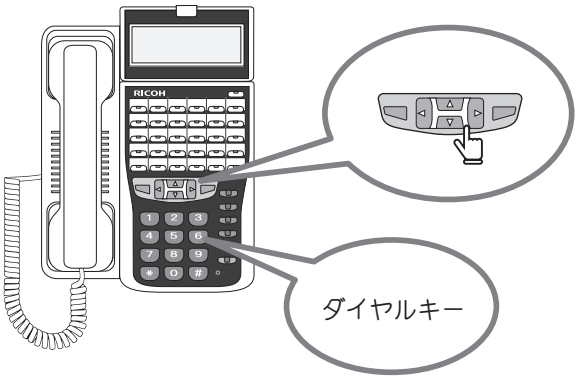
3-8 短縮ダイヤルを使う

短縮ダイヤルは、電話番号を３桁の番号に短縮して登録したものです。
相手の短縮番号を知っていれば、その番号をダイヤルするだけで電話をかけることができます。
短縮番号の相手の名前がわからない場合や、相手の名前から短縮番号を知りたい場合は、検索して調べることができます。
ここでは、短縮ダイヤルについて以下の操作を説明します。

操作	説明箇所	
短縮ダイヤルの検索	相手の名前から短縮ダイヤルを検索する	p.76
	メモリ番号（短縮番号）から相手の名前を検索する	p.78
短縮ダイヤルの登録※	短縮ダイヤルを登録する	p.79
短縮ダイヤルの削除※	短縮ダイヤルの登録をすべて消去する	p.82

※短縮ダイヤルの登録と削除ができるのは、システム管理電話機、または一般電話機で管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力した場合です。

短縮ダイヤルの操作は、以下のキーを使って行います。



■ 相手の名前から短縮ダイヤルを検索する

短縮ダイヤルに登録されている名前で、短縮ダイヤルを検索することができます。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字４桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11／07 Tue 16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

次ページに操作つづく

2 「3:短縮ダイヤル」を△、▽で選び、決定を押す

短縮ダイヤルのメニューが表示されます。

```
メインメニュー
1：電話帳
2：履歴表示
3：短縮ダイヤル
```

3 「1：検索」を△、▽で選び、決定を押す

短縮ダイヤル検索のメニューが表示されます。

```
短縮ダイヤル
1：検索
2：登録
```

「2：登録」はシステム管理電話機、または管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力した一般電話機の場合だけ表示されます。

4 「1：名前検索」を△、▽で選び、決定を押す

名前を入力する画面が表示されます。

```
短縮ダイヤル検索
1：名前検索
2：メモリ番号検索
```

5 検索する名前のフリガナの先頭から1～5文字を入力して決定を押す

- この画面は、自動的にカナ入力モードになっています。ダイヤルキーを押して文字を入力します。
- 文字の入力方法については、p.47「3-2 文字入力方法」を参照してください。
- 検索結果が表示されます。

```
［カナ］
検　索：

タ
```

6 検索結果を確認する

- 検索結果が複数ある場合は、△▽を押して、検索結果を順番に表示することができます。
- 目的の相手を表示します。

```
<タ>              No. 003
外線                    N
          1234567890
田中太郎
```

システム管理電話機、または管理者用パスワードを入力した一般電話機の場合は、ここで決定を押すと、短縮ダイヤルを編集することができます。

→ p.79「短縮ダイヤルを登録する」
→ p.82「短縮ダイヤルの登録をすべて消去する」

7 表示されている相手に電話をかける場合は、以下のキーを押す

- **外線にかける→外線キー**
- **内線にかける→内線**

外線キーは、外線に発信するためのキーです。
キー名称はお使いの電話機によって異なります。

- 自動的にダイヤルされます。
- 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

■ メモリ番号（短縮番号）から相手の名前を検索する

メモリ番号（短縮番号）から、短縮ダイヤルに登録されている相手の情報を検索します。

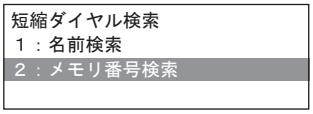
1 短縮ダイヤル検索メニューを表示する

p.76「相手の名前から短縮ダイヤルを検索する」の手順 1 ～ 3 を行ってください。

詳しい手順は、p.76「相手の名前から短縮ダイヤルを検索する」を参照してください。

2「2：メモリ番号検索」を△、▽で選び、決定を押す

メモリ番号を入力する画面が表示されます。

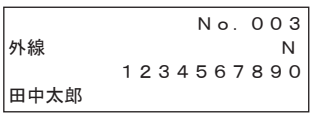


3 メモリ番号を入力して決定を押す

- メモリ番号は０００～９９９の範囲で、ダイヤルキーで入力します。
- 検索結果が表示されます。
- 登録されていないメモリ番号を入力した場合は、4行目に「未登録」と表示されます。

4 検索結果を確認する

- 目的の相手が表示されていることを確認します。
- △▽を押すと、前後のメモリ番号の内容を確認することができます。



システム管理電話機、または管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力した一般電話機の場合は、ここで決定を押すと、短縮ダイヤルを編集することができます。

→ p.79「短縮ダイヤルを登録する」
→ p.82「短縮ダイヤルの登録をすべて消去する」

5 表示されている相手に電話をかける場合は、以下のキーを押す

- **外線にかける→外線キー**
- **内線にかける→** 内線

- 自動的にダイヤルされます。
- 相手の応答する声が聞こえたら、受話器を上げて通話します。

外線キーは、外線に発信するためのキーです。
キー名称はお使いの電話機によって異なります。

■ 短縮ダイヤルを登録する

電話番号を短縮ダイヤルに登録します。短縮ダイヤル 1 件ごとに、着信音や着信時のバックライトの色設定を行うことができます。

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力して行います。

ここでは、一般電話機から、管理者用パスワードを入力して、短縮ダイヤルを登録する方法を説明します。システム管理電話機では、手順 2 ～ 3 の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、決定 を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
            Tel. 100
11／07 Tue 16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 (0) を押す

管理者用パスワードを入力する画面が表示されます。

※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。

```
メインメニュー
1：電話帳
2：履歴表示
3：短縮ダイヤル
```

「0：」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード（数字 4 桁）を入力し、決定 を押す

メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目も表示されます。

※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

管理者用パスワードについては、販売店にご相談ください。

4 「3:短縮ダイヤル」を △、▽ で選び、決定 を押す

短縮ダイヤルのメニューが表示されます。

```
メインメニュー
1：電話帳
2：履歴表示
3：短縮ダイヤル
```

次ページに操作つづく

5 「2：登録」を△、▽で選び、決定を押す

登録メニューが表示されます。

短縮ダイヤル
1：検索
2：登録

6 「1：登録」を△、▽で選び、決定を押す

短縮ダイヤルを登録するための画面が表示されます。

登録
1：登録
2：全消去

7 メモリ番号を入力して決定を押す

- メモリ番号には、最初、使用されていないメモリ番号の中で一番若い番号が表示されます。違うメモリ番号で登録したい場合は、クリアを押して数字を削除してから入力します。
- 入力したメモリ番号がすでに登録されている場合は、上書きするかどうか尋ねられます。上書きする場合は「1：はい」を選び、上書きしないで、別のメモリ番号を入力し直す場合は「2：いいえ」を選びます。

上書きしますか？
1：はい
2：いいえ

- メモリ番号の設定が終わると、「番号種別」の選択画面になります。

メモリ番号　　No. xxx
未登録

ここで設定したメモリ番号が短縮番号になります。
使用可能なメモリ番号は、000 ～ 999 です。

8 番号種別を△、▽で選び、決定を押す

番号種別が設定され、電話番号を登録する画面が表示されます。

番号種別
1：外線
2：内線
3：PBX

9 電話番号を入力して決定を押す

- 電話番号はダイヤルキーで入力します。
- 相手にこちらの番号を非通知にする場合は非通知を押します。ディスプレイの右下に「H」と表示されます。
- 相手に電話をかけるときに ARS 機能を停止させる場合は、ARS停止を押します。ディスプレイの右下に「N」が表示されます。

ダイヤル
03123456 78
HN

H：非通知
N：ＡＲＳ停止

非通知、ARS停止は、フレキシブルキーにあらかじめ登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.83「3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。ARS については、p.186「用語解説」を参照してください。

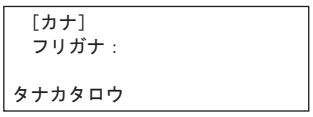
次ページに操作つづく

10 名前を漢字で入力して決定を押す

漢字の入力方法については、p.49「漢字の入力例」を参照してください。

11 フリガナを確認して決定を押す

- 入力された漢字名から自動的にフリガナが表示されます。修正する場合は、ダイヤルキーを使って修正します。
- フリガナの入力方法については、p.50「カナの入力例」を参照してください。
- 番号種別で「外線」を選んだ場合は手順 12 と手順 13 を行います。それ以外を選んだ場合は、これで短縮ダイヤルの登録が完了し、短縮ダイヤルの登録メニューに戻ります。

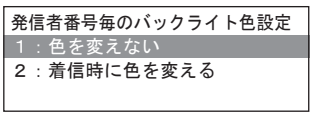


12 この相手から電話がかかってきたときの着信音を△、▽で選び、決定を押す

着信音の種類は 1 ～ 9 まで 9 種類あります。

13 この相手から電話がかかってきたときのバックライトの色を△、▽で選び、決定を押す

- 短縮ダイヤルの登録が完了し、短縮ダイヤルの登録メニューに戻ります。
- 続けて登録する場合は、手順 5 ～ 13 を繰り返します。終了する場合は、クリアを押します。



■ 短縮ダイヤルの登録をすべて消去する

短縮ダイヤルに登録されている情報をすべて消去することができます。

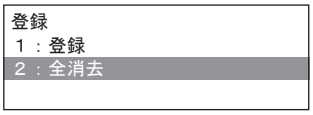
メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力して行います。

1 短縮ダイヤルの登録メニューを表示する

p.79「短縮ダイヤルを登録する」の手順 1 ～ 5 を行います。

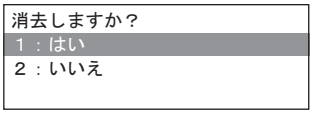
2 「2：全消去」を△、▽で選び、決定を押す

短縮ダイヤルをすべて消去してよいかを確認する画面が表示されます。



3 削除してよい場合は、「1：はい」を△、▽で選び、決定を押す

短縮ダイヤルの登録情報がすべて消去され、短縮ダイヤル登録メニューに戻ります。



3-9 フレキシブルキーに機能を割り付ける

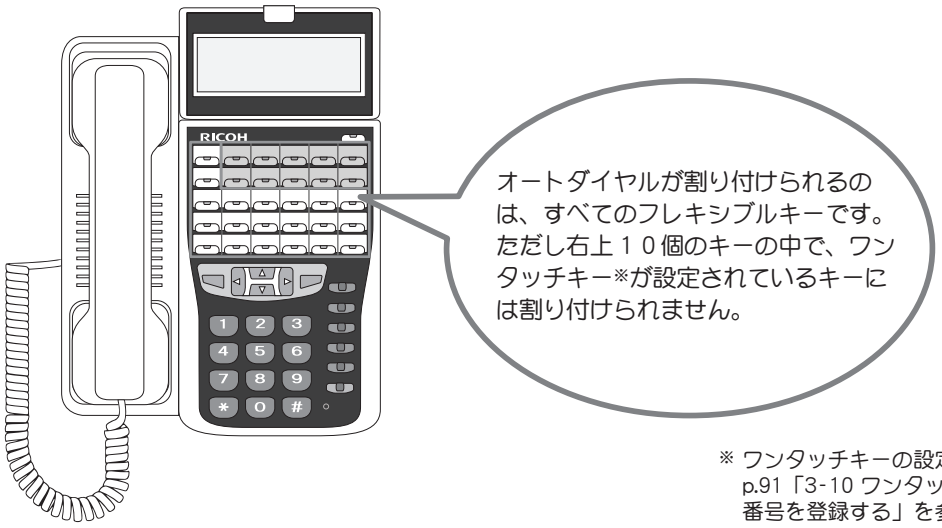
フレキシブルキーに、オートダイヤルや短縮キーを割り付けて、ワンタッチで電話をかけられるようにすることができます。また、フレキシブルキーに、あらかじめ用意されている機能を割り付けて、電話の機能を追加していくことができます。
ここでは、フレキシブルキーへの機能割付けについて説明します。

説明箇所	
フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける	p.83
フレキシブルキーに短縮キーを割り付ける	p.85
フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける	p.86
フレキシブルキーに内線 DSS を割り付ける	p.88
フレキシブルキーの割付けをクリアする	p.90

■ フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける

電話機のワンタッチキーだけでは足りなくなった場合に、このオートダイヤル機能を使って、他のフレキシブルキーにワンタッチキーと同じ機能を持たせることができます。

メモ 電話機にあらかじめ設定されているワンタッチキーは、各キーが 2 種類の番号を持ち、［セレクト］キーで切り替えて使うことができます。しかし、オートダイヤル機能を登録したフレキシブルキーでは、2 種類の番号を持つことはできません。



※ ワンタッチキーの設定については、p.91「3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する」を参照してください。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/07  Tue  16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2「5：その他設定」を△、▽で選び、決定を押す

その他設定メニューが表示されます。

```
メインメニュー
3：短縮ダイヤル
4：転送設定
5：その他設定
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3「3：フレキシブルキー設定」を△、▽で選び、決定を押す

フレキシブルキー登録メニューが表示されます。

```
その他設定
1：パスワード変更
2：内線ネーム登録
3：フレキシブルキー設定
```

4「1：オートダイヤルキー」を△、▽で選び、決定を押す

オートダイヤルキーを登録する画面が表示されます。

```
フレキシブルキー登録
1：オートダイヤルキー
2：短縮キー
3：ファンクションキー
```

5 オートダイヤルキーを登録するフレキシブルキーを押す

すでに何かの機能が割り付けられているキーを押した場合は、上書きモードになり、次の画面に移ります。

ただし、変更不可能な機能が設定されているキーを押した場合は、この画面が表示されたままになります。別のキーを押し直してください。

```
オートダイヤルキー登録
  登録　フレキシブルキー押下
  してください
```

ワンタッチキーが設定されているキーには割り付けられません。

6 番号種別を△、▽で選び、決定を押す

番号種別が設定され、電話番号を登録する画面が表示されます。

```
                    未登録
1：外線
2：内線
3：PBX
```

現在割り付けられている機能名称が表示されます。何も割り付けられていない場合は「未登録」と表示されます。

次ページに操作つづく

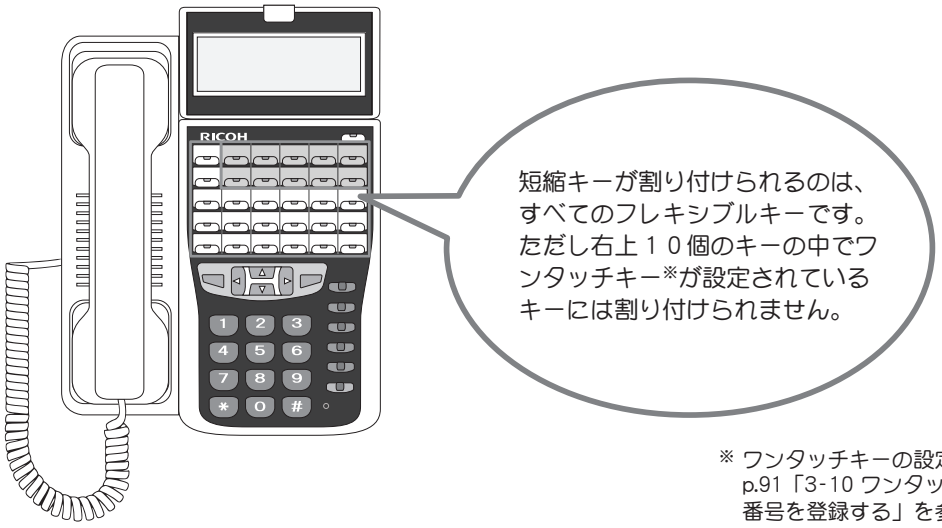
7 電話番号を入力して決定を押す

- 電話番号はダイヤルキーで入力します。
- オートダイヤルの登録が完了し、手順 5 の画面に戻ります。
- 続けて登録する場合は、手順 5 ～ 7 を繰り返します。終了する場合は、クリアを押します。

```
ダイヤル
０３１２３４５６７８
```

■ フレキシブルキーに短縮キーを割り付ける

短縮ダイヤルは、電話番号を３桁に短縮して電話をかけやすくしたものですが、さらにフレキシブルキーに「短縮キー」として登録することで、ワンタッチで電話をかけられるようになります。



※ ワンタッチキーの設定については、p.91「3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する」を参照してください。

1 フレキシブルキー登録メニューを表示する

p.83「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」の手順 1 ～ 3 を行います。

2「２：短縮キー」を△、▽で選び、決定を押す

短縮キーを登録する画面が表示されます。

```
フレキシブルキー登録
１：オートダイヤルキー
２：短縮キー
３：ファンクションキー
```

次ページに操作つづく

3 短縮キーを登録するフレキシブルキーを押す

すでに何かの機能が割り付けられているキーを押した場合は、上書きモードになり、次の画面に移ります。

ただし、変更不可能な機能が設定されているキーを押した場合は、この画面が表示されたままになります。別のキーを押し直してください。

```
短縮キー登録
  登録　フレキシブルキー押下
  してください
```

ワンタッチキーが設定されているキーには割り付けられません。

4 短縮番号を入力して決定を押す

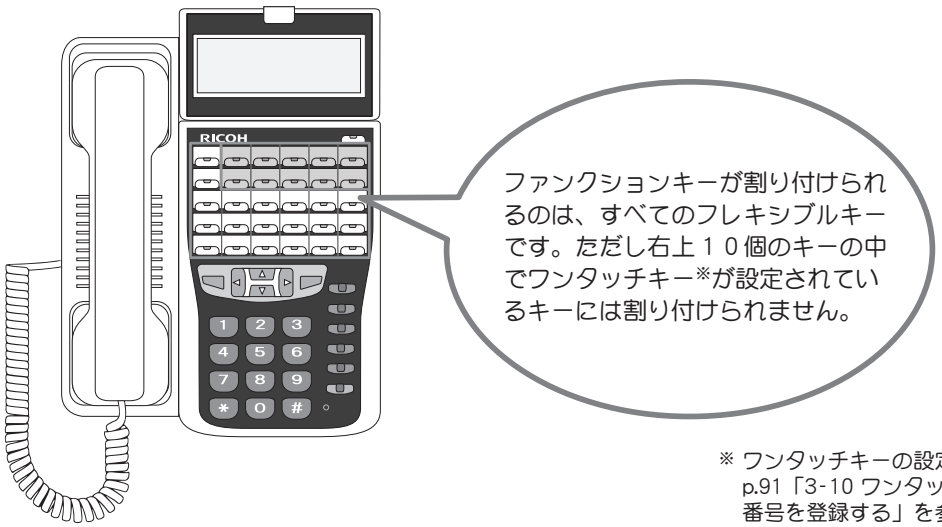
- 短縮キーの登録が完了し、手順 3 の画面に戻ります。
- 続けて登録する場合は、手順 3 ～ 4 を繰り返します。終了する場合は、クリアを押します。

```
                未　登　録
          短縮Ｎｏ：１１１
```

■ フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける

フレキシブルキーには、以下のファンクションキーを割り付けることができます。各機能については付録の「フレキシブルキー機能一覧」(p.184)、「用語解説」(p.186)、および本書の各章での説明を参照してください。

ファンクション No.	キー名称	ファンクション No.	キー名称	ファンクション No.	キー名称
01	リダイヤル	13	予約	37	非通知
02	オートリピート	14	ID	38	外線代理応答
03	ダイヤルメモリ	15	不在転送	39	内線代理応答
04	短縮ダイヤル	16	ARS 停止	40	キーパッド
05	代理応答	17	クラス切替	41	着信履歴
06	秘話解除 / 会議	18	指定代理応答	45	電源状態
07	夜間切替	19	着信ウェイト	46	回線使用制限
08	集中着信	20	割込	47	着信拒否
09	指定外線自動転送 [T-T 転送]	21	フッキング	48	ボイスワープ
		24	FAX1	49	グループ指定代理応答 [G 代理応答]
10	自己保留	25	FAX2		
11	不在設定	26	在席 / 離席		
12	PB 信号	33	外線発信		



※ ワンタッチキーの設定については、p.91「3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する」を参照してください。

1 フレキシブルキー登録メニューを表示する

p.83「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」の手順 1 ～ 3 を行います。

2「3：ファンクションキー」を△、▽で選び、決定を押す

ファンクションキーを登録する画面が表示されます。

```
フレキシブルキー登録
1：オートダイヤルキー
2：短縮キー
3：ファンクションキー
```

3 ファンクションキーを登録するフレキシブルキーを押す

すでに何かの機能が割り付けられているキーを押した場合は、上書きモードになり、次の画面に移ります。

ただし、変更不可能な機能が設定されているキーを押した場合は、この画面が表示されたままになります。別のキーを押し直してください。

```
ファンクションキー登録
  登録　フレキシブルキー押下
  してください
```

ワンタッチキーが設定されているキーには割り付けられません。

4 ファンクション No. を入力して決定を押す

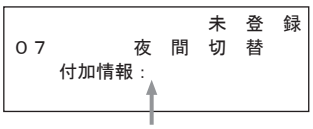
- ファンクション No. はダイヤルキーを押して入力します。
- ファンクション No. に対応した機能名が表示されます。
- ファンクション No. とそれに対応する標準的な機能名については、前ページの表を参照してください。

```
              未　登　録
ファンクションＮｏ：０７
```

次ページに操作つづく

5 ファンクションキーの内容を確認して決定を押す

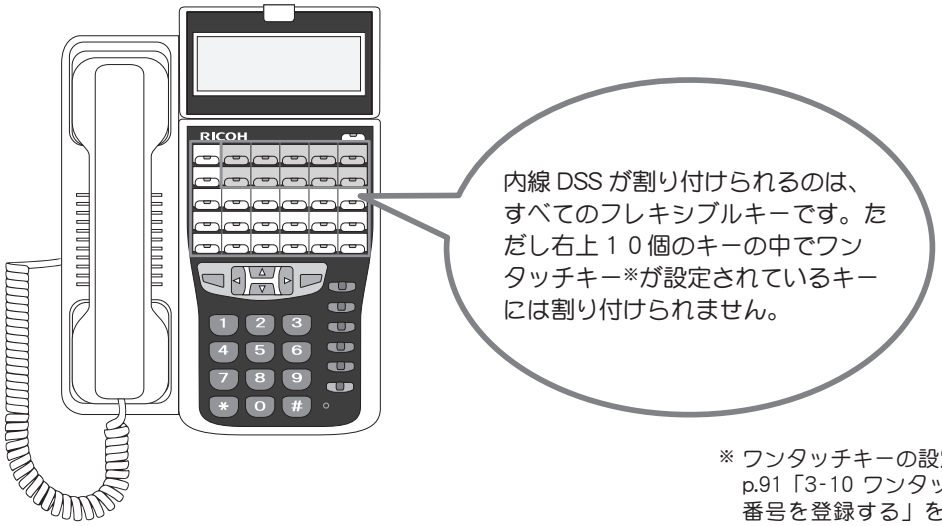
- △ / ▽ を押すと、前後のファンクションNo.の内容を表示することができます。
- ファンクションキーの登録が完了し、手順 3 の画面に戻ります。
- 続けて登録する場合は、手順 3 ～ 4 を繰り返します。終了する場合は、クリアを押します。



付加情報を入力する必要があるファンクションキーの場合は、ここに付加情報も入力します。
付加情報については、販売店にご相談ください。

■ フレキシブルキーに内線 DSS を割り付ける

フレキシブルキーに内線 DSS (Direct Station Selection) を割り付け、相手の内線番号を登録しておくと、ワンタッチのキー操作で呼び出せるようになります。内線 DSS に登録すると、相手の電話機の使用状況が、DSS キーの点灯によってわかるようになります。



※ ワンタッチキーの設定については、p.91「3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する」を参照してください。

1 フレキシブルキー登録メニューを表示する

p.83「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」の手順 1 ～ 3 を行います。

次ページに操作つづく

2 「4：内線ＤＳＳ」を△、▽で選び、決定を押す

内線 DSS を登録する画面が表示されます。

```
フレキシブルキー登録
2：短縮キー
3：ファンクションキー
4：内線ＤＳＳ
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 内線 DSS を登録するフレキシブルキーを押す

すでに何かの機能が割り付けられているキーを押した場合は、上書きモードになり、次の画面に移ります。

ただし、変更不可能な機能が設定されているキーを押した場合は、この画面が表示されたままになります。別のキーを押し直してください。

```
内線ＤＳＳ登録
  登録　フレキシブルキー押下
  してください
```

ワンタッチキーが設定されているキーには割り付けられません。

4 DSS に登録する相手の内線番号を入力して決定を押す

- 内線番号はダイヤルキーを押して入力します。
- 内線 DSS の登録が完了し、手順 3 の画面に戻ります。
- 続けて登録する場合は、手順 3 ～ 4 を繰り返します。終了する場合は、クリアを押します。

```
          未　登　録
          ＤＳＳ：１１１
```

■ フレキシブルキーの割付けをクリアする

フレキシブルキーに割り付けた機能を、キーごとにクリアすることができます。

1 フレキシブルキー登録メニューを表示する

p.83「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」の手順 1 ～ 3 を行ってください。

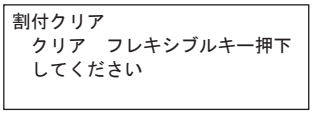
2 「5：割付クリア」を▽、△で選び、決定を押す

割付けをクリアするための画面が表示されます。

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

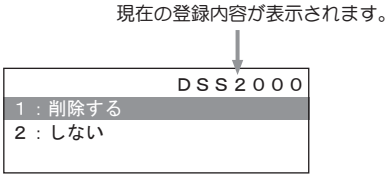
3 割付けをクリアするフレキシブルキーを押す

- 変更不可能な機能が割り付けられているキーを押した場合は、この画面が表示されたままになります。
- 割付けをクリアしてよいかを確認する画面が表示されます。



4 削除してよい場合は、「1：削除する」を▽、△で選び、決定を押す

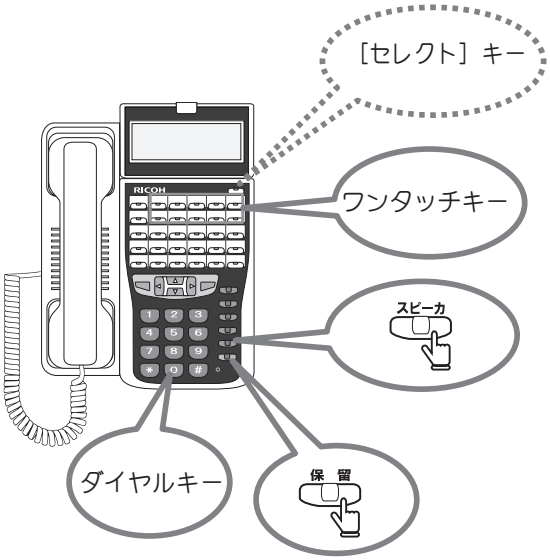
- 割付けがクリアされ、手順 3 の画面に戻ります。
- 続けて他のキーの割付けもクリアする場合は、手順 3 ～ 4 を繰り返します。終了する場合は、クリアを押します。



3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する

ワンタッチキーに電話番号を登録しておくと、ワンタッチで電話をかけることができます。
ワンタッチキーは、フレキシブルキーの右上の 10 個のキーです。各ワンタッチキーは、2 つの電話番号を［セレクト］キーで切り替えて使用することができるので、最大 20 個の電話番号を登録することができます。

ワンタッチキーの登録は、以下のキーを使って行います。



※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

メモ

- ワンタッチキーには表面と裏面があると考えることができます。表面に電話番号を登録する場合は、ワンタッチキーだけを押しますが、裏面に電話番号を登録する場合は、［セレクト］キーを押してからワンタッチキーを押します。なお、裏面に登録した番号に電話をかけるときも、ワンタッチキーを押す前に［セレクト］キーを押す必要があります。
- ワンタッチキーへの電話番号の登録操作で使用するキーは、保 留 と スピーカ です。

1 電話機が待受状態のとき、保 留 を押す

- スピーカ が赤点灯します。
- ディスプレイに「登　録　コード？」と表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/07  Tue  16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

2 電話番号を登録するワンタッチキー を押す

- ワンタッチキーの裏面に電話番号を登録する場合は、ワンタッチキーを押す前に［セレクト］キーを押します。
- ワンタッチキーに現在登録されている番号が表示されます。

```
          Tel. 100
  登 録 コード?
```

［セレクト］キーは、裏面選択時に赤点灯します。

3 番号種別を以下の中から選んでダイヤルキーで入力する

0 ：外線

1 ：内線

2 ABC ：PBX

入力した番号種別が表示され、電話番号を入力する画面が表示されます。

```
                  未 登 録
  番 号 種 別:
```

現在登録されている電話番号が表示されます。何も登録されていない場合は「未登録」と表示されます。

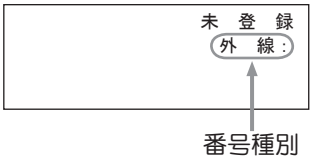
すでに電話番号が登録されているキーを押した場合は、このあとの操作を行うと上書きされます。

操作を取り消す場合は、スピーカ を押してください。

次ページに操作つづく

4 登録する電話番号をダイヤルキーで入力する

入力した電話番号が表示されます。



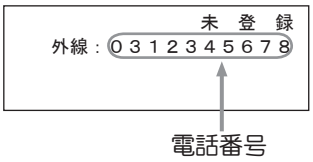
番号種別は、手順4で押したダイヤルキーによって、以下のように表示されます。

- 0：外線
- 1：全桁展開
- 2 ABC：PBX

※内線は「全桁展開」と表示されます。

5 登録内容を確認し、保留を押す

- ワンタッチキーに電話番号が登録されます。
- 続けて登録する場合は、手順2～5を繰り返します。
- 終了する場合は、スピーカを押します。スピーカのランプが消灯します。



登録されている番号を確認するには

ワンタッチキーに登録されている番号を確認する場合は、保留を押して、ワンタッチキーを押します。登録されている番号がディスプレイに表示されます。確認が終わったら、スピーカを押します。

登録されている番号を削除するには

ワンタッチキーに登録されている番号を削除する場合は、上記の操作で登録番号を確認した後、保留を押してからスピーカを押します。登録内容が削除されます。

電話番号として登録できる情報

手順4の電話番号登録時に、以下の情報を登録することができます。

- PB 信号切替
  電話番号を入力している途中でPB信号を押すと、PB 信号に切り替えることができます。このキーを押すと、「P」と表示されます。
- ARS 停止
  電話番号を入力する前にARS停止を押すと、ARS 停止を登録できます。このキーを押すと、「N」と表示されます。
- 発番号非通知発信
  電話番号を入力する前に非通知を押すと、発番号非通知発信を登録できます。このキーを押すと、「H」と表示されます。

上記の情報を登録するためには、フレキシブルキーに各機能を割り付けておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

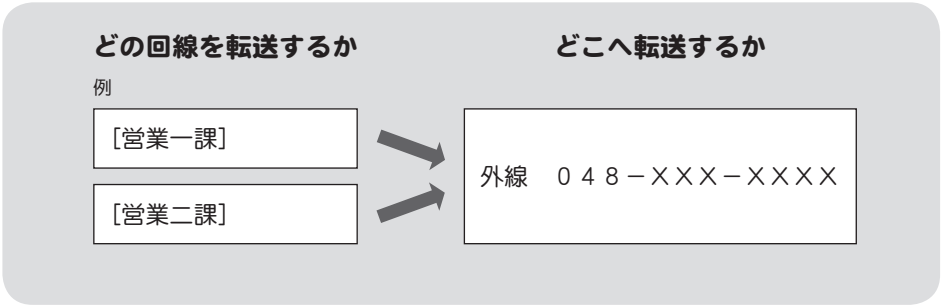
第４章 電話の便利な使い方

4-1 指定した外線を別の外線へ転送する（自動転送）…… 94
4-2 不在時に他の電話へ転送する ……97
4-3 夜間モードに切り替える …… 104
4-4 着信を１台の電話機で受ける …… 107
4-5 迷惑電話を拒否する …… 108
4-6 ３人以上で通話する …… 115
4-7 内線をもっと活用する …… 118
4-8 回線の数を制限する …… 130
4-9 外出時に便利な機能 …… 132
4-10 その他の便利な機能 …… 135

4-1 指定した外線を別の外線へ転送する（自動転送）

（転送電話）

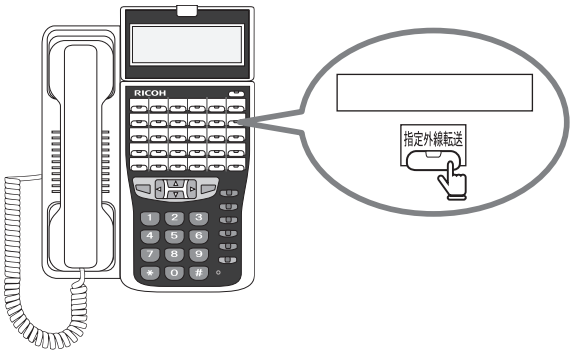
ある回線にかかってきた電話を、あらかじめ指定した外線番号へ自動的に転送することができます。たとえば、「営業一課」と「営業二課」にかかってくる電話をすべて、XXX-XXX-XXXX に転送するという設定ができます。転送先として内線の電話番号を登録することはできません。



転送先をあらかじめ設定しておいて、自動転送したいときにモードを切り替えます。

➤➤ この機能を利用するにはフレキシブルキーに［指定外線転送］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

■ 転送電話を有効にする／解除する



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）転送電話

転送電話を有効にする

1 電話機が待受状態のときに、

を押す

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Ｔｅｌ．１００
１１／０７　Ｔｕｅ　１６：００
```

次ページに操作つづく

2 転送する回線に割り付けられているキー（[外線 1］など）を押す

転送する回線が複数ある場合は、続けてその回線のキーも押します。（[外線 2］、[外線 3］など）

3 保留を押す

転送電話が有効になります。

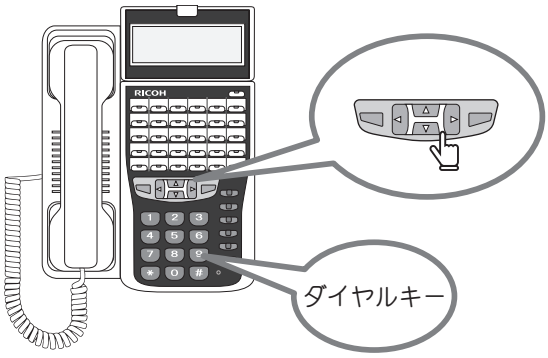
転送電話を解除する

1 赤く点灯している指定外線転送を押す

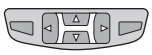
転送電話が解除されます。

■ 転送する回線と転送先の外線を指定する

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力して行います。



メモ

転送先の外線の設定は、ディスプレイのメニューを使って設定します。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

ここでは、一般電話機から、管理者用パスワードを入力して、転送する回線と転送先の外線を指定する方法を説明します。システム管理電話機では、手順 2 ～ 3 の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。
その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/07 Tue 16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

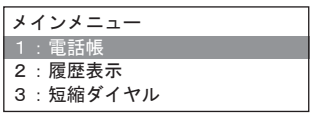
パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

次ページに操作つづく

2 (0)を押す

管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力する画面が表示されます。

※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。

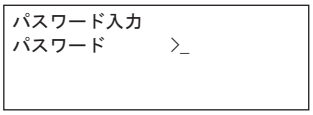


「０：」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード（数字４桁）を入力し、決定を押す

メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目も表示されます。

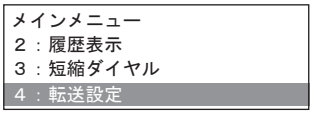
※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。



管理者用パスワードについては、販売店にご相談ください。

4「４：転送設定」を△、▽で選び、決定を押す

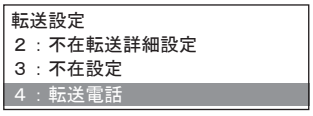
転送設定メニューが表示されます。



メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

5「４：転送電話」を△、▽で選び、決定を押す

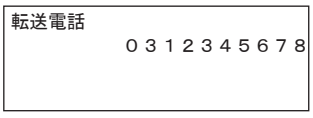
転送電話メニューが表示されます。



6 どの回線にかかってきた電話を転送するかを外線キーを押して指定する

転送先の番号を設定する画面が表示されます。

7 ダイヤルキーで、転送先の電話番号を入力する

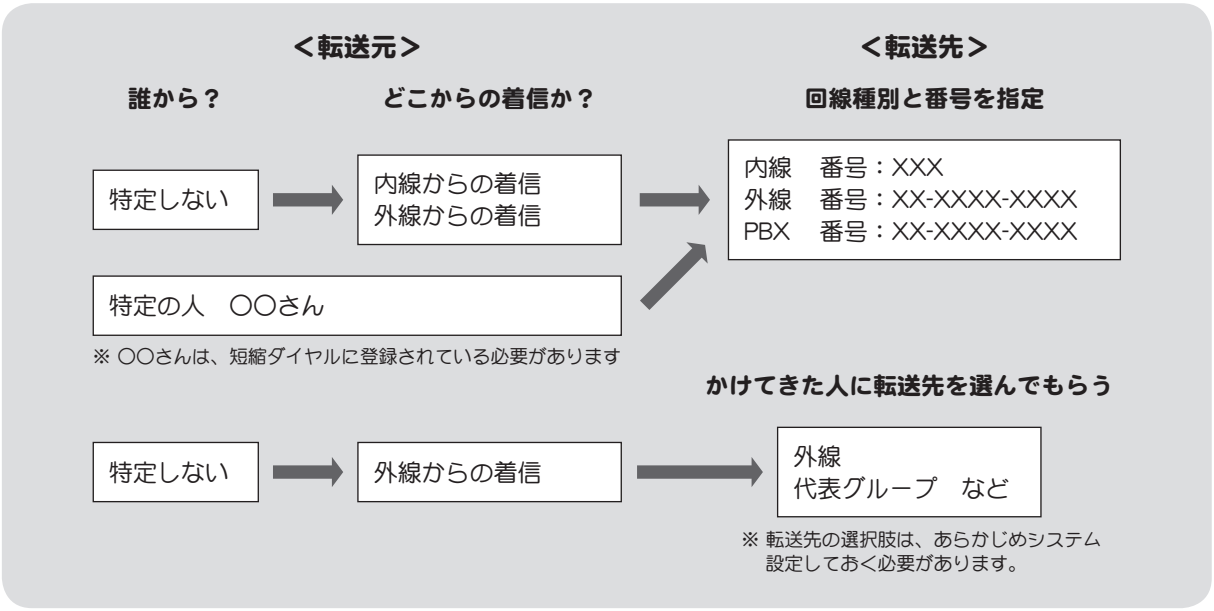


8 決定を押す

転送する回線と転送先が設定され、転送設定メニューに戻ります。

4-2 不在時に他の電話へ転送する

不在時にかかってくる電話を、あらかじめ指定した転送先へ自動的に転送することができます。
自動転送では、転送元と転送先を以下のように指定することができます。



あらかじめ転送方法を設定しておくと、不在にするときはワンタッチで不在転送モードにすることができます。ここでは、以下の順に説明します。

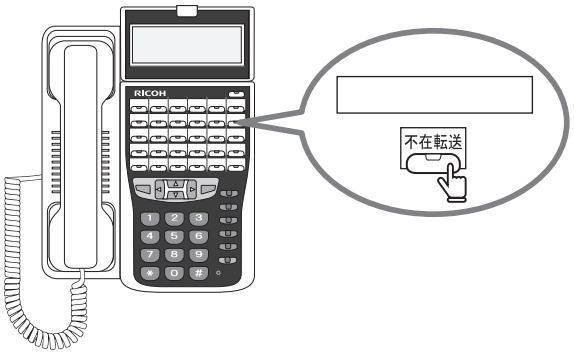
操　作		説明箇所	
不在にするときの操作		不在転送を有効にする／解除する	p.98
あらかじめ設定しておく操作	基本	かかってきた電話の転送先を設定する	p.99
	応用	かかってきた相手によって転送先を設定する	p.101

■ 不在転送を有効にする／解除する

（不在転送）

自動転送を有効にするには、あらかじめ転送方法を設定しておく必要があります。転送方法の設定については、以降の該当する手順を参照してください。
不在にする場合は、以下の操作を行って自動転送を有効にします。

➤➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに［不在転送］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）転送
不在転送

不在転送を有効にする

1 不在転送を押したあと、保留を押す

不在転送のランプが赤く点灯し、不在転送が有効になります。

待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

不在転送を解除する

1 赤く点灯している不在転送を押す

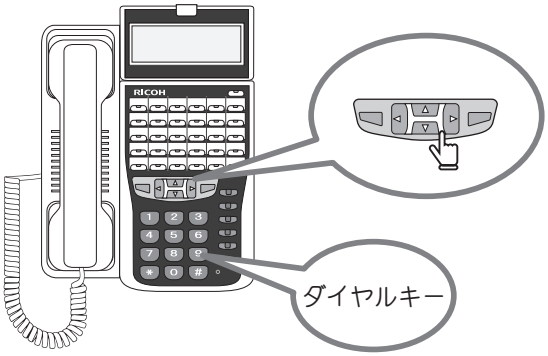
不在転送のランプが消灯し、不在転送が解除されます。

待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

メモ 不在転送先が内線の場合は、不在転送のあとに内線番号をダイヤルして保留を押すことで、不在転送先も登録できます。

■ かかってきた電話の転送先を設定する

不在時の転送先の電話番号を設定します。転送先には内線、外線、PBX が指定できるので、種別ごとに電話番号を設定しておくことができます。(PBX は、構内交換機収容の内線です。)



メモ

転送先の電話番号の設定は、ディスプレイのメニューを使って設定します。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

1 電話機が待受状態のとき、決定 を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。
その場合は、パスワード(数字 4 桁)を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード        >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/07 Tue 16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「4 : 転送設定」を △、▽ で選び、決定 を押す

転送設定メニューが表示されます。

```
メインメニュー
2 : 履歴表示
3 : 短縮ダイヤル
4 : 転送設定
```

メニューに表示されていない項目は、▽ を押してカーソルを移動させると表示できます。△ を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 「1 : 不在転送設定」を △、▽ で選び、決定 を押す

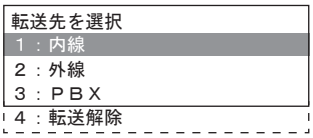
転送先を設定する画面が表示されます。

```
転送設定
1 : 不在転送設定
2 : 不在転送詳細設定
3 : 不在設定
```

次ページに操作つづく

4 転送先の種別を△、▽で選び、決定を押す

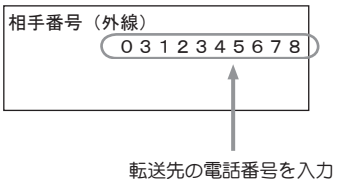
内線／外線／ PBX の３種類から選択します。
転送先の番号を入力する画面が表示されます。



「４：転送解除」を選択すると、転送先として登録されている番号が削除されます。

5 ダイヤルキーで、転送先の電話番号を入力し、決定を押す

転送先の電話番号が登録され、転送設定メニューに戻ります。



■ かかってきた相手によって転送先を設定する

不在時の転送について、転送元と転送先を設定します。

■ 転送元

転送元には以下の 5 種類が選択できます。

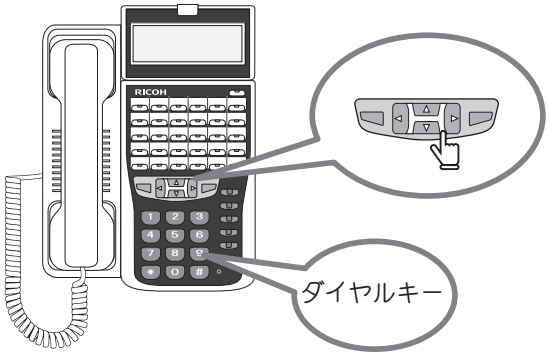
1：内線からの着信を転送　→　転送先を設定します。
2：外線からの着信を転送　→　転送先を設定します。
3：専用線からの着信を転送　→　転送先を設定します。（ＩＭシリーズでは未サポート）
4：発信者選択による転送　→　あらかじめ転送先を設定するのではなく、発信者が転送先を選択します。
5：発信者番号別に転送　→　転送先を設定します。
発信者として設定できるのは、短縮ダイヤルに登録されている相手だけです。

■ 転送先

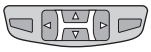
転送先には内線、外線、PBX が指定できるので、種別ごとに電話番号を設定しておくことができます。（PBX は、構内交換機収容の内線です。）

メモ

「5：発信者番号別に転送」で設定されている転送先は、「2：外線からの着信を転送」の転送先よりも優先されます。外線からの着信については、両方に該当する場合がありますが、その場合「5：発信者番号別に転送」で設定されている転送先へ転送されます。



メモ

転送元と転送先の設定は、ディスプレイのメニューを使って設定します。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

1 電話機が待受状態のとき、決定 を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。
その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード        >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11／07  Tue  16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

次ページに操作つづく

2「４：転送設定」を△、▽で選び、決定を押す

転送設定メニューが表示されます。

メインメニュー
２：履歴表示
３：短縮ダイヤル
４：転送設定

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3「２:不在転送詳細設定」を△、▽で選び、決定を押す

不在転送詳細設定メニューが表示されます。

転送設定
１：不在転送設定
２：不在転送詳細設定
３：不在設定

4 転送元を△、▽で選び、決定を押す

➤➤ 以下を選んだ場合は、手順 7 に進みます。

「１：内線からの着信を転送」
「２：外線からの着信を転送」
「３：専用線からの着信を転送」
「４：発信者選択による転送」

➤➤ 以下を選んだ場合は、手順 5 に進みます。

「５：発信者番号別に転送」

不在転送詳細設定
１：内線からの着信を転送
２：外線からの着信を転送
３：専用線からの着信を転送
４：発信者選択による転送
５：発信者番号別に転送

5 転送元の短縮ダイヤルのメモリ番号（短縮番号）を入力する

相手の電話番号、名前が表示されます。

外線として登録された、短縮ダイヤルのメモリ番号の一番若い番号が表示されます。

０００：０３１２３４５６７８９
短縮ダイヤルメモリ番号：
山田吾郎

ここにメモリ番号を入力

6 相手を確かめて決定を押す

転送元が設定され、転送先を選択するための画面が表示されます。

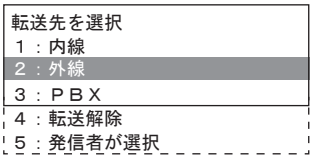
１００：９８７６５４３２１０
短縮ダイヤルメモリ番号：１００
田中太郎

▽、△を押して、他のメモリ番号に登録されている情報を表示することができます。

次ページに操作つづく

7 転送先を△、▽で選び、決定を押す

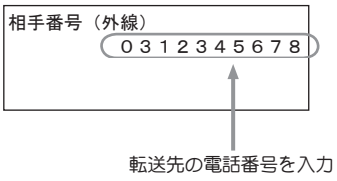
選んだ転送先の電話番号を入力する画面が表示されます。



手順**4**で「2：外線からの着信を転送」、「5：発信者番号別に転送」を選択している場合のみ、「5：発信者が選択」が表示されます。ここで、「5：発信者が選択」を選ぶと設定は完了になります。

8 ダイヤルキーで、転送先の電話番号を入力し、決定を押す

- p.99「かかってきた電話の転送先を設定する」の操作で、すでに転送先の番号が登録されている場合は、その番号が表示されます。
- 転送元と転送先が設定され、不在転送詳細設定メニューに戻ります。



かけてきた人が転送先を選ぶ場合の操作

上記の設定で、「4：発信者選択による転送」を選んだ場合、かけてきた人の操作は以下のようになります。

1. 電話がつながり、ガイダンスが聞こえます。
2. ガイダンスにしたがって、ダイヤルキーで転送先を選択します。
3. 転送先に接続されます。

4-3 夜間モードに切り替える

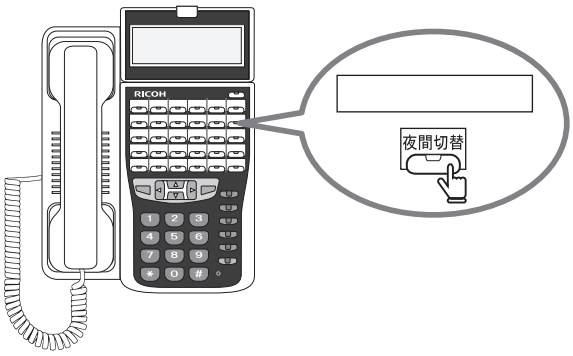
夜間や留守のとき、外線ごとに着信音を鳴らす電話機、鳴らさない電話機を指定できます。着信音は鳴らなくても外線ランプは点滅します。
あらかじめ着信音について設定しておくと、ワンタッチで昼／夜モードを切り替えることができます。

■ 昼／夜モードを切り替える

（昼夜切替え）

昼／夜モードの切替えを行います。

>> この機能を利用するには、フレキシブルキーに［夜間切替］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）昼夜切替
夜間切替

夜間モードにする

1 夜間切替 を押す

夜間切替 のランプが赤く点灯し、夜間モードに設定されます。

電話機が待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

夜間モードを解除する

1 赤く点灯している 夜間切替 を押す

夜間切替 のランプが消灯し、夜間モードが解除されます。

電話機が待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

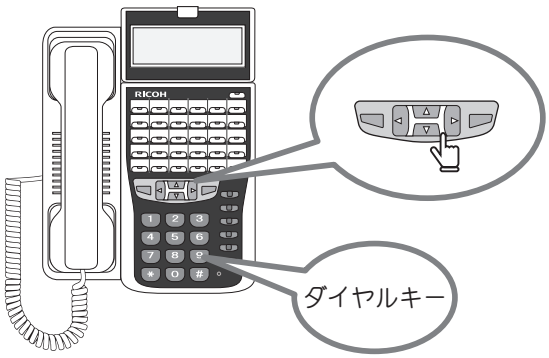
設定 あらかじめデータ設定しておくことにより、指定時刻および指定曜日に夜間モードに自動的に切り替えることができます。このような設定については、販売店にご相談ください。

例） 土、日、祝祭日 …… 終日夜間モード
平日 …… 18:00 ～翌 9:00 夜間モード

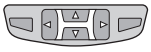
■ 昼夜の着信音を設定する

昼間と夜間それぞれについて、着信音を鳴らす／鳴らさないを選択できます。

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力して行います。



メモ

昼夜の着信音の設定は、ディスプレイのメニューを使って設定します。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

ここでは、一般電話機から、管理者用パスワードを入力して、昼夜の着信音を設定する方法を説明します。システム管理電話機では、手順2～3の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。
その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11／07 Tue 16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 0を押す

管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力する画面が表示されます。

※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。

```
メインメニュー
1：電話帳
2：履歴表示
3：短縮ダイヤル
```

「0：」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード（数字4桁）を入力し、決定を押す

メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目も表示されます。

※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。

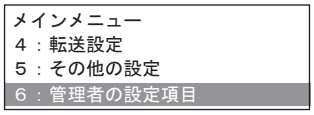
```
パスワード入力
パスワード       >_
```

管理者用パスワードについては、販売店にご相談ください。

次ページに操作つづく

4 **「６:管理者の設定項目」を△、▽で選び、決定を押す**

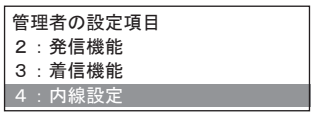
管理者の設定項目メニューが表示されます。



メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

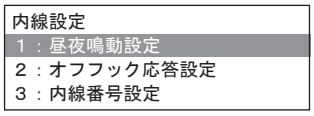
5 **「４：内線設定」を△、▽で選び、決定を押す**

内線設定メニューが表示されます。



6 **「１:昼夜鳴動設定」を△、▽で選び、決定を押す**

昼間の鳴動を設定する画面が表示されます。



7 **昼間の鳴動のあり／なしを△、▽で選び、決定を押す**

夜間の鳴動を設定する画面が表示されます。

8 **夜間の鳴動のあり／なしを△、▽で選び、決定を押す**

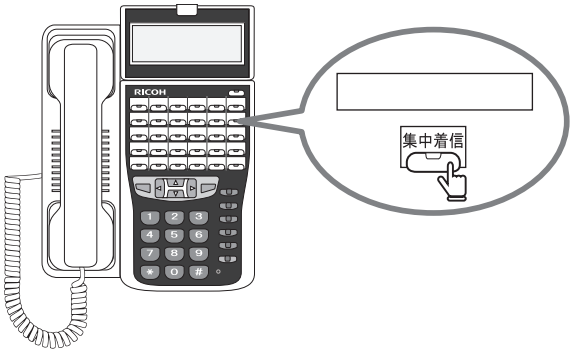
昼夜の鳴動について設定され、内線設定メニューに戻ります。

4-4 着信を 1 台の電話機で受ける

（集中着信）

夜間など、決まった電話だけで着信応答を行いたい場合は、1 台の電話だけに集中して着信させることができます。これを集中着信と呼びます。
集中着信では、個別着信を除くすべての外線着信を、グループ分けに関係なく 1 台の電話機で受けることができます。集中着信中は受話器を上げるだけで応答できます。

➤➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに［集中着信］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）集中
集中着信

集中着信を設定する／解除する

待受状態のときに、受話器を上げて操作します。

1 集中着信を設定する電話機で、集中着信を押す

集中着信のランプは赤く点灯します。

2 解除するときは、赤く点灯している集中着信を押す

集中着信のランプは消灯します。

集中着信に応答する

集中着信を設定した電話機で、外線着信音が鳴り、回線ランプが赤く点滅したら、以下の操作を行います。

1 受話器を上げる

- 通話ができる状態になります。
- 外線ランプは緑点灯に変わります。

2 通話が終了したら受話器を戻す

使用した外線ランプは消灯します。

4-5 迷惑電話を拒否する

非通知やあらかじめ登録しておいた電話番号から電話がかかってきた場合に、着信を拒否することができます。迷惑電話を拒否するには、拒否する番号の登録と対処方法の選択が必要になります。

設定 この機能を利用するには、販売店にご相談ください。
また、この機能を利用するには、通信事業者（NTT など）が提供する、発信者の番号を表示するサービスが必要です。

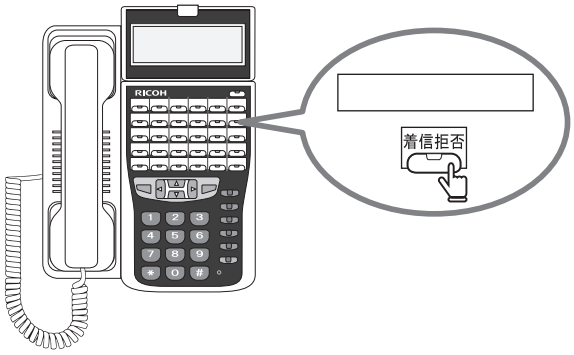
メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力して行います。

設定項目	説明箇所	
迷惑電話の番号	通話中の相手を着信拒否に設定する	p.108
	着信記録から相手を選んで着信拒否に設定する	p.109
	着信拒否の電話番号を登録する	p.110
	着信拒否の電話番号を削除する	p.112
迷惑電話への対処方法	迷惑電話への対処方法を設定する	p.114

■ 通話中の相手を着信拒否に設定する

現在通話中の相手を着信拒否に設定することができます。

>> この機能を利用するには、フレキシブルキーに［着信拒否］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



1 通話中に 着信拒否 を押す

通話相手の電話番号が着信拒否として登録されます。

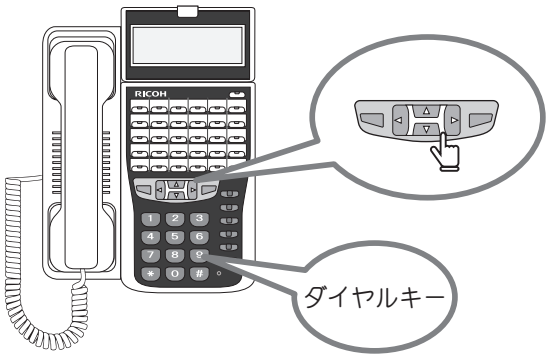
メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）拒否
着信拒否

■ 着信記録から相手を選んで着信拒否に設定する

着信記録から着信拒否に設定する相手を選ぶことができます。



メモ

着信記録は、ディスプレイのメニューから表示します。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

1 着信拒否に設定する着信記録を表示する

着信記録の表示方法は、p.71「着信記録を表示する」を参照してください。

```
着信記録（内線へ直接着信）０１
０１／１５　１３：４５　通話
　　０３ｘｘｘｘｘｘｘｘｘ
```

一般電話機からこの操作を行う場合は、メインメニューで管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力してから、着信記録を表示してください。管理者用パスワードの入力方法は、次ページの**1**～**3**を参照してください。

2 決定 を押す

編集メニューが表示されます。

3「4：着信拒否登録」を ▽ 、 △ で選び、決定 を押す

確認する画面が表示されます。

```
編集
２：記録削除
３：全記録削除
４：着信拒否登録
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

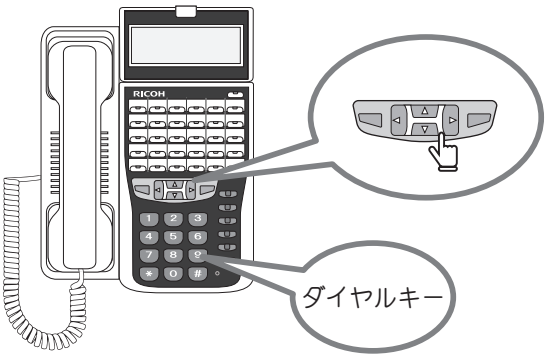
4「1：はい」を ▽ 、 △ で選び、決定 を押す

選択した電話番号が着信拒否に登録されます。

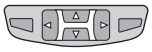
```
着信拒否登録しますか？
１：はい
２：いいえ
```

■ 着信拒否の電話番号を登録する

着信を拒否する電話番号をダイヤルして登録します。



メモ

着信拒否の番号をダイヤルして登録する場合は、ディスプレイのメニューから行います。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

ここでは、一般電話機から、管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力して、着信拒否の電話番号を登録する方法を説明します。システム管理電話機では、手順 2 ～ 3 の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。
その場合は、パスワード（数字 4 桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/07 Tue 16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 0 を押す

管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力する画面が表示されます。

※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。

```
メインメニュー
1：電話帳
2：履歴表示
3：短縮ダイヤル
```

「0 ：」はメニューにはありません。

3 管理者用パスワード（数字 4 桁）を入力し、決定を押す

メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目も表示されます。

※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。

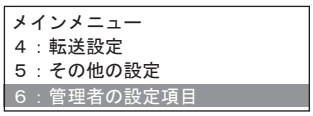
```
パスワード入力
パスワード       >_
```

管理者用パスワードについては、販売店にご相談ください。

次ページに操作つづく

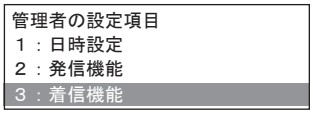
4 **「6:管理者の設定項目」を△、▽で選び、決定を押す**

管理者の設定項目メニューが表示されます。



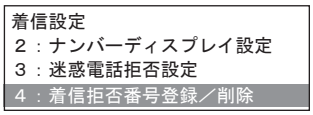
5 **「3：着信機能」を△、▽で選び、決定を押す**

着信設定メニューが表示されます。



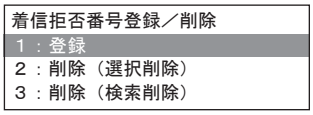
6 **「4：着信拒否番号登録／削除」を△、▽で選び、決定を押す**

着信拒否番号登録／削除メニューが表示されます。



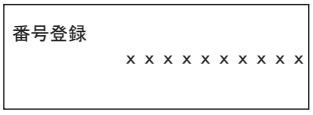
7 **「1:登録」を△、▽で選び、決定を押す**

番号を登録する画面が表示されます。



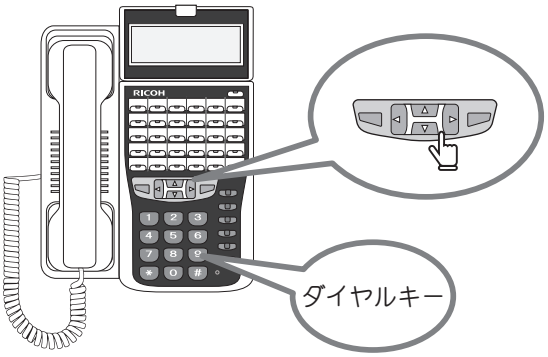
8 **ダイヤルキーで着信拒否する番号を入力し、決定を押す**

入力した電話番号が着信拒否に登録され、着信拒否番号登録／削除メニューに戻ります。

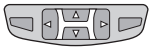


■ 着信拒否の電話番号を削除する

着信拒否の電話番号として登録した番号を、着信拒否の登録から削除します。着信拒否に登録している番号が多い場合は、検索してから削除することができます。



メモ

ディスプレイのメニューから設定します。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

全件を見ながら削除する

1 着信拒否番号登録／削除メニューを表示する

p.110「着信拒否の電話番号を登録する」の手順 1 ～ 6 を行います。

2 「2：削除（選択削除）」を △、▽ で選び、決定 を押す

削除する番号を選ぶ画面が表示されます。

```
着信拒否番号登録／削除
１：登録
２：削除（選択削除）
３：削除（検索削除）
```

3 着信拒否を削除する番号を △、▽ で選び、決定 を押す

削除を確認する画面が表示されます。

```
選択削除          Ｎｏ．ｘｘｘ
                  ｘｘｘｘｘｘｘｘｘｘ
```

▽ を押すと、着信拒否に登録されている番号が順番に表示されます。△ を押すと前に戻ります。

4 削除してよい場合は、「1：はい」を △、▽ で選び、決定 を押す

選択した番号が着信拒否の登録から削除され、着信拒否番号登録／削除メニューに戻ります。

```
削除しますか？
１：はい
２：いいえ
```

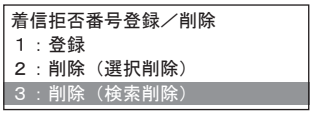
番号を検索してから削除する

1 着信拒否番号登録／削除メニューを表示する

p.110「着信拒否の電話番号を登録する」の手順 1 ～ 6 を行います。

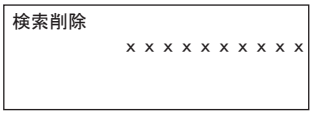
2 「3:削除（検索削除）」を△、▽で選び、決定を押す

検索のために番号を入力する画面が表示されます。



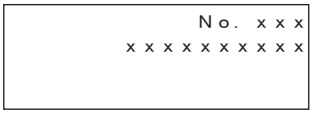
3 ダイヤルキーで電話番号を入力し、決定を押す

検索結果が表示されます。



4 表示された番号を確認し、決定を押す

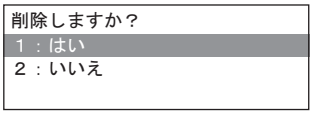
削除を確認する画面が表示されます。



▽を押すと、着信拒否に登録されている番号が順番に表示されます。△を押すと前に戻ります。

5 削除してよい場合は、「1：はい」を△、▽で選び、決定を押す

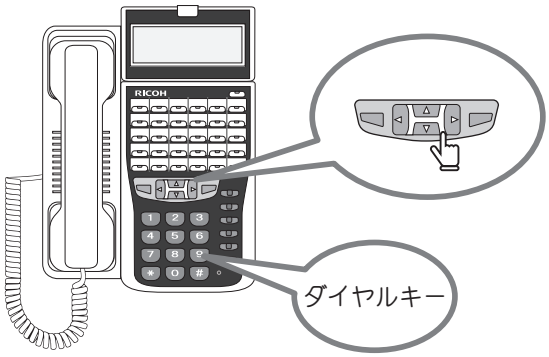
選択した番号が着信拒否の登録から削除され、着信拒否番号登録／削除メニューに戻ります。



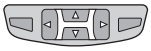
■ 迷惑電話への対処方法を設定する

迷惑電話に対して、どのように対処するかを以下の3種類から選んで設定することができます。

対処の種類	電話への接続	相手に聞こえるガイダンス
拒否	自動的に切断	なし
ガイダンス1	ガイダンスを流したあと切断	「申し訳ございませんがおつなぎできません。」
ガイダンス2	ガイダンスを流したあと切断	「申し訳ございませんがおつなぎできません。 恐れ入りますが、電話番号の前に186をつけてダイヤルするなど、あなたの電話番号を通知しておかけ直しください。」



メモ

迷惑電話への対処方法は、ディスプレイのメニューから設定します。
ディスプレイのメニューは

とダイヤルキーで操作します。

1 着信設定メニューを表示する

p.110「着信拒否の電話番号を登録する」の手順 1 ～ 5 を行います。

2 「3:迷惑電話拒否設定」を △、▽で選び、決定を押す

迷惑電話拒否設定メニューが表示されます。

```
着信設定
1：着信形式
2：ナンバーディスプレイ設定
3：迷惑電話拒否設定
```

3 登録した着信拒否番号への対応方法を △、▽で選び、決定を押す

続いて、非通知番号への対応方法を選択する画面が表示されます。

```
迷惑電話拒否設定
1：着信可
2：拒否
3：ガイダンス
```

「1:着信可」を選んだ場合は、着信拒否番号から電話があっても、すべて着信されます。

4 非通知番号<通知不可>への対応方法を △、▽で選び、決定を押す

```
非通知着信拒否<通知不可>
1：着信可
2：拒否
3：ガイダンス1
4：ガイダンス2
```

5 非通知番号<通知不可以外>への対応方法を △、▽で選び、決定を押す

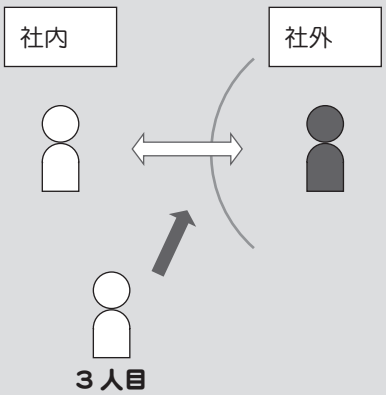
迷惑電話への対応方法が設定され、着信設定メニューに戻ります。

```
非通知着信拒否<通知不可以外>
1：着信可
2：拒否
3：ガイダンス1
4：ガイダンス2
```

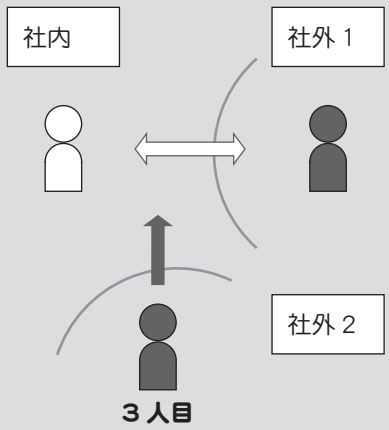
4-6 3人以上で通話する

電話機は通常1対1の通話となっており、他人が聞くことができない状態になっています。この秘話状態を解除することで3人以上で通話することができます。
ここでは、以下の2つのパターンについて説明します。

パターン1：外線で通話中に社内の人を加える



パターン2：外線で通話中に他の外線に電話してその人を加える



➤➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに［秘話 / 会議］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

■ 社内の人を口頭で呼びかけて会議通話に加える

（秘話解除）

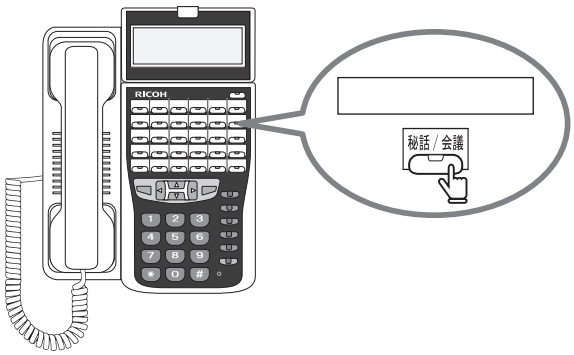
外線との通話中に秘話を解除し、もう1人社内の人を通話に加えて3者による通話ができます。

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）会議通話

参加を呼びかける人の操作



1 通話相手に、もう 1 人加えることを伝え、秘話 / 会議 を押す

秘話は解除されます。
ディスプレイの 2 段目に、『会議通話』と表示されます。

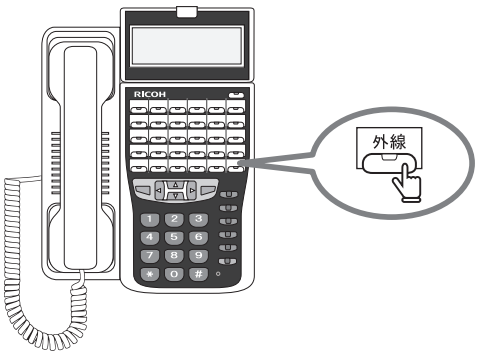
会議通話

2 通話に加わる人に口頭で呼びかける

たとえば、「鈴木さん。[外線 1] の通話に加わってください。」と呼びかけます。

3 3者で通話する

新たに参加する人の操作



1 呼びかけられた人は受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 指定された外線キー (たとえば[外線 1]) を押す

3 3者で通話する

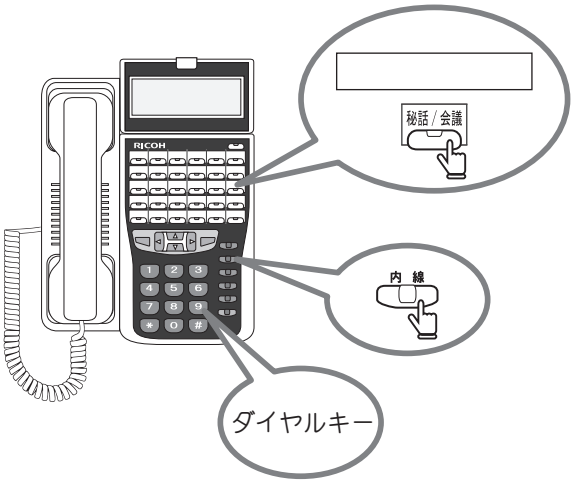
メモ

- 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、呼びかけられた人は、手順 1 と 2 を逆に行います。
- 会議通話中、同様の操作で別の相手にダイヤルして、最大 4 者による会議通話をすることができます。

■ 社内外で会議通話をする

（会議通話）

外線または内線と通話中に、もう１人に電話をかけ会議通話に参加させることができます。



※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）秘話解除

秘話 / 会議

1 通話相手に会議通話をはじめることを伝え、内 線 を押す

2 外線または内線にダイヤルする

3 相手が応答したら、会議通話に加わるよう伝える

たとえば、「今〇〇の件で田中さんと話しています。山田さんも加わってください。」と伝えます。

4 了解を得てから 秘話 / 会議 を押す

・秘話 / 会議ランプは赤点灯します。
・３者で会議通話ができます。

ディスプレイの２段目に、「会議通話」と表示されます。

```
          Tel. 100
会 議 通 話
```

メモ 会議通話中、同様の操作で別の相手にダイヤルして、最大４者による会議通話をすることができます。

4-7 内線をもっと活用する

内線にはいろいろな機能があります。ここでは次のような場合に利用できる便利な機能を紹介します。

■ 席を離れるとき

説明箇所	
不在時にかかってきた内線の相手にメッセージを送る	p.119
転送先の内線から転送指示をする	p.121

■ 他の内線を呼び出すとき

説明箇所	
グループ内の電話を一斉に音声で呼び出す	p.122
グループ内の一斉音声呼出しを受ける	p.123
他のグループを呼び出す	p.124

■ 他の内線に代わって応答するとき

説明箇所	
グループ内の電話に代理で応答する	p.125
他グループの電話に代理で応答する	p.126

■ 電話をかけた相手の内線が話し中のとき

説明箇所	
話し中の内線を呼び出す	p.127
話し中の内線を予約する	p.128
話し中の内線の近くの内線を呼び出す	p.129

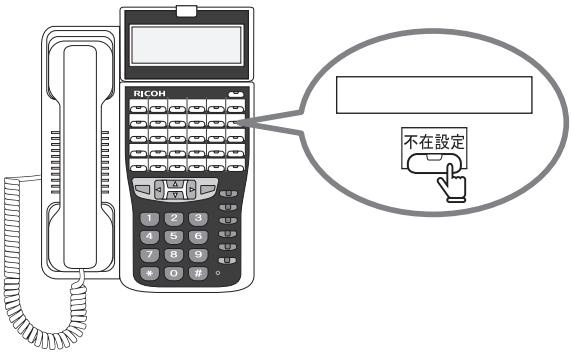
■ 不在時にかかってきた内線の相手にメッセージを送る

（不在設定）

不在中に内線から電話がかかってきた場合、不在設定をしておくことで、相手の電話機に不在メッセージを表示することができます。不在メッセージは以下の３つから選ぶことができます。
1：不在　2：外出　3：会議

>> この機能を利用するには、フレキシブルキーに「不在設定」を登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

不在設定を有効にする／解除する



1 不在設定 **を押す**

不在設定のランプが赤く点灯し、不在設定が有効になります。

2 **解除するときは、赤く点灯している** 不在設定 **を押す**

不在設定のランプが消灯し、不在設定が解除されます。

メモ

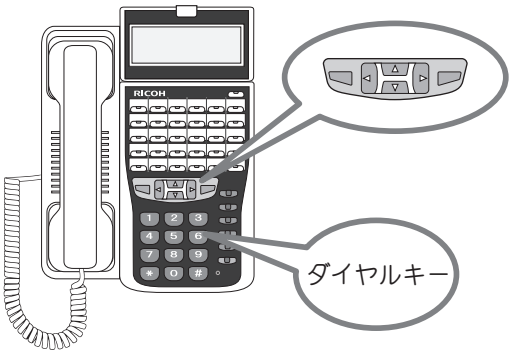
- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）不在メッセージ
不在設定

待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

メモ 「不在転送」（p.98 を参照）と「不在設定」が同時に設定されている電話機では、「不在転送」が優先されます。

不在メッセージを選ぶ



メモ

不在メッセージの選択は、ディスプレイのメニューから行います。

メニューは、△▽◁▷とダイヤルキーで操作します。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11／07  Tue  16：00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「4：転送設定」を△、▽で選び、決定を押す

転送設定メニューが表示されます。

```
メインメニュー
2：履歴表示
3：短縮ダイヤル
4：転送設定
```

3 「3：不在設定」を△、▽で選び、決定を押す

不在理由を選ぶ画面が表示されます。

```
転送設定
1：不在転送設定
2：不在転送詳細設定
3：不在設定
```

4 不在理由を△、▽で選び、決定を押す

不在理由が設定され、転送設定のメニューに戻ります。

```
不在設定＜理由＞
1：不在＊
2：外出
3：会議
```

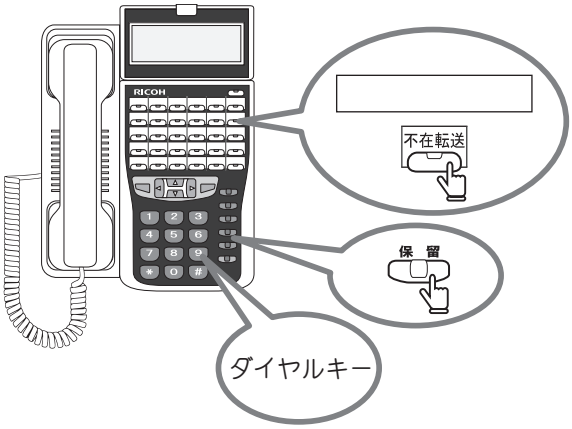
前回の設定時に選択した項目に「＊」が表示されています。

■ 転送先の内線から転送指示をする

（フォローミー）

自分の席の電話機にかかってくる内線を、移動先の内線に転送するように、移動先の電話機から登録することができます。

>> この機能を利用するには、フレキシブルキーに［不在転送］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



※キーを押す順番は、上図ではなく、下の操作手順を参照してください。

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）転送
不在転送

1 転送先の電話機で不在転送を押す

2 自分の内線番号をダイヤルする

3 保 留を押す

・登録が完了します。

・自分の電話機の不在転送のランプが赤く点灯します。

メモ

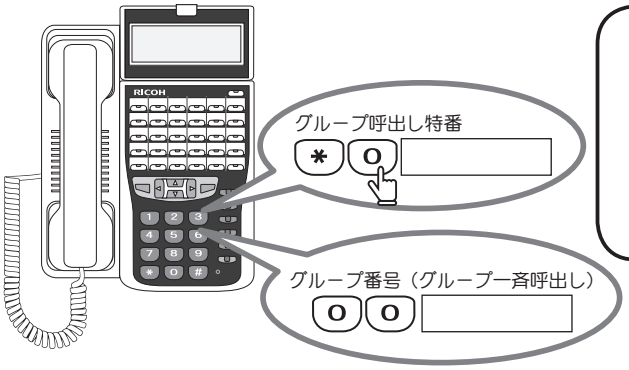
- 転送先の内線から転送指示できるのは、内線着信のみです。
- 転送先の電話機から「不在転送」の解除はできません。「不在転送」の解除は自分の電話機で行ってください。

■ グループ内の電話を一斉に音声で呼び出す

（グループ音声呼出し）

同じグループに設定されている内線の電話機を一斉に音声で呼び出すことができます。

設定 グループの設定については、販売店にご相談ください。



メモ

グループ呼出し特番、グループ番号が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておくと便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 グループ呼出し特番をダイヤルする

初期設定は ＊ 0 です。

3 グループ番号をダイヤルする

初期設定 0 0 は、すべての内線電話の一斉呼出しです。

この呼出しが聞こえたときの電話の受け方は，次の「グループ内の一斉音声呼出しを受ける」を参照してください。

4 受話器でグループ名を呼びかける

たとえば「営業 1 課さん」と呼ぶと、そのグループのすべての電話機の「スピーカ」から呼びかける音声が流れます。

5 相手が応答したら通話する

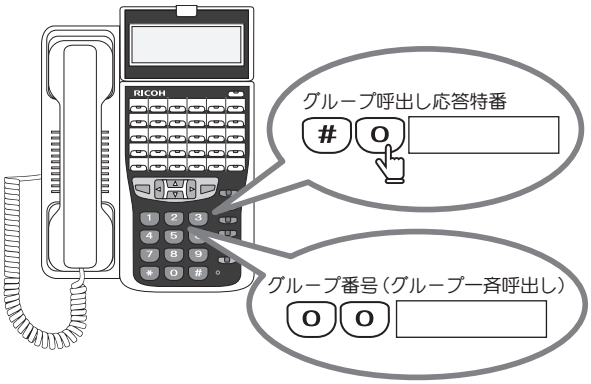
6 通話が終了したら、受話器を戻す

メモ グループ呼出し特番とグループ番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると、操作手順 2 と 3 の操作をワンタッチでできます。p.83「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。
また、グループ内の電話が一斉に音声呼出しを受けたときにもフレキシブルキーが使えます。

■ グループ内の一斉音声呼出しを受ける

（グループ呼出し応答）

グループ内の内線電話が一斉に音声呼出しを受けたときには、グループ内のどの電話機でも応答できます。



メモ

- グループ呼出し応答特番、グループ番号が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておくと便利です。
- 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、操作手順 **2** の前に 内線 を押します。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 グループ呼出し応答の特番をダイヤルする

初期設定は # 0 です。

3 グループ番号をダイヤルする

- 初期設定 0 0 は、すべての内線電話の一斉呼出しです。
- 通話ができる状態になります。

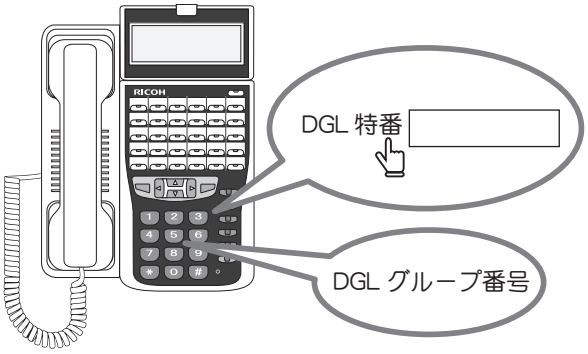
4 通話が終了したら、受話器を戻す

メモ グループ呼出し応答特番とグループ番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると、操作手順 **2** と **3** の操作をワンタッチでできます。p.83「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。
また、グループ内の電話が一斉に音声呼出しを受けたときにもフレキシブルキーが使えます。

■ 他のグループを呼び出す 設定

（DGL グループ呼出し）

営業部、総務部など DGL グループとしてグループ分けされた部署同士で、直接電話をかけることができます。この機能を利用するには、販売店にご相談ください。



メモ

- DGL 特番については、販売店にご相談ください。
- DGL 特番と DGL グループ番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると、操作手順 2 と 3 の操作をワンタッチでできます。p.83「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 DGL 特番をダイヤルする

DGL 特番については販売店にご相談ください。

3 DGL グループ番号をダイヤルする

DGL グループ番号については販売店にご相談ください。

4 相手が応答したら通話する

DGL グループ呼出しを受けた電話では、ディスプレイ上段に「DGL nn」と表示されます。
受話器を上げると、通話ができる状態になります。

```
          DGL  nn
11/07 Tue 16:00
```

nn は DGL グループ番号

5 通話が終了したら、受話器を戻す

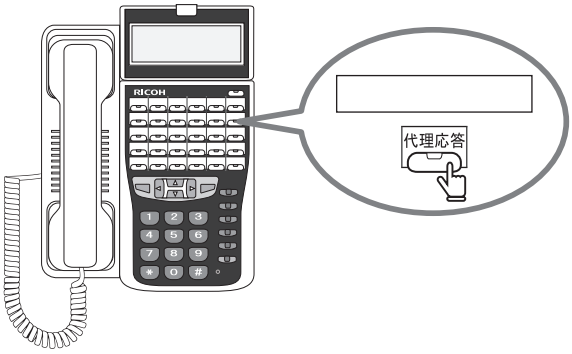
メモ

- DGL グループの着信時、放送装置に着信音を送ることができます。この機能を使うときは、販売店にご相談ください。
- 拡張内線番号を利用することで、DGL グループを内線と同じように呼び出すことができます。この機能を使うときは、販売店にご相談ください。

■ グループ内の電話に代理で応答する

（代理応答）

グループ内の電話機にかかってきた電話を、別の電話機で受けることができます。



内線グループ内の別の内線電話機の着信音が鳴ります。

1 代理応答 **を押す**

2 受話器を上げる

3 通話が終了したら、受話器を戻す

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）代理

代理応答

- 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、操作手順 **2** の前に 内線 を押します。

メモ

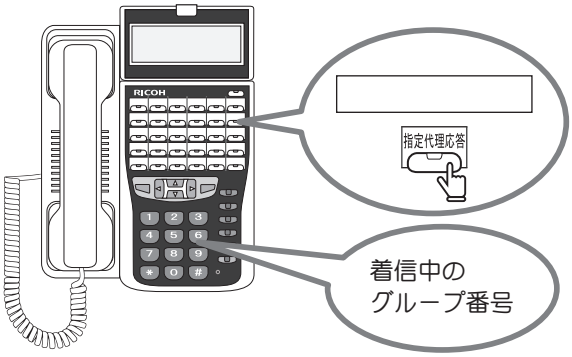
グループ内代理応答には、内線着信のみを指定する内線代理応答と、外線着信のみを代理応答する外線代理応答があります。

- 内線代理応答の場合は、［内線代理応答］キーを押します。
- 外線代理応答の場合は、［外線代理応答］キーを押します。
- 各代理応答キーの他に、特番（初期値：代理応答「11」）を押して代理応答することもできます。

■ 他グループの電話に代理で応答する

（指定代理応答）

他のグループにかかってきた電話を、代わりに受けることができます。この機能を利用するには、販売店にご相談ください。



他のグループの内線電話機の着信音が鳴ります。

1 指定代理応答 **を押す**

2 受話器を上げる

3 着信中のグループ番号をダイヤルする

通話ができる状態になります。

グループ番号については、販売店にご相談ください。

4 通話が終了したら、受話器を戻す

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）指定代理

指定代理応答

- 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）を行っている場合、操作手順 **2** の前に 内線 を押します。

設定 一般着信 /DGL グループ着信の代理応答については、販売店にご相談ください。

■ 話し中の内線を呼び出す 設定

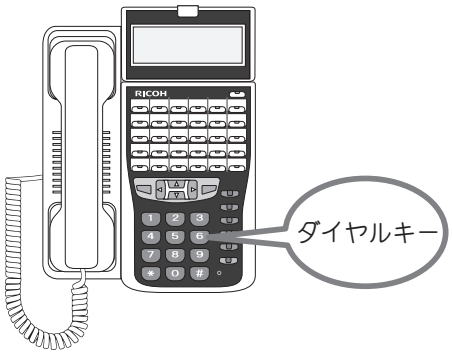
（内線キャッチホン）

電話をかけた相手の内線が通話中のとき、相手のディスプレイに「CWT　相手の内線番号」が示されます。相手がそれを見て早めに電話を終わらせたり、通話中の電話を保留にしてこちらの電話に応答することができます。この機能を利用するには、販売店にご相談ください。

ここでは、相手が通話中の電話を保留にしてこちらの電話に応答するときの操作を説明します。

呼び出す側の操作

自分の電話



1 相手に内線をかける

受話器から「ツーッツーッ」が聞こえます。

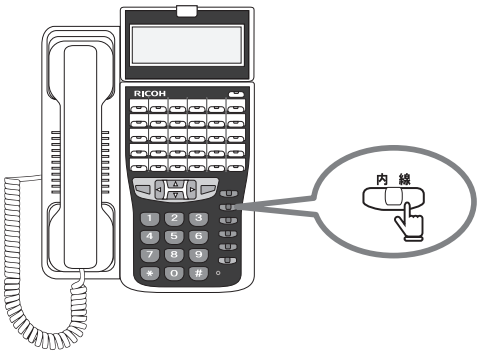
（かけた内線と電話がつながる）

2 通話する

3 通話が終了したら、受話器を戻す

呼び出される側の操作

相手の電話



1 他の電話と通話中

（受話器から「キャッチホン」の信号が聞こえ、ディスプレイには「CWT　相手の内線番号」が表示されます。）

CWT　200
内線100

2 かかってきた内線に応答する場合は、点滅している内線を押す

かかってきた内線電話とつながります。

内線ランプの点滅が遅くなります。

通話中だった相手には、保留音（メロディ）が聞こえます。

3 通話する

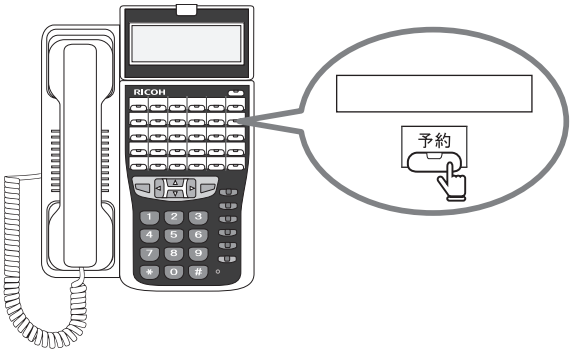
4 前の相手に戻るときは、内線を押す

内線ランプは、赤点灯に戻ります。

■ 話し中の内線を予約する

（内線キャンプオンビジー）

相手の内線が通話中のとき、予約をしておくと、相手の通話が終わったときに空いたことを知らせる呼出し音が鳴ります。



1 相手に内線をかける

受話器から「ツーッツーッ」が聞こえます。

2 予約 **を押す**

予約ランプが赤く点灯します。

3 受話器を戻す

4 呼出し音が鳴ったら受話器を上げる

- 受話器から「プルループルルー」と呼出し音が聞こえ、予約ランプが消灯します。
- 相手が呼び出されます。
- 相手が応答すると、通話ができます。

5 通話が終了したら受話器を戻す

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

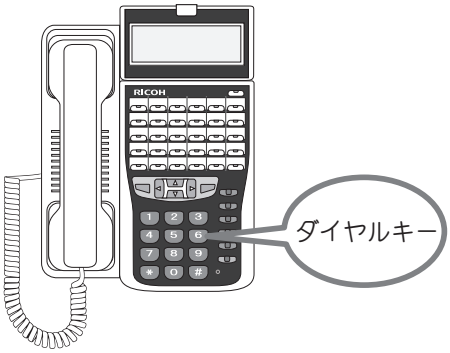
例）内線予約

予約

■ 話し中の内線の近くの内線を呼び出す 設定

（シリーズコール）

相手の内線が通話中のとき、その近くの内線を呼び出すことができます。たとえば、呼び先の課の内線番号が「210 ～ 214」と 5 台あり、「210」にかけて通話中だった場合は、「1」をダイヤルすることで「211」番へかかります。この機能を利用するには、販売店にご相談ください。



メモ

この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

1 相手に内線をかける（たとえば内線番号「210」）

受話器から「ツーッツーッ」と話し中の音が聞こえます。

2 代わりにかけたい内線の下 1 桁をダイヤルキーで押す（たとえば「211」にかける場合は 1 を押す）

- 「211」番を呼び出します。
- “2” をダイヤルすると、「212」番を呼び出します。

3 相手が応答したら通話する

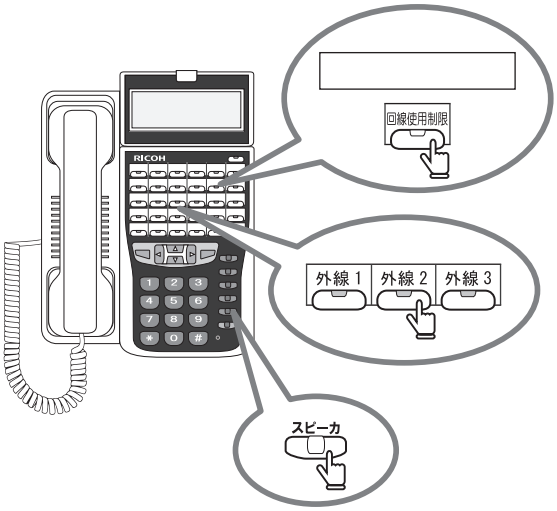
4 通話が終了したら、受話器を戻す

4-8 回線の数を制限する

（回線使用制限）

オフィスに残っている人が少ない場合など、使用できる電話回線の数より人数が少ないとき、一部の回線の使用を制限して、使用できる回線の数を一時的に制限することができます。

➤➤ この機能を利用するには、フレキシブルキーに［回線使用制限］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



メモ

- 外線キーはフレキシブルキーです。工事者により、あらかじめ使用回線が割り当てられています。
- 使用を制限できる回線は、外線キーに割り当てられているISDN回線のみです。
- 他の電話機で現在使用中の外線キー（赤点灯）には、使用制限を設定することはできません。
- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）回線制限
回線使用制限

回線の使用を制限する

1 回線使用制限を押す

電話機が待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

2 使用を制限する回線の外線キーを押す

- 押したキーのランプがオレンジ点滅し、指定した外線キーに使用制限が設定されます。
- 他の電話機の同じキーのランプもオレンジ点滅します。
- スピーカを押す前に、もう一度同じキーを押すと、設定が解除されますのでご注意ください。

使用を制限できる回線はISDN回線のみです。アナログ回線には使用制限を設定することはできません。ISDN回線以外の外線キーを押すと、エラー音が鳴ります。

3 スピーカを押す

操作を終了します。

回線の使用制限を解除する

電話機が待受状態のときに、受話器を置いたまま操作します。

1 回線使用制限 **を押す**

2 使用制限されている回線の外線キーを押す

- 使用制限されている外線キーはオレンジ点滅しています。そのキーを押すと、ランプが消灯し、指定した外線キーの使用制限が解除されます。
- 他の電話機の同じキーのランプも消灯します。

3 スピーカ **を押す**

操作を終了します。

MSA 応答キーごとに着信を規制する

MSA モード着信方式が設定されている場合、DGL グループに着信可能な数の応答キーが割り付けられています。「回線使用制限」機能を使用すると、応答キーの着信を規制して、グループに着信する回線数を制限することができます。

MSA 応答キーの着信を規制するには、上記の「回線の使用を制限する」の操作手順 **2** で、着信を規制したい MSA 応答キーを押します。規制を解除する方法も上記の「回線の使用制限を解除する」と同様です。

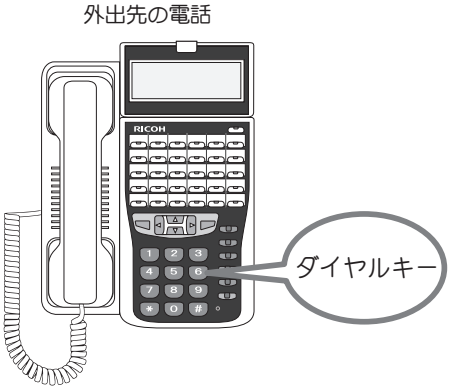
4-9 外出時に便利な機能

ここでは外出時に便利な機能を説明します。

■ 外出先から転送電話の設定などを変更する 設定

（PB 遠隔保守）

外出先から転送電話などの設定を変更することができます。この機能を使うには、販売店にご相談ください。また、この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号を送ることができるものを使用してください。



PB 遠隔保守モードへのログイン方法

1 外出先から会社に電話をかける

- 付加番号 DID ／アナログダイヤルイン／留守 PB でかけた場合は、操作手順 **2** へ、着サブアドレスでかけた場合は、操作手順 **4** へ進みます。
- 着サブアドレスは、初期設定で “921234” となっています

2 PB 保守特番 (9)(2) (初期設定) を押す

予約ランプが赤く点灯します。

3 暗証番号 (1)(2)(3)(4) を押す

- 受話器から「ピー」という音が聞こえます。
- 暗証番号の初期設定は “1，2，3，4” です。変更している場合は、販売店にお聞きください。予約ランプが赤く点灯します。

4 自分の内線番号をダイヤルする

以降、モード番号を入力することで各 PB 遠隔保守操作を行うことができます。

転送電話の設定／解除	(1)
転送電話の転送先変更	(2)
PS 圏外転送の設定／解除	(3)
不在転送の設定／解除	(4)
不在転送の転送先変更	(5)
昼／夜設定	(7)
日付／時間の変更	(*)

メモ

各 PB 遠隔保守操作は (9) を押すと終了しますが、(9) を押さずに別の操作のモード番号を入力すると、続けてその PB 遠隔保守操作を行うことができます。PB 遠隔保守モードへログインし直す必要がないので便利です。

モード番号ごとに操作手順を説明します。

次ページに操作つづく

転送電話の設定／解除

1 モード番号(1)をダイヤルする

2 設定する場合は、転送グループ番号をダイヤルする

3 モード変更の設定／解除をする
- 設定のときは、(#)を押します。
- 解除のときは、(*)を押します。

4 (9)をダイヤルする

転送電話の転送先変更

1 モード番号(2)をダイヤルする

2 転送先電話番号をダイヤルする

3 転送先変更を設定する
- (#)を押します。

4 (9)をダイヤルする

PS 圏外転送モード変更

1 モード番号(3)をダイヤルする

2 モード変更の設定／解除をする
- 設定のときは、(#)を押します。
- 解除のときは、(*)を押します。

3 (9)をダイヤルする

不在転送の設定／解除

1 モード番号(4)をダイヤルする

2 モード変更の設定／解除をする
- 設定のときは、(#)を押します。
- 解除のときは、(*)を押します。

3 (9)をダイヤルする

不在転送の転送先変更

1 モード番号(5)をダイヤルする

2 転送元種別をダイヤルする
(1):内線　(3):専用線(IMシリーズでは未サポート)
(2):外線　(4):一括

3 番号種別をダイヤルする
(0):外線　(2):PBX
(1):内線

4 転送先電話番号をダイヤルする

5 不在転送先変更を設定する
- (#)を押します。

6 (9)をダイヤルする

次ページに操作つづく

昼夜モード変更

1 モード番号(7 PQRS)をダイヤルする

2 夜間グループ番号（3 桁）をダイヤルする

3 モード変更の設定／解除をする

・設定のときは、(#)を押します。
・解除のときは、(*)を押します。

4 (9 WXYZ)をダイヤルする

日付／時間の変更

1 モード番号(*)をダイヤルする

2 日付変更のとき(1)を、時間変更のとき(2 ABC)をダイヤルする

・日付変更(1)をダイヤルしたとき
例） 200 6年10月20日（月）
「0 6102001」とダイヤルします。
曜日
00：日曜日　04：木曜日
01：月曜日　05：金曜日
02：火曜日　06：土曜日
03：水曜日

・時間変更(2 ABC)をダイヤルしたとき
例） 午後4時30分
「1630」とダイヤルします。

3 日付／時間の変更を設定する

・(#)を押します。

4 (9 WXYZ)をダイヤルする

■ 無線 LAN デュアル端末を社内で内線として使用する

無線 LAN デュアル端末を、外出先では携帯電話、社内では内線電話として利用できます。社内も外出先も 1 台の端末で通話可能となります。また、無線 LAN デュアル端末で社内から発信するときは一般電話網を使用するため、通話料金が大幅に削減できます。

➤➤ 無線 LAN デュアル端末を内線電話として使用する場合については、p.180「6-4 無線 LAN デュアル端末について」を参照してください。

4-10 その他の便利な機能

ここでは、その他の便利な機能を説明します。

■ i・ナンバー機能を利用する 設定

この機能を利用するときには、NTT とのi・ナンバー契約またはダイヤルイン契約が必要です。この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

■ INS ボイスワープを利用する

NTT とサービス契約している外線キーを押すだけで、INS ボイスワープのサービスを受けられます。なお、不在転送の機能を使っている場合は、p.138「INS ボイスワープの運用を優先する」の操作を行ってください。
INS ボイスワープ運用を優先すると、不在転送を設定していても INS ボイスワープを優先します。不在転送を設定していない場合は、この操作は必要ありません。
※転送先の登録／転送先リスト指定／転送サービスの開始／停止を行うときは PB 信号ランプの消灯を確認してください。PB 信号ランプが消えていないと、［ｷｰﾊﾟｯﾄﾞ］キーが有効になりません。

INS ボイスワープのサービスを受けるための操作手順

この操作手順は、本システムを使って NTT のサービスである INS ボイスワープのサービスを受けるための操作手順です。ご利用の際は、NTT の「INS ボイスワープ使用説明書」を併せてお読みください。
※以下の表の［外線］は、サービスを契約している外線です。
操作手順ごとに「ガイダンス」が流れます。
以下の「サービス番号」は、NTT が提供している番号です。

>> この機能を利用するにはフレキシブルキーに［ｷｰﾊﾟｯﾄﾞ］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに［ｷｰﾊﾟｯﾄﾞ］キーを登録するには、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。

項目		操作手順
転送先番号登録	転送先リスト 0 への登録	外線 →（サービス番号）1 4 2 2 → キーパッド →（転送先電話番号）1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 # → キーパッド → スピーカ
	転送先リスト 1 ～ 4 への登録	外線 →（サービス番号）1 4 2 4 → キーパッド → 0 → キーパッド → キーパッド →（リスト番号）1 ～ 4 → キーパッド → キーパッド →（転送先電話番号）1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 # → キーパッド → キーパッド → 9 → キーパッド → スピーカ
転送先リストの指定 （登録されているリストから実際に転送される相手を 1 つ指定します。）		外線 →（サービス番号）1 4 2 4 → キーパッド → 1 → キーパッド → キーパッド →（リスト番号）0 ～ 4 → キーパッド → キーパッド → 9 → キーパッド → スピーカ ※転送先リストを指定しない場合はリスト 0 が転送先となります。

項　目	操　作　手　順
転送サービスの開始のしかた （転送先電話番号の登録および転送先リストの指定を行った上で、INS ボイスワープの開始を行ってください。）	（サービス番号）　（転送方法番号） 外線 → 1 4 2 1 → キーパッド → 1 ～ 4 → キーパッド → スピーカ 転送方法番号 1：無条件転送 2：無応答時転送 3：話中時転送 4：無応答および話中時転送
転送サービスの停止のしかた	（サービス番号） 外線 → 1 4 2 0 → スピーカ
無応答時転送の起動時間の設定 （無応答時転送を指定した場合に転送元が何秒後応答しなかった時点で転送を行うかを指定します。）	（サービス番号）　（転送時間番号） 外線 → 1 4 2 3 → キーパッド → 0 ～ 1 1 → キーパッド → スピーカ 転送時間番号 0：5 秒　1：10 秒　2：15 秒　3：20 秒 4：25 秒　5：30 秒　6：35 秒　7：40 秒 8：45 秒　9：50 秒　1 0：55 秒　1 1：60 秒
転送通知用トーキの設定のしかた	（サービス番号） 外線 → 1 4 2 4 → キーパッド → 2 → キーパッド → キーパッド （トーキ番号） → 0 ～ 3 → キーパッド → スピーカ トーキ番号 0：アナウンスなし 1：「ただいまより電話を転送いたします」 2：「ただいまより電話を転送いたします。転送先までの電話料金は当方で負担いたします」 3：「ただいま電話を呼び出しております」
転送元案内トーキ（転送先へのアナウンス）の設定のしかた	（サービス番号） 外線 → 1 4 2 4 → キーパッド → 4 → キーパッド → キーパッド （トーキ番号） → 0 ～ 1 → キーパッド → スピーカ トーキ番号 0：アナウンスなし 1：「この電話は（転送元電話番号）から転送されました」
現在の設定状況の確認	（サービス番号）　（確認番号） 外線 → 1 4 2 8 → キーパッド → 0 ～ 4 → キーパッド → スピーカ 確認番号 0：転送先リストの登録内容確認 1：転送トーキの指定状況確認 2：リモートコントロールの指定状況確認 3：転送元案内の指定状況確認 4：応答後転送の指定状況確認

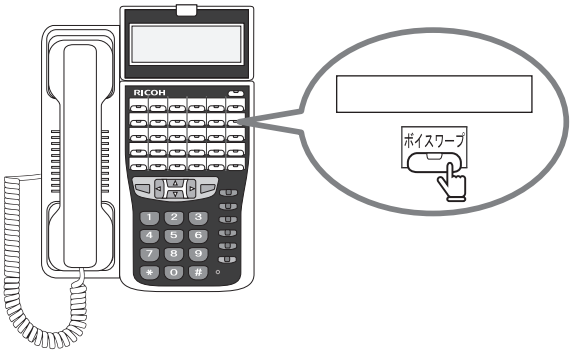
<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th>操　作　手　順</th></tr>
<tr><td rowspan="2">リモートコントロール機能</td><td>暗証番号の設定

（リモートコントロール機能を利用して本システム外の電話からでもINSボイスワープの開始、停止および転送先変更操作ができます。）</td><td>（サービス番号）
外線 → 1 4 2 4 → キーパッド → 3 → キーパッド → キーパッド
（暗証番号（数字4桁））
→ ※ 1 → キーパッド → キーパッド → 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 # → キーパッド → スピーカ
※1の替わりに0を押すと、リモートコントロール機能を「利用しない」設定となり、スピーカで操作完了となります。</td></tr>
<tr><td>リモートコントロールの操作のしかた</td><td>外出先から電話をかける → （サービス番号）1 4 2 7 → [PB信号] → （電話番号）1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 #
→ （電話番号）1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 # → （操作の種類番号）0 ～ 2 → 電話を切る
操作の種類番号 0：転送サービスの停止
1：転送サービスの開始
2：転送先リストの変更
転送先リストの変更をする場合は、操作の種類番号の後、転送先リスト番号0～4を押してください。
※暗証番号を4回連続して間違えると、それ以降の操作ができなくなります。この場合、暗証番号を再度登録し直す必要があります。</td></tr>
</table>

INS ボイスワープの運用を優先する

この機能が使えるのは、ISDN 回線の外線個別着信が「DIL/PBX ダイヤルイン / I ナンバー」に設定しているときです。また INS ボイスワープのサービスが①話中転送または②無応答転送と話中転送の併用のとき、③対象内線が塞がっているときに限られます。
INS ボイスワープのサービスが無条件転送、無応答転送のみのとき、対象内線が塞がっていないときや外線個別着信が「DIL/PBX ダイヤルイン / I ナンバー」以外に設定されているときは、このサービスが受けられませんのでご注意ください。

➤➤ この機能を利用するにはフレキシブルキーに［ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ］キーと［ｷｰﾊﾟｯﾄﾞ］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに［ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ］キーならびに［ｷｰﾊﾟｯﾄﾞ］キーを登録するには、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



1 内線を使用していない状態のときに［ボイスワープ］を押す

登録音が聞こえ、ボイスワープキーのランプが赤く点灯し登録中を示します。

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）転送
［ボイスワープ］

メモ

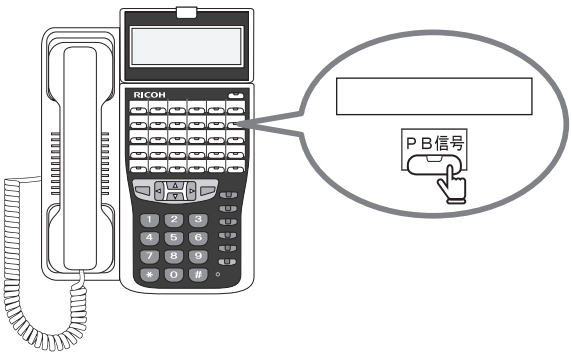
アナログ回線でご契約のときにボイスワープをご利用になる場合は、NTT の「ボイスワープ使用説明書」をご覧ください。

■ プッシュホン信号を送る

（PB エンド・ツー・エンド通信）

ダイヤル回線でも外線と接続後にプッシュホン（PB）信号が送れます。これにより銀行の残高照会などのプッシュホンサービスが受けられます。通話が終わり受話器を戻すと、電話機は元のダイヤル回線に戻ります。

➤➤ この機能を利用するにはフレキシブルキーに［PB 信号］キーを登録しておく必要があります。フレキシブルキーに機能を登録する方法については、p.86「フレキシブルキーにファンクションキーを割り付ける」を参照してください。



1 外線と通話中に PB信号 を押す

2 ダイヤルするとプッシュホン信号を送る

メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）プッシュ信号

PB信号

設定 自動的に PB 信号を送信できないようにするには、販売店にご相談ください。

オートダイヤル（ワンタッチダイヤル）の中に PB 信号を含めて登録することができます。詳しくは、p.91「3-10 ワンタッチキーに電話番号を登録する」を参照してください。

第５章 電話機の調整

5-1 ファンクションカードを取り替える …… 142
5-2 電話機の角度を変える …… 144
5-3 ディスプレイの角度を変える …… 146
5-4 電話機を壁に取り付ける …… 147
5-5 日付・時刻を合わせる …… 149
5-6 着信音の音色を選択する …… 153
5-7 音量を調節する …… 155
5-8 ディスプレイ表示を調節する …… 162
5-9 ハンドセット／ハンズフリー／ヘッドセットを切り替える …… 165

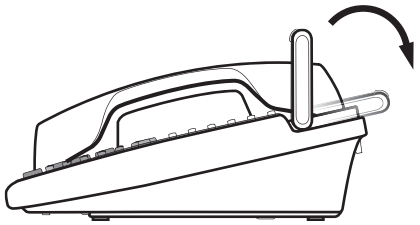
5-1 ファンクションカードを取り替える

ファンクションカードの内容を書き換える場合や、新しいファンクションカードに取り替える場合は、ファンクションカバーを外す必要があります。ここではファンクションカバーの取り外し方と取り付け方を説明します。

■ 取り外し方

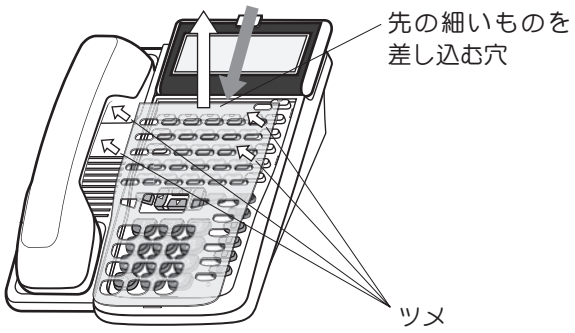
1 ディスプレイを起こしている場合は、電話機と水平の位置に戻す

ディスプレイの動かし方は、p.146「5-3 ディスプレイの角度を変える」を参照してください。



2 ファンクションカバーの上側中央の穴に先の細いものを差し込み、ファンクションカバーを持ち上げる

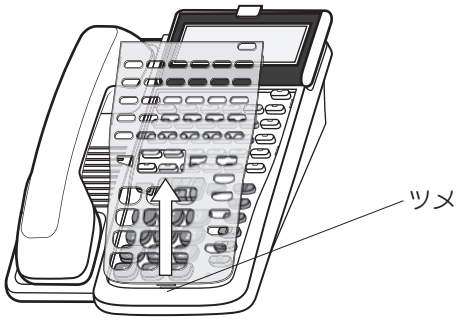
ファンクションカバーの 4 ヵ所のツメが外れます。



注意
ディスプレイに力が加わらないように注意してください。

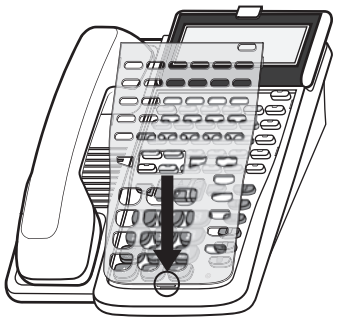
3 1 番下のツメを上方に引き抜く

- ファンクションカバーが外れます。
- ファンクションカバーの下のファンクションカードを持ち上げて外します。



■ 取り付け方

1 ファンクションカードを電話機の上面にはめ込んだ後、ファンクションカバーの下側中央のツメを電話機の溝に差し込む



2 ファンクションカバーの側面の 4 ヵ所のツメを、下側から（①、②の順番に）電話機のそれぞれの溝に差し込む

5-2 電話機の角度を変える

電話機の裏面に付いているチルト台を使って、下図のように電話機の角度を変えることができます。

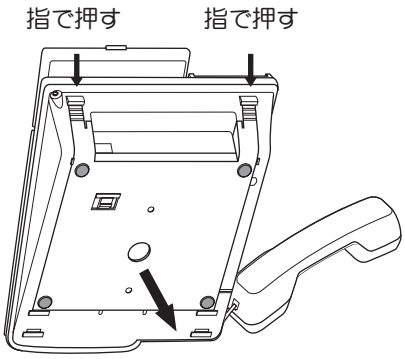
●チルト台を利用しない場合　　**●チルト台を利用した場合**

■ 角度を大きくする

1 電話機から受話器を外す

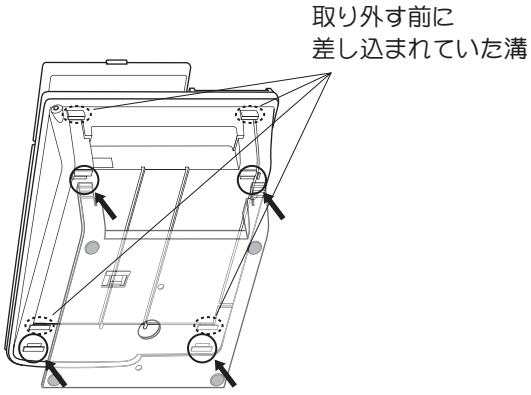
電話機を縦向きにして作業しますので、あらかじめ、受話器は電話機から外して机の上に置いてください。

2 電話機の裏面に取り付けられているチルト台の２ヵ所のツメを指で押して、チルト台を電話機から外す



3 取り外したチルト台の４ヵ所のツメを、電話機の底面の４ヵ所の溝にそれぞれ差し込む

下側のツメから順番に差し込みます。



4 電話機を元の位置に置いて、受話器を戻す

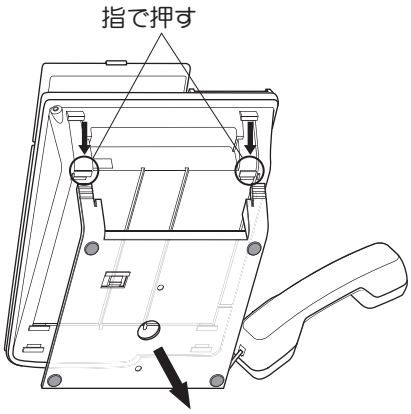
■ 角度を元に戻す

1 電話機から受話器を外す

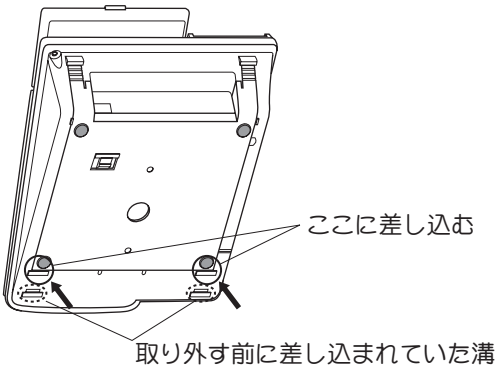
電話機を縦向きにして作業しますので、あらかじめ、受話器は電話機から外して机の上に置いてください。

2 電話機の裏面に取り付けられているチルト台を取り外す

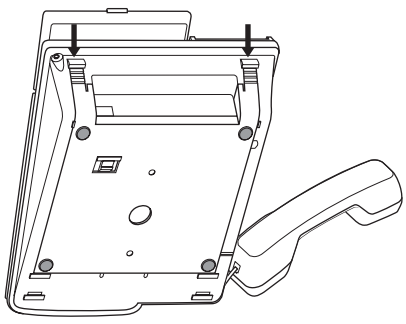
上側 2 ヵ所のツメを指で押して、電話機の溝から取り外します。下側の 2 ヵ所のツメも外れます。



3 チルト台の下側２ヵ所のツメを、取り外す前に差し込まれていた溝より少し上にある溝に差し込む



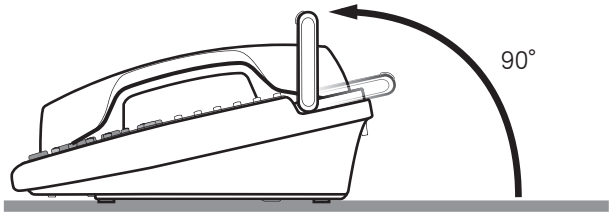
4 チルト台の上側２ヵ所のツメを電話機の背面にある溝に差し込む



5 電話機を元の位置に置いて、受話器を戻す

5-3 ディスプレイの角度を変える

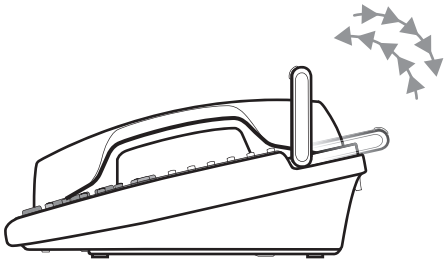
ディスプレイの角度は、電話機と水平の位置から机に対して 90°の位置まで、5 段階に変えることができます。



1 ディスプレイの上側を持って、位置が固定するところまで動かす

ディスプレイの上側を持ってゆっくりと動かします。カチッと音がするところで止めます（5 段階）。

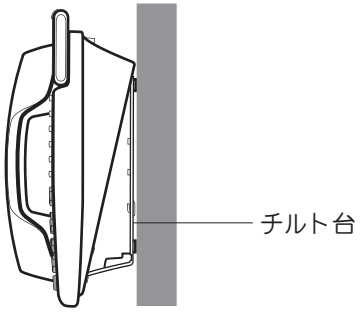
力を入れすぎないように注意してください。



5-4 電話機を壁に取り付ける

電話機を壁に取り付ける場合、電話機の裏面に取り付けられているチルト台を、壁かけ用の部品として使用します。
※ 壁への取り付けは通常、工事者が行います。

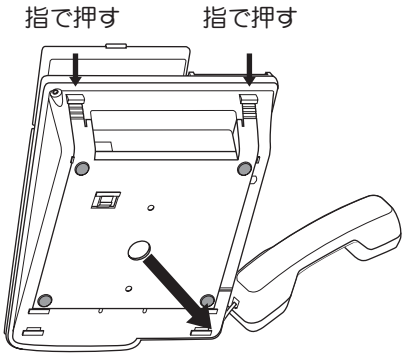
⚠ 壁に電話機の重みがかかり、落下する可能性がありますので、しっかりした壁を選んで取り付けてください。



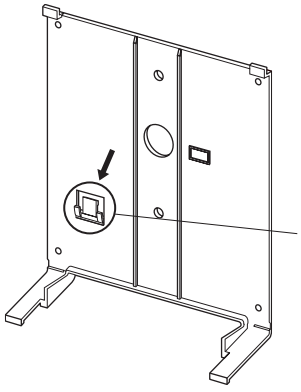
1 電話機から受話器を外す

電話機を縦向きにして作業しますので、あらかじめ、受話器は電話機から外して机の上に置いてください。

2 電話機の裏面に取り付けられているチルト台の２ヵ所のツメを指で押して、チルト台を電話機から外す



3 チルト台から、フックピースを指で取り外す



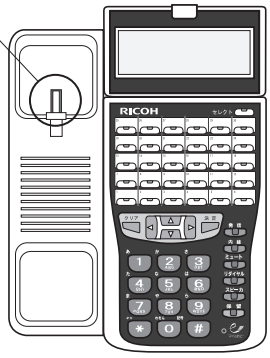
次ページに操作つづく

4 取り外したフックピースを受話器に取り付ける

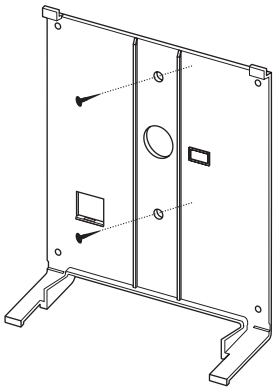
受話器のフックの近くにある溝にフックピースを差し込みます。

フックピースを付けたら、受話器を元に戻します。

ここにフックピースを付ける。



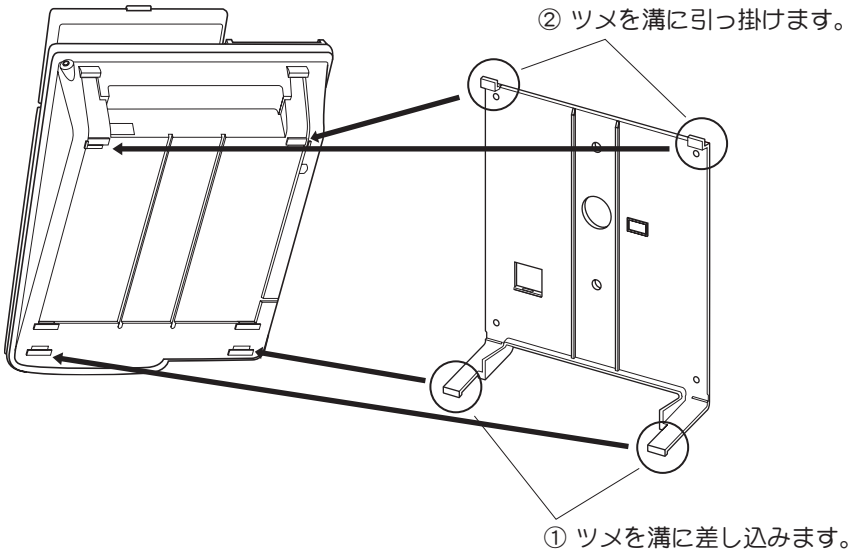
5 チルト台の 2 ヵ所の穴に、木ねじ (2 本) を通して壁に固定する



6 壁に固定されたチルト台に電話機を取り付ける

手順①：チルト台下側 2 ヵ所のツメを電話機底面の下側の溝に差し込む

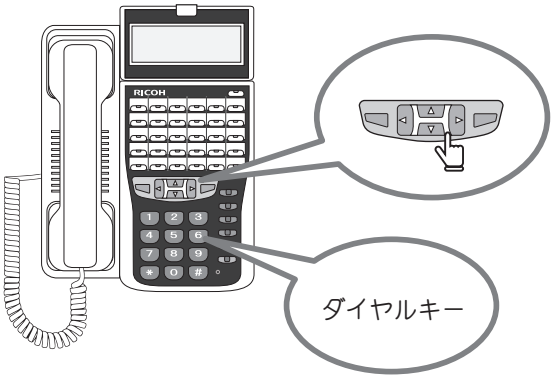
手順②：電話機を持ち上げながら、チルト台上側 2 ヵ所のツメを電話機底面の上側の溝に引っ掛ける



5-5 日付・時刻を合わせる

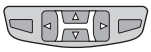
1台の電話機で日付・時刻を変更すると、システム内のすべての電話機の日付、時刻も変更されます。

メモ この操作はシステム管理電話機から、または一般電話機で管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力して行います。



メモ

日付・時刻はディスプレイのメニューを使って設定します。


と、ダイヤルキーで操作します。
日付、時刻の数字の入力はダイヤルキーを使います。

■ 日付を合わせる

ここでは、一般電話機から、管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力して、日付を合わせる方法を説明します。システム管理電話機では、手順**2**～**3**の操作は必要ありません。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※個人用パスワード設定を行っている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11／06 Mon 16:00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 (0) を押す

管理者用パスワードを入力する画面が表示されます。

※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。

```
メインメニュー
1：電話帳
2：履歴表示
3：短縮ダイヤル
```

「0：」はメニューにはありません。

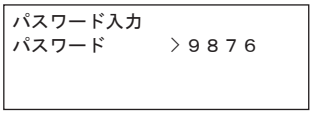
次ページに操作つづく

3 管理者用パスワード（数字４桁）を入力し、決定を押す

・パスワードはあらかじめ設定されているものを入力します。
・この画面は数字入力モードになっていますので、ダイヤルキーを押すと、そのまま数字が入力できます。
・メインメニューに戻ります。メニューには管理者用項目が表示されます。

※システム管理電話機では、この操作は必要ありません。

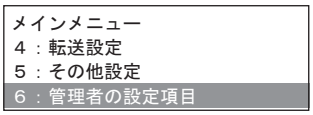
入力例



管理者用パスワードについては、販売店にご相談ください。

4「６：管理者の設定項目」を△、▽で選び、決定を押す

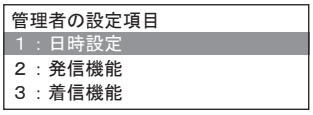
管理者の設定項目のメニューが表示されます。



メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

5「１：日時設定」を△、▽で選び、決定を押す

日時設定のメニューが表示されます。



6「１：日付設定」を△、▽で選び、決定を押す

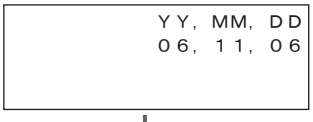
現在設定されている日付が表示されます。

7 ダイヤルキーで年月日を入力する

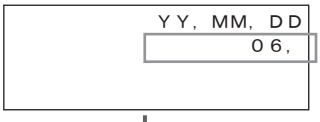
年月日はそれぞれ２桁で「年→月→日」の順に入力します。

例）２００６年１１月７日　は
「０６１１０７」と入力

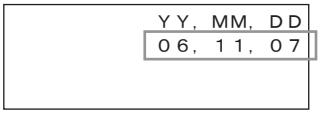
最初は、現在設定されている「年（ＹＹ）」、「月（MM）」、「日（ＤＤ）」が表示されます。



ダイヤルキーを押すと、現在設定されている日付が全部クリアされ、新しく入力した数字が表示されます。



２桁入力すると、自動的にカンマが表示されるので、続けて数字を入力します。



次ページに操作つづく

8 決定 **を押す**

日付が設定され、日時設定のメニューに戻ります。

9 クリア **を押す**

メニューが終了します。

```
          Tel. 100
11／07  Tue  16：00
```

10 設定した日付を確認する

電話機が待受状態のときのディスプレイの表示で、日付が正しく設定されていることを確認します。

■ 時刻を合わせる

1 日時設定のメニューを表示する

「日付を合わせる」の手順 **1** ～ **5** を行います。

2「2：時間設定」を △、▽ で選び、決定 を押す

現在設定されている時刻が表示されます。

```
日時設定
1：日付設定
2：時間設定
```

3 ダイヤルキーで時刻を入力する

時、分はそれぞれ2桁で「時→分」の順に入力します。

時刻は 24 時間制で入力します。

例）16時5分　は「1605」と入力

最初は、現在設定されている「時（HH）」、「分（MM）」が表示されます。

```
HH, MM
16, 00
```

↓

ダイヤルキーを押すと、現在設定されている時刻が全部クリアされ、新しく入力した数字が表示されます。

```
HH, MM
16
```

↓

2桁入力すると、自動的にカンマが表示されるので、続けて数字を入力します。

```
HH, MM
16, 05
```

次ページに操作つづく

4 決定 **を押す**

時刻が設定され、日時設定のメニューに戻ります。

5 クリア **を押す**

メニューが終了します。

```
          Tel. 100
11／07 Tue 16:05
```

6 設定した時刻を確認する

電話機が待受状態のときのディスプレイの表示で、時刻が正しく設定されていることを確認します。

設定 日付・時刻の表示形式

工事者の設定により、次の選択ができます。工事については、販売店にご相談ください。

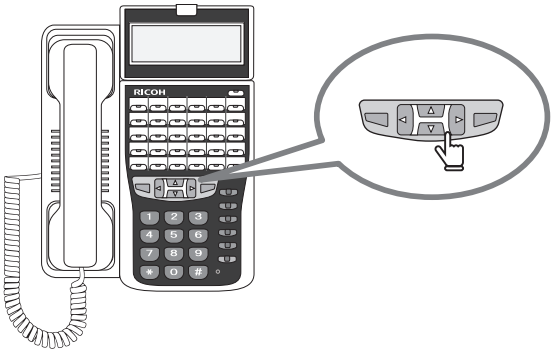
- 時刻表示は、12 時間制と 24 時間制の選択ができます。初期設定は 24 時間制となっています。
- 曜日表示は漢字（月）と英字（Mon）の選択ができます。初期設定は英字です。

5-6 着信音の音色を選択する

電話がかかってきたときの呼出し音（着信音）を変えることができます。方法は 2 通りあります。
- 電話機が持っている音源から選ぶ（9 種類）
- 主装置が持っている音源から選ぶ（8 種類）

なお、両方で異なる着信音を設定している場合は、「電話機の音源」の設定のほうが優先されます。

■ 電話機の音源を使って着信音の音色を変える



メモ

- 電話機の音源を使った着信音の設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。
- 電話機を交換した場合、交換した電話機の設定値となります。

1 電話機が待受状態のとき、△を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/06 Mon 16:00
```

2 「2：音設定（その他）」を△、▽で選び、決定を押す

音設定（その他）メニューが表示されます。

```
端末設定
1：音設定（音量）
2：音設定（その他）
3：その他の設定
```

3 「2：着信音色」を△、▽で選び、決定を押す

着信音色を選択する画面が表示されます。

```
音設定（その他）
1：着信音色
2：キータッチトーン切替
3：音声呼出予告音
```

4 △、▽を押して着信音色を選ぶ

選択した着信音が鳴ります。

```
着信音色
1：着信音色1
2：着信音色2
3：着信音色3
```

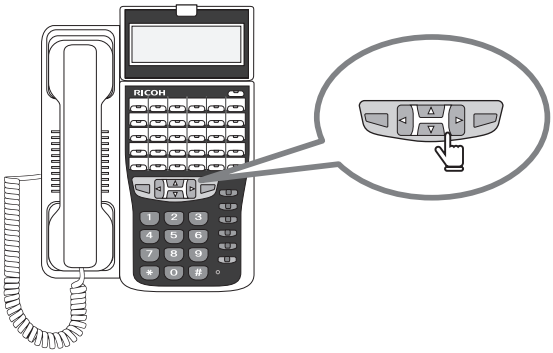
着信音色は、1～9まであります。
メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

5 決定を押す

着信音色が設定され、音設定（その他）メニューに戻ります。

- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。

■ 主装置の音源を使って着信音の音色を変える



メモ

主装置の音源を使った着信音の設定は、ディスプレイにメインメニューを表示して行います。

1 電話機が待受状態のとき、決定を押す

ディスプレイにメインメニューが表示されます。

※パスワードが設定されている電話機では、メインメニューの表示の前に、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、パスワード（数字4桁）を入力してください。

```
パスワード入力
パスワード       >_
```

待受状態のディスプレイの表示例

```
                Tel. 100
11／06 Mon  16：00
```

電話機が待受状態のときは、ディスプレイに内線番号、日付、時刻が表示されています。

パスワード設定については、p.53「3-4 パスワードを設定する」を参照してください。

2 「5：その他設定」を△、▽で選び、決定を押す

その他設定のメニューが表示されます。

```
メインメニュー
3：短縮ダイヤル
4：転送設定
5：その他設定
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

3 「4：内線別着信音設定」を△、▽で選び、決定を押す

内線別着信音設定の画面が表示されます。

```
その他設定
2：内線ネーム登録
3：フレキシブルキー設定
4：内線別着信音設定
```

4 △、▽を押して着信音色を選ぶ

選択した着信音が鳴ります。

```
内線別着信音設定
1：着信音1＊
2：着信音2
3：着信音3
```

（着信音は8種類あります）

5 決定を押す

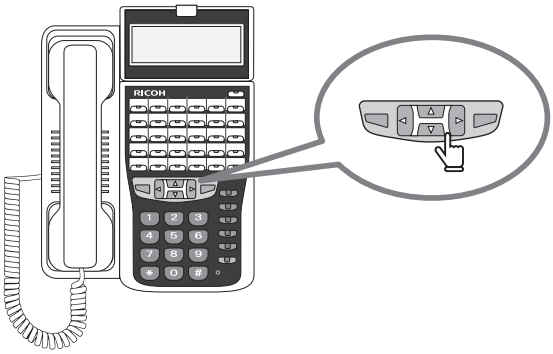
着信音が設定されます。

5-7 音量を調節する

電話機の着信音量や受話音量などを調節することができます。

■ 着信音量を調節する

電話がかかってきたときに鳴る着信音の音量を 5 段階で調節できます。



メモ

- 着信音量の設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。
- 電話機を交換した場合、交換した電話機の設定値となります。

1 電話機が待受状態のとき、△を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/06 Mon 16:00
```

2 「1：音設定（音量）」を△、▽で選び、決定を押す

音量設定のメニューが表示されます。

```
端末設定
1：音設定（音量）
2：音設定（その他）
3：その他の設定
```

3 「1：着信音量」を△、▽で選び、決定を押す

着信音量を設定する画面が表示されます。

```
音量設定
1：着信音量
2：受話音量
3：側音切替
```

4 △または▽を押して音量を調節する

- 音量のレベルを表す■が表示されます。
- キーを押すごとに、音量が 1 段階ずつ変わります。
- 決定を押すと、現在選択している音量の着信音を鳴らすことができます。

```
着信音量
■■■■_
```

△ 音量を上げる　▽ 音量を下げる

```
着信音量
■■___
```

次ページに操作つづく

5 決定 を押す

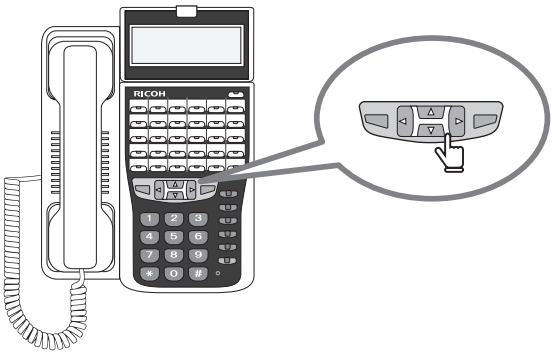
・着信音量が設定され、音量設定メニューに戻ります。
・引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
・音量の設定を終了する場合は クリア を押して、メニューを終了します。

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

着信音が鳴っている時に、△、▽で調節することができます。

■ 受話音量を調節する

受話器から聞こえる相手の声の大きさを調整できます。5 段階で調節できます。



メモ

- 受話音量の設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。
- 電話機を交換した場合、交換した電話機の設定値となります。

1 電話機が待受状態のとき、△を押す

端末設定メニューが表示されます

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/06 Mon 16:00
```

2 「1:音設定（音量）」を△、▽で選び、決定 を押す

音量設定のメニューが表示されます。

```
端末設定
1：音設定（音量）
2：音設定（その他）
3：その他の設定
```

3 「2：受話音量」を△、▽で選び、決定 を押す

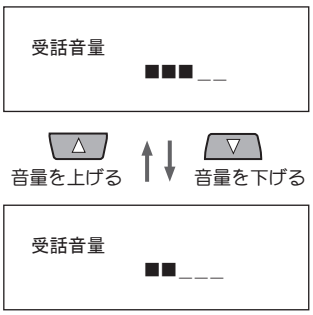
受話音量を設定する画面が表示されます。

```
音量設定
1：着信音量
2：受話音量
3：側音切替
```

次ページに操作つづく

4 △または▽を押して音量を調節する

- 音量のレベルを表す■が表示されます。
- キーを押すごとに、音量が 1 段階ずつ変わります。



5 決定を押す

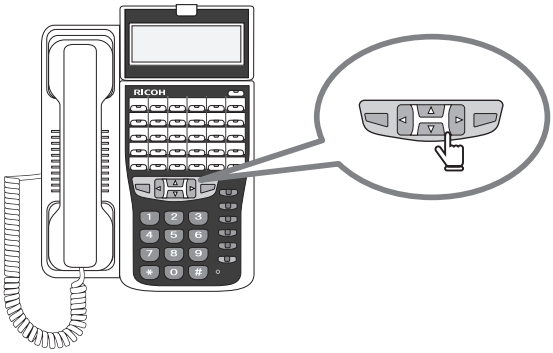
- 受話音量が設定され、音量設定メニューに戻ります。
- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 音量の設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

通話中に△、▽で一時的に音量調節することができます。受話器を使っている場合には受話音量が、スピーカ通話時にはスピーカ音量が調節できます。

■ 送話音量を調整する

受話器を使って通話するときの、こちらの声の大きさを調整できます。5 段階で調節することができます。



メモ

- 送話音量の設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。
- 電話機を交換した場合、交換した電話機の設定値となります。

1 電話機が待受状態のとき、△を押す

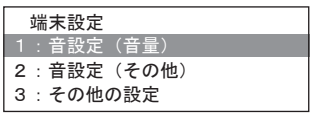
端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

次ページに操作つづく

2「1：音設定（音量）」を△、▽で選び、決定を押す

音量設定のメニューが表示されます。



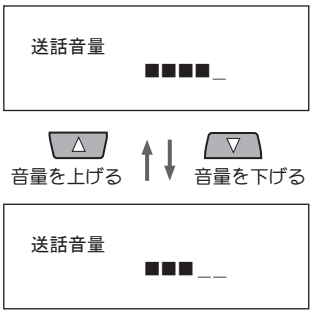
3「4：送話音量」を△、▽で選び、決定を押す

送話音量を設定する画面が表示されます。

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 △または▽を押して音量を調節する

- 音量のレベルを表す■が表示されます。
- キーを押すごとに、音量が1段階ずつ変わります。



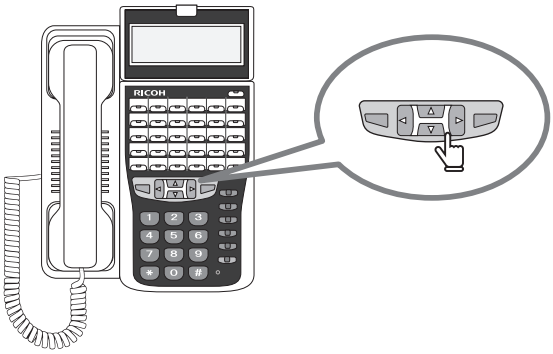
5 決定を押す

- 送話音量が設定され、音量設定メニューに戻ります。
- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 音量の設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

■ マイク音量を調整する

マイクを使って通話するときの、こちらの声の大きさも調節することができます。3段階で調節することができます。



メモ

- マイク音量の設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。
- 電話機を交換した場合、交換した電話機の設定値となります。

1 電話機が待受状態のとき、△を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/06 Mon 16:00
```

2 「1：音設定（音量）」を△、▽で選び、決定を押す

音量設定のメニューが表示されます。

```
端末設定
1：音設定（音量）
2：音設定（その他）
3：その他の設定
```

3 「5：マイク音量」を△、▽で選び、決定を押す

マイク音量を設定する画面が表示されます。

```
音量設定
3：側音切替
4：送話音量
5：マイク音量
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 △または▽を押して音量を調節する

- 音量のレベルを表す■が表示されます。
- キーを押すごとに、音量が1段階ずつ変わります。

```
マイク音量
■■_
```

△ 音量を上げる　▽ 音量を下げる

```
マイク音量
■__
```


次ページに操作つづく

5 決定 を押す

・マイク音量が設定され、音量設定メニューに戻ります。
・引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
・音量の設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

■ キータッチ音のオン／オフを切り替える

キーを押した時に出る音の、鳴らす（オン）／鳴らさない（オフ）の設定を切り替えることができます。

1 電話機が待受状態のとき、△を押す

端末設定メニューが表示されます。

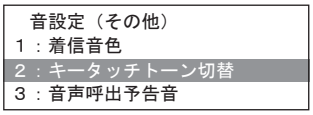
待受状態のディスプレイの表示例

2 「2：音設定（その他）」を△、▽で選び、決定 を押す

音設定（その他）メニューが表示されます。

3 「2：キータッチトーン切替」を△、▽で選び、決定 を押す

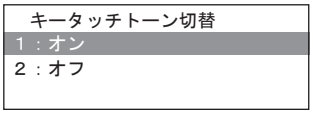
キータッチ音のオン／オフを切り替える画面が表示されます。



メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 キータッチ音のオン／オフを△、▽で選び、決定 を押す

・キータッチ音のオン／オフが設定され、音設定（その他）メニューに戻ります。
・引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
・設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。



ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

■「マイｅおと」の設定を調整する

「マイｅおと」の設定を「マイｅおと１」、「マイｅおと２」、「オフ」の３種類から選択することができます。

1 電話機が待受状態のとき、△を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Ｔｅｌ．１００
１１／０６　Ｍｏｎ　１６：００
```

2「２：音設定（その他）」を△、▽で選び、決定を押す

音設定（その他）メニューが表示されます。

```
端末設定
１：音設定（音量）
２：音設定（その他）
３：その他の設定
```

3「５：マイｅおと通話切替」を△、▽で選び、決定を押す

「マイｅおと通話」を切り替える画面が表示されます。

```
音設定（その他）
３：音声呼出予告音
４：内線ハンズフリー応答
５：マイｅおと通話切替
```

4「マイｅおと」の設定を△、▽で選び、決定を押す

- 「マイｅおと」が設定され、音設定（その他）メニューに戻ります。
- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。

```
マイｅおと通話切替
１：マイｅおと１
２：マイｅおと２
３：オフ
```

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

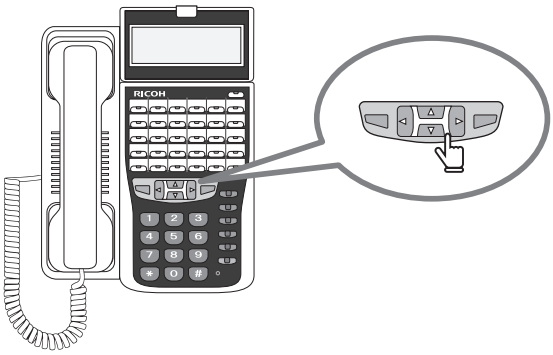
「ｅおと®」について

「ｅおと」は、高品位な音質を提供するための技術です。IP 多機能電話機の音声品質が、従来の電話よりずっと聞き取りやすくなり、微妙な発音やニュアンスも正確・明瞭に伝わります。

「マイｅおと」は、電話機が相手の音声を擬似的に「ｅおと」に変換する技術で、相手端末や回線種別を問わず、いつも聞き取りやすい音で通話ができます。

5-8 ディスプレイ表示を調節する

ディスプレイのバックライトの色や、ディスプレイに表示される文字の濃さを調節することができます。



メモ

ディスプレイ表示の設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。

■ ディスプレイのバックライトの色を選択する

ディスプレイのバックライトの色を、グリーンとオレンジのどちらかに設定することができます。また、バックライトが点灯してから消灯するまでの時間を変更したり、バックライトを点灯させないようにすることもできます。

1 電話機が待受状態のとき、△を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

```
          Tel. 100
11/06 Mon 16:00
```

2 「3：その他の設定」を△、▽で選び、決定を押す

その他の設定メニューが表示されます。

```
端末設定
1：音設定（音量）
2：音設定（その他）
3：その他の設定
```

3 「4：バックライトベース色切替」を△、▽で選び、決定を押す

バックライトベース色を選択する画面が表示されます。

```
その他の設定
2：ハンドセット切替
3：ROMバージョン表示
4：バックライトベース色切替
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 バックライトベースの色を△、▽で選び、決定を押す

- バックライトベースの色が設定され、その他の設定メニューに戻ります。
- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。

```
バックライトベース色切替
1：グリーン
2：オレンジ
```

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

■ バックライトタイマを調節する

ディスプレイのバックライトが点灯してから、消灯するまでの時間を変更することができます。また、常にバックライトを点灯させたり、常に消灯させる設定を行うこともできます。

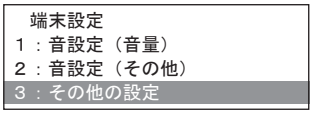
1 電話機が待受状態のとき、△を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

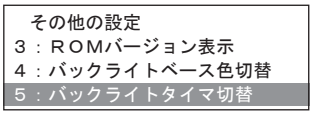
2 「３：その他の設定」を△、▽で選び、決定を押す

その他の設定メニューが表示されます。



3 「５：バックライトタイマ切替」を△、▽で選び、決定を押す

バックライトタイマを調節する画面が表示されます。



メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 バックライトタイマの設定値を△、▽で選び、決定を押す

- バックライトタイマが設定され、その他の設定メニューに戻ります。
- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

■ ディスプレイの濃度を調節する

ディスプレイに表示される文字が薄い、または濃い場合は調節することができます。8段階で調節することができます。

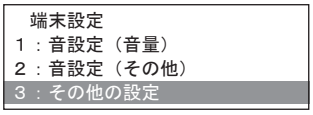
1 電話機が待受状態のとき、△を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

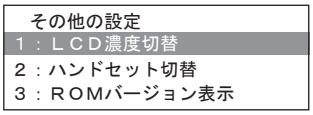
2 「3：その他の設定」を△、▽で選び、決定を押す

その他の設定メニューが表示されます。



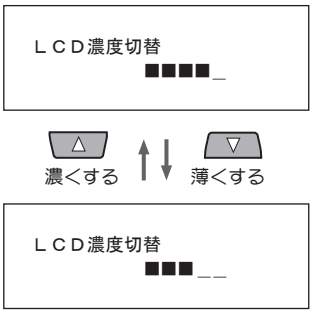
3 「1：ＬＣＤ濃度切替」を△、▽で選び、決定を押す

ディスプレイの文字の濃度を調節する画面が表示されます。



4 △、▽を押して濃度を切り替える

- 濃度を示す■が表示されます。
- キーを押すごとに、濃度が1段階ずつ変わります。



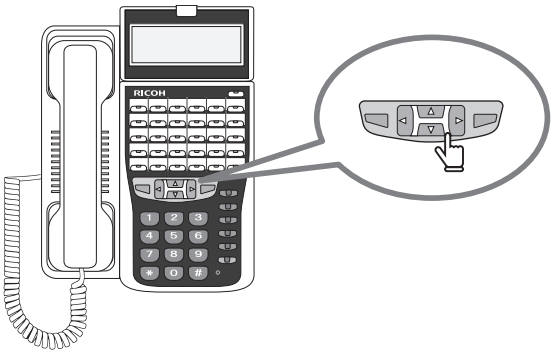
5 決定を押す

- ディスプレイの文字の濃度が設定され、その他の設定メニューに戻ります。
- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

5-9 ハンドセット／ハンズフリー／ヘッドセットを切り替える

ハンズフリーで電話をかける場合や、ハンドセットの代わりにヘッドセットを接続する場合には設定を切り替える必要があります。



メモ

ハンドセット切替えの設定は、ディスプレイに端末設定メニューを表示して行います。

1 電話機が待受状態のとき、▽を押す

端末設定メニューが表示されます。

待受状態のディスプレイの表示例

```
                Tel. 100
11/06 Mon  16:00
```

2 「3：その他の設定」を△、▽で選び、決定を押す

その他の設定メニューが表示されます。

```
 端末設定
1：音設定（音量）
2：音設定（その他）
3：その他の設定
```

3 「2：ハンドセット切替」を△、▽で選び、決定を押す

ハンドセット／ハンズフリー／ヘッドセットを切り替える画面が表示されます。

```
 その他の設定
1：LCD濃度切替
2：ハンドセット切替
3：ROMバージョン表示
```

メニューに表示されていない項目は、▽を押してカーソルを移動させると表示できます。△を押すとメニューの上のほうに戻ります。

4 切り替える項目を△、▽で選び、決定を押す

- ハンドセット切替えが設定され、その他の設定メニューに戻ります。
- 引き続き設定を行う場合は、メニューから設定する項目を選択します。
- 設定を終了する場合はクリアを押して、メニューを終了します。

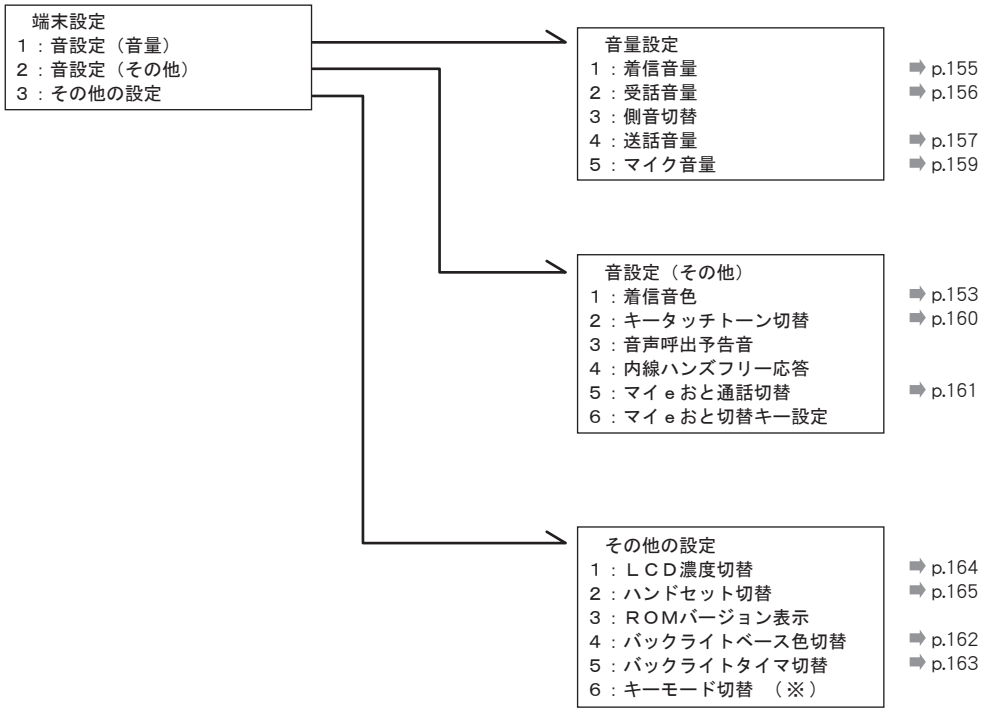
```
 ハンドセット切替
1：ハンドセット
2：ハンズフリー
3：ヘッドセット1
4：ヘッドセット2
```

ディスプレイのメニューは、受話器を上げて終了することもできます。

メモ ヘッドセットでお使いになる場合、別売のヘッドセットが必要です。
（DTS-HM-10-HDS を推奨）

メモ　端末設定メニュー 一覧

端末設定メニューには以下の項目があります。
（ページ番号は、詳細説明が記載されているページです）。



（※）の付いている項目は、設定を変えないでください。
（フレキシブルキーに登録している機能が使えなくなることがあります。）

第6章 さらに活用したいとき

6-1 周辺機器との接続 …… 168
6-2 アナログ単独電話機の操作 …… 172
6-3 PHS の操作 …… 176
6-4 無線 LAN デュアル端末について …… 180

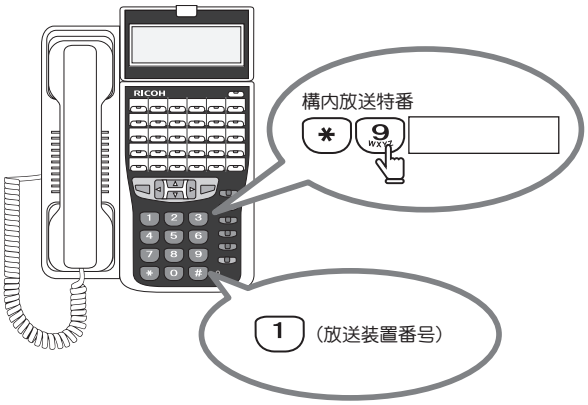
6-1 周辺機器との接続

電話機を構内放送、ドアホンと接続して使用することができます。

■ 構内放送装置との接続

外部の放送設備を利用して、電話機から構内放送ができます。放送装置は 1 台接続することができます。
構内放送との接続は、販売店にご相談ください。

構内放送をする



メモ

構内放送特番が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておくと便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順 **1** の前で 内線 を押します。

2 構内放送特番をダイヤルする

初期設定は ＊ 9 WXYZ です。

3 放送装置番号をダイヤルする

1：放送装置番号

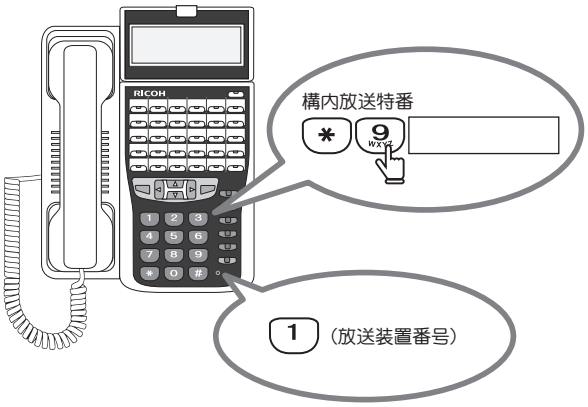
チャイム音が流れます。

4 受話器で呼びかける

- たとえば「営業一課の田中さん」と呼びかけると、構内放送のスピーカから呼びかけた音声が流れます。
- 相手が応答すると通話ができます。

5 放送を終えたら受話器を戻す

構内放送の呼出しを受ける



メモ

構内放送特番が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておくと便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順 **1** の前で 内線 を押します。

2 構内放送特番をダイヤルする

初期設定は # 9 WXYZ です。

3 応答する放送装置番号をダイヤルする
1：放送装置番号

構内放送をした人とつながり、通話できます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

メモ　番号入力をワンタッチで行うには

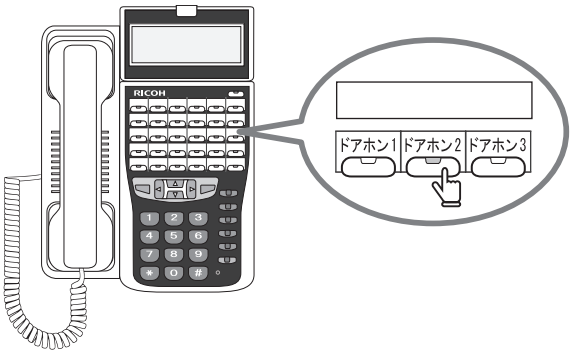
構内放送特番と放送装置番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると、操作手順 **2** と **3** の操作をワンタッチでできます。「構内放送をする」の操作手順 **2** と **3** についても同様です。
フレキシブルキーに番号を登録する方法については、p.83「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。

■ ドアホンとの接続

（ドアホン着信）／（ドアホンモニタ）／（ドアホン呼出し）

ドアホンからの呼出しを電話機で受けることができます。また、電話機からドアホンに呼びかけることもできます。

ドアホンは 4 台（同時通話は 2 通話）まで接続することができます。ドアホンとの接続は、販売店にご相談ください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）訪問者

ドアホン

ドアホンの呼出しに応答する

ドアホンの着信音が「ピンポーン」と鳴ります。

1 受話器を上げて、ランプが点灯している[ドアホン]を押す

通話ができる状態になります。

2 通話が終了したら受話器を戻す

ドアホンで外の音声を聞く

ドアホンを使ってドアホンの周辺の音声を聞くことができます。

1 [ドアホン]を押す

外部の音声が「スピーカ」から聞こえます。

2 聞き終えたら[ドアホン]を押す

ドアホンを呼び出す

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 ドアホンを押す

3 相手に呼びかける

扉の外の人とドアホンで通話できます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順 1 の前で内線を押します。

6-2 アナログ単独電話機の操作

アナログ単独電話機には機能が割り付けられたフレキシブルキーがありません。
このため、アナログ単独電話機をＩＭ シリーズの電話端末として使用する場合、利用できるサービス機能に制限があります。また、利用できる機能も特番ダイヤルが基本となるため、ＩＭ ３０「 」電話機の場合とは操作手順が異なるものがあります。
以下に、利用できるサービス機能および、ＩＭ ３０「 」電話機との操作手順の違いについて、その概略を示します。

■ アナログ単独電話機で利用可能なサービス機能

アナログ単独電話機で利用可能なサービス機能を下表に示します。

機能名称	機能名称	機能名称
指定外線捕捉(*)	割込み通話(*)	グループ音声呼び
ARS 発信	内線相互通話	DGL/MSA
自動転送	ホットライン	ドアホン収容
保留	リダイヤル	FAX 接続(*)
代理応答	放送結合	外線着信機能(*)
手動転送	外線発信	ID 機能(*)
会議通話	代理発信(*)	ISDN DID 着信
DIL 着信	秘書機能(*)	ISDN サブアドレス(*)
通話中着信	内線キャッチホン	
シリーズコール	トランクキャンプオン	

(*)印がついている機能は、本書では特に扱われていないサービス機能です。

■ アナログ単独電話機に特有な操作手順

以下に、アナログ単独電話機に特有な操作手順を示します。
特番のダイヤルが必要な箇所は《 》で囲み、特番を記入するための欄［　　］を設けています。

記入例：［ １２ ］

ここに実際にお使いになる番号を記入しておくと便利です。特番については、販売店にご相談ください。

メモ　フッキング操作とは

アナログ単独電話機の操作手順の中で、「フッキング操作を行う」と記載している箇所がありますが、以下のように操作します。

- フッキングボタンのある電話機
  フッキングボタンを押す
- フッキングボタンのない電話機
  受話器を置くところの上側にある白いスイッチ（フックスイッチ）をポンと押します。

機能名称	操作手順
不在転送設定	① 待受中 ②［スピーカ］キーを押す または　受話器を上げる ③《不在転送先 & モード登録特番［　　］》をダイヤルする ④ 転送先の番号をダイヤルする ⑤ 転送先が内線以外の場合は、［#］を押す（または タイムアウト） ⑥［スピーカ］キーを押す または　受話器を戻す
不在転送解除	① 待受中 ②［スピーカ］キーを押す または　受話器を上げる ③《不在転送先 & モード解除特番［　　］》をダイヤルする ④［スピーカ］キーを押す または　受話器を戻す
保留	アナログ単独電話機からは回線保留はできません。以下のパーク保留機能を使用します。 ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③《パーク特番［　　］(パークｎ対応特番)》をダイヤルする
代理応答	**●グループ内代理応答** ① 同一内線グループ内の内線電話に着信がある ②《内線代理応答特番［　　］》をダイヤルする ③ 通話する **●グループ指定代理応答** ① 他のグループの内線電話に着信がある ②《指定代理応答特番［　　］＋グループ番号［　　］》をダイヤルする ③通話する
手動転送	**●ダイヤル転送（転送先と話してから取り次ぐ方法)** ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 転送先の内線と通話する ⑤ 受話器を元に戻す（元の相手と転送先の相手が通話できる） **●キャンプオンリンギング（転送先と話さないで取り次ぐ方法)** ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 呼出し音を確認して受話器を元の位置に戻す(元の相手と転送先の相手が通話できる) **●チェンジオーバー（元の相手と転送先と交互に通話する)** ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 転送先の内線と通話する ⑤ フッキング操作を行う ⑥ 保留にした相手と通話を再開する
内線相互通話	アナログ内線電話機に対しては、音声呼出しができません。 アナログ内線からは音声呼出しの切替えはできません。
リダイヤル	① 受話器を上げる ②《リダイヤル特番［　　］》をダイヤルする

機能名称	操作手順
外線発信	**●ルート選択発信** ① 待受中 ② 受話器を上げる ③《回線捕捉特番［　　］》をダイヤルする ④ 相手先の電話番号をダイヤルする ⑤ 相手の応答を待って通話する **●任意外線発信** アナログ内線電話機にはフレキシブルキーがなく、外線を割り付けたキーがないため、任意外線発信はできません。
外線フッキング信号送出	① 外線と通話中 ② フッキング操作を行う ③《フッキング特番［　　］》をダイヤルする（外線にフッキング信号を送出する）
DGL/MSA	**● DGL ／ MSA グループ呼出し** 着信側電話機での操作 ① 着信音が聞こえる ② 受話器を上げる ③ 通話する
ドアホン収容	**●ドアホン呼出し** ① 待受中 ② 受話器を上げる ③《特番［　　］》をダイヤルする ④ ドアの外の相手とドアホン通話を行う **●ドアホン着信** ① ドアホンから着信がある ② 受話器を上げる ③ ドアの外の相手とドアホン通話を行う
FAX 収容	**● FAX 転送** ① 内線電話に FAX 着信がある ② 受話器を上げる ③ フッキング操作を行う ④《特番［　　］》をダイヤルする ⑤ ファクシミリ装置へ FAX が着信する
通話中着信	**●発信** ① 話し中の音が聞こえる ②《通話中着信特番［　　］》をダイヤルする ③ 相手の呼出し音が聞こえる ④ 相手が応答したら通話する **●着信** ① 通話中 ②「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③ フッキング操作を行う ※この時、元々通話していた人は保留されています。受話器を元に戻すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。
内線キャッチホン	**●着信** ① 通話中 ②「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③ フッキング操作を行う ※この時、元々通話していた人は保留されています。受話器を元に戻すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。

機能名称	操作手順
内線キャンプオンビジー	**●予約** ① 話し中の音が聞こえる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●相手内線が空きになると** ① 自分の内線が鳴る ② 受話器を上げる（システムが通話相手を呼び出す） ③ 相手と通話できる
シリーズコール	① 待受中 ② 受話器を上げる ③ 内線番号をダイヤルする（例：100） ④ 呼出し音か話し中の音が聞こえる ⑤ ダイヤルキーで、話し中の内線の近くの内線番号の下 1 桁を押す（例：1） ⑥ 近くの内線（例では 101）が呼び出される ※ PB アナログ単独電話機からの操作はできません。 ※内線番号の下 1 桁の範囲の内線のみ呼び出すことができます。 （上記の例でいうと、内線 101 ～ 109 を呼び出すことができます）
トランクキャンプオン	**●予約** ① 話し中の音が聞こえる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●内線空きの状態から任意の方路を予約登録する場合** ① 受話器を上げる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする ③ 方路番号をダイヤルする **●内線空きの状態から登録を解除する場合** ① 受話器を上げる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●外線が空きになると** ① 自分の内線が鳴る ② 受話器を上げる ③ ダイヤルトーンが聞こえる（ダイヤルできる）

6-3 PHS の操作

PHS には機能が割り付けられたフレキシブルキーがありません。
このため、ＩＭ シリーズの電話端末として PHS を使用する場合、利用できるサービス機能に制限があります。また、利用できる機能も特番ダイヤルが基本となるため、ＩＭ ３０「 」電話機の場合とは操作手順が異なるものがあります。
以下に、利用できるサービス機能および、ＩＭ ３０「 」電話機との操作手順の違いについて、その概略を示します。

■ PHS に特有な機能の紹介

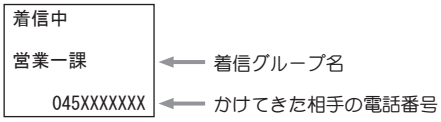
● ファンクションボタンの利用

UM7588 にはファンクションボタンがあるため、ファンクションボタンに特番を登録して、ワンタッチで特番サービスを利用することができます。特番のファンクションボタンへの登録については、UM7588 に付属の『取扱説明書』を参照してください。

● PS 一斉着信

システム設定によって、一般着信、DGL 着信、ドアホン着信を PHS に着信させることができます。複数の PHS へ着信させることができるこの機能は「PS 一斉着信」といいます。着信のあった PHS では、どれか 1 台で応答することができます。
UM7588 では、PS 一斉着信時に、ディスプレイに着信した回線やグループ名を表示することができます。また、着信音を回線やグループごとに変更することもできます。

PHS のディスプレイ表示例



■ PHS で利用可能なサービス機能

PHS で利用可能なサービス機能を下の表に示します。

機能名称	機能名称	機能名称
指定外線捕捉	代理発信	ISDN サブアドレス
ARS 発信	秘書機能	PS 一斉着信
自動転送	トランクキャンプオン	PS 圏外
保留	外線フッキング信号送出	PS 個別着信
代理応答	グループ音声呼び	PS 呼出信号音識別
手動転送	DGL/MSA	PS 発信
会議通話	ドアホン収容	通話中情報転送
DIL 着信	FAX 接続	発信者番号通知
着信音識別	外線着信機能	PS 圏外代行
内線相互通話	ID 機能	通話中着信
ホットライン	発信者番号通知	内線キャッチホン
リダイヤル	理由通知	内線キャンプオンビジー
放送結合	発信者番号表示・規制	シリーズコール
外線発信	ISDN DID 着信	

■ PHS 端末に特有な操作手順

以下に、PHS 端末に特有な操作手順を示します。
特番のダイヤルが必要な箇所は《 》で囲み、特番を記入するための欄［　　］を設けています。
　記入例：［ １２ ］
ここに実際にお使いになる番号を記入しておくと便利です。特番については、販売店にご相談ください。

機能名称	操作手順
個別着信	① PHS の着信音が鳴る ②［通話］キーを押す ③ 通話する
PS 一斉着信	① 自分の PHS が鳴動中（このとき他の PHS 端末、PHS 以外の他の端末も鳴動中） ② 自分の PHS の［通話］キーを押す ③ 通話する ※鳴動音やネーム（発番号以外）をグループごとに変えることができます。
発信	**●一括ダイヤル（プリセットダイヤル）発信** ① 待受中 ② 相手先番号をダイヤルする ③［通話］キーを押す ④ 通話する **●分割ダイヤル発信** ① 待受中 ②［通話］キーを押す ③ ダイヤルトーンが鳴っているのを確認 ④ 相手先番号をダイヤルする ⑤ 通話する
転送	① 通話中 ②［保留］キーを押す ③ 転送先番号をダイヤルする ④ 転送先と通話中、［電源］キーを押す （自分の通話を終わる。相手先と転送した先との通話になる）

機能名称	操作手順
不在転送設定	① 待受中 ②［通話］キーを押す ③《不在転送先＆モード登録特番［　　］》をダイヤルする ④ 転送先の番号をダイヤルする ⑤ 転送先が内線以外の場合は、［保留］を押す（または タイムアウト） ⑥［電源］キーを押す
不在転送解除	① 待受中 ②［通話］キーを押す ③《不在転送先＆モード解除特番［　　］》をダイヤルする ④［電源］キーを押す
PHS 圏外転送	**● PHS からの転送先の登録** ① 待受中 ②［通話］キーを押す ③《不在転送先登録特番［　　］》をダイヤルする ④［＊］を押す ⑤ 転送先をダイヤルする ・内線の場合：《相手先内線番号》 ・外線の場合：［#］［0］《相手先番号》→［#］または［保留］キーを押す ・PBX の場合：［#］［2］《相手先番号》→［#］または［保留］キーを押す ・選択転送先：［＊］→［保留］キーを押す **● PHS 圏外転送モード登録 / 解除** ① 待受中 ②［通話］キーを押す ③《PHS 圏外転送モード登録特番［　　］》をダイヤルする **● PHS 圏外転送モード登録 / 解除（プリセットで行う場合）** ① 待受中 ②《PHS 圏外転送モード登録特番［　　］》をダイヤルする ③［通話］キーを押す
保留	**●保留操作** ① 通話中 ②［保留］キーを押す **●保留解除** ①［保留］キーを押す
通話中着信	**●発信** ① 話し中の音が聞こえる ②《通話中着信特番［　　］》をダイヤルする ③ 相手呼出し音が聞こえる ④ 相手が応答したら通話する **●着信** ① 通話中 ②「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③［保留］キーを押す ※この時、元々通話していた人は保留されています。［電源］キーを押すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。
内線キャッチホン	**●着信** ① 通話中 ②「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③［保留］キーを押す ※この時、元々通話していた人は保留されています。［電源］キーを押すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。

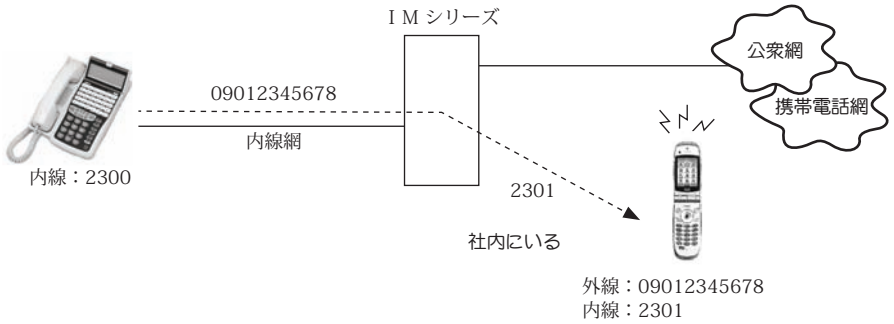
機能名称	操作手順
内線キャンプオンビジー	**●予約** ① 話し中の音が聞こえる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●相手内線が空きになると** ① 自分の内線が鳴る ②［通話］キーを押す（システムが通話相手を呼び出す） ③ 相手と通話できる
シリーズコール	① 待受中 ②［通話］キーを押す ③ 内線をかける（例：100） ④ 呼出し音か話し中の音が聞こえる ⑤ ダイヤルキーで、話し中の内線の近くの内線番号の下 1 桁を押す（例：1） ⑥ 近くの内線（例では 101）が呼出される ※内線番号の下 1 桁の範囲の内線のみ呼び出すことができます。 （上の操作例でいうと、内線 101 ～ 109 を呼び出すことができます）
トランクキャンプオン	**●予約** ① 話し中の音が聞こえる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●内線空きの状態から任意の方路を予約登録する場合** ①［通話］キーを押す ②《予約特番［　　］》をダイヤルする ③ 方路番号をダイヤルする **●内線空きの状態から登録を解除する場合** ①［通話］キーを押す ②《予約特番［　　］》をダイヤル **●外線が空きになると** ① 自分の内線が鳴る ②［通話］キーを押す ③ ダイヤルトーンが聞こえる（ダイヤルできる）

6-4 無線 LAN デュアル端末について

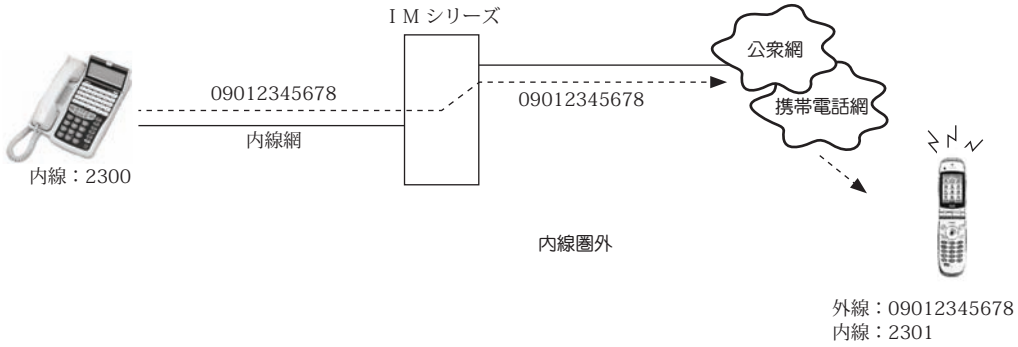
ＩＭ シリーズの電話端末として無線 LAN デュアル端末を使用すると、社内では内線、外出先では携帯電話として１台２役で使用できます。
無線 LAN デュアル端末を持つ相手へ電話する場合は、いつでも携帯電話番号でかけられます。相手が社内にいる場合は内線として接続され、外出先にいる場合は携帯電話網経由で接続されます。

※無線 LAN デュアル端末とは、無線 LAN と携帯電話網を利用できる電話機です。ＩＭ シリーズでは、この電話機を無線 LAN 圏内では内線、無線 LAN 圏外では携帯電話として使用できます。

- 社内から無線 LAN デュアル端末へかける（内線として接続）

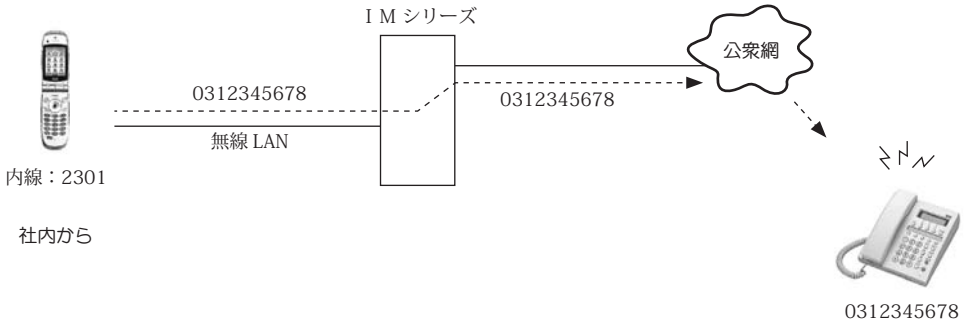


- 社内から無線 LAN デュアル端末へかける（携帯電話として接続）



無線 LAN デュアル端末で社内から外線へ発信する場合は、公衆電話網を使用するため、通信コストを削減できます。

- 社内の無線 LAN デュアル端末から外線へかける（公衆電話網で接続）



メモ

- 内線圏外の無線 LAN デュアル端末に対して内線番号をダイヤルしても、携帯電話網への接続は行われません。
- 無線 LAN デュアル端末に発信した後は、オートリピート操作では発信できません。
- リダイヤルで無線 LAN デュアル端末に発信して内線接続になった場合、クイックリダイヤルはできません。（キーを押しても何も起こりません。）
- 受話器を上げるだけで外線にかけられる電話機（オフフック外線自動捕捉）からは、無線 LAN デュアル端末に内線として電話をかけることはできません。

付録

フレキシブルキー機能一覧 …… 184
用語解説 …… 186
故障かな？とお考えになる前に …… 192

フレキシブルキー機能一覧

No.	フレキシブルキー名	機能の概要
01	リダイヤル	直前に発信した相手にかけ直す場合に使用します。
02	オートリピート	外線発信で呼び出そうとした相手が通話中の場合、自動的にかけ直す場合に使用します。（最大 15 回）
03	ダイヤルメモリ	後で電話をかけたい番号を記録し、簡単に発信する場合に使用します。通話中に電話番号などをメモすることも可能です。メモした電話番号は発信に使用できます。
04	短縮ダイヤル	短縮ダイヤルとして登録した相手先番号に内線から発信する場合に使用します。多機能電話機と IP 多機能電話機からは、［短縮ダイヤル］キーを使った発信、短縮ダイヤルごとの相手先名からの発信（ネーム検索）も可能です。
05	代理応答	自分が属する代理応答グループの着信、もしくは、他の代理応答グループの着信に、キー操作または特番操作で応答する時に使用します。
06	秘話解除 / 会議	秘話解除による会議参加（最大 4 者）、または通話中に別の相手にダイヤルして会議通話（最大 4 者）を行うときに使用します。
07	夜間切替	外線からの着信形態の昼 / 夜モードを手動で切替える場合に使用します。
08	集中着信	すべての一般系着信にオフフックのみで応答する場合に使用します。
09	指定外線自動転送［T-T 転送］	指定した外線からかかってきた電話を、別に指定した外線へ自動的に転送する場合に使用します。
10	自己保留	通話を一時保留する場合に使用します。保留解除は、自己保留した電話機からのみ可能です。
11	不在設定	不在中に発信者の電話機ディスプレイ画面に表示するメッセージを選択し、登録する場合に使用します。発信者の電話機ディスプレイには、選択されたメッセージが表示（不在 / 外出 / 会議）され、不在であることを伝えます。
12	PB 信号	通話中にプッシュホン信号を送出する場合に使用します。ダイヤル回線でもプッシュホン信号が送出できます。
13	予約	外線の空きがない場合や内線の相手が通話中の場合に、電話がかけられるようになったことを呼出し音で知らせる機能です。
14	ID	システム単位で設定する 1 ～ 12 桁の ID 番号により、発信の規制を行う場合に使用します。
15	不在転送	離席の際に、着信を登録した番号へ自動転送します。着信識別には、内線着信、外線着信があります。
16	ARS 停止	発信時の ARS 機能を停止する場合に使用します。
17	クラス切替	クラス切替グループごとに内線クラス（規制クラス）を切替える場合に使用します。
18	指定代理応答	指定した他の代理応答グループの着信に応答できるする場合に使用しますこのキーを押して、グループ番号をダイヤルすることで代理応答ができます。
19	着信ウェイト	外線からの一般系着信（一般着信、DGL 着信）に対して、誰も応答できる人がいない場合、通話中の多機能電話機または IP 多機能電話機からの操作で、発信者に対して、待ち合わせメッセージ（例:「ただ今、混み合っております。しばらくお待ち下さい」）を送出する場合に使用します。
20	割込	通話中の内線／外線に対して、通話に割り込んで 3 者通話する場合に使用します。割込み通話は、設定された特定の内線からのみ可能です。
21	フッキング	通話中に、外線にフッキング信号を送ります。内線へ発信中にこのキーを押すと、かけ直しができます。
24	FAX1	FAX を接続している場合に使用します。このキーを押すことで、指定した FAX に転送することができます。FAX に着信があると、このキーのランプに状況が表示されます。なお、FAX は 2 台まで接続することができます。この機能を使用するには、あらかじめシステム設定をしておく必要があります。
25	FAX2	
26	在席 / 離席	秘書機能を利用時に使用します。幹部電話機が在席中か離席しているかを表示します。
33	外線発信	外線に発信するときに使用します。ARS 機能が働いている場合は、このキーを押すと ARS 発信となります。

No.	フレキシブルキー名	機能の概要
37	非通知	NTT のナンバーディスプレイ対応回線を捕捉して発信する場合、自分の番号を相手に伝えたくない場合に使用します。このキーを押すと、非通知用の番号を自動挿入します。ISDN でも有効となります。
38	外線代理応答	代理応答グループ内の外線着信のみに応答する場合に使用します。内線着信には応答できません。
39	内線代理応答	代理応答グループ内の内線着信のみに応答する場合に使用します。外線着信には応答できません。
40	キーパッド	ISDN の付加サービスの中で、キーパッドファシリティを送信する必要がある場合に使用します。たとえば INS ボイスワープなどの転送先登録などで使用します。
41	着信履歴	外線から着信した場合に、受信した発信者番号を着信履歴として蓄積します。着信履歴は、内線、テナント、DGL ごとに蓄積することができ、また、蓄積した着信履歴先へ発信することができます。
45	電源状態	停電などで、バッテリー運用状態となったことを知らせるときに使用します。
46	回線使用制限	指定した ISDN 回線を一時的に使用制限する場合に使用します。
47	着信拒否	非通知の着信やあらかじめ登録しておいた電話番号から電話がかかってきた場合に、それらの着信を拒否する場合に使用します。
48	ボイスワープ	システムがボイスワープと不在転送、代表スライドを併用している時、ボイスワープの運用を優先させます。
49	グループ指定代理応答［G 代理応答］	あらかじめ応答するグループ番号を割り当てることで、グループ番号のダイヤルが不要になります。

用語解説

アルファベット

ARS (Automatic Route Selection) 発信

外線に電話するとき、その相手先により最適なキャリア、IP 網を経由するルートを自動的に選択して接続します。この機能を自動ルート選択、すなわち ARS 発信と言います。

DGL (Direct Group Line) 着信

外線からの電話をグループに着信させる方法の一つで、外線、または内線からあるグループにかかってきた電話を別のグループで受けることができる機能のことです。

DGL/MSA (Direct Group Line/Multi-Station Access)

DGL 着信、MSA 着信の項を参照のこと。

DID (Direct Inward Dialing)

PBX 環境では、公衆網からかかってきた電話をオペレータなどの介在なしに特定の内線に接続する機能のことです。

DID 着信自動転送

外線からの内線個別着信をあらかじめ登録した外線に転送できる機能のことです。

DIL (Direct-In-Line) 着信

外線個別着信機能のこと。あらかじめシステム設定しておくことにより、指定外線（ DIL 外線）からかかってきた電話を、指定された内線（DIL 内線）で直接受けることができる機能を指します。着信先として、内線と DGL（MSA）があります。

DSS (Direct Station Selection)

相手の内線電話をワンタッチのキー操作で直接呼び出す機能のことです。フレキシブルキーに DSS 機能を割り付け、そのキーに登録された内線をワンタッチで呼び出すことができます。割り付けたキーのランプの状態で、相手の電話機が使用中かどうかを知ることができます。

ISDN DID 着信

ISDN 回線からかかってきた電話に対して、システムが指定された内線を識別し、内線を呼び出す機能のことです。

MSA (Multi-Station Access) 着信

DGL グループ内の呼毎に MSA キーを割り当てて着信 / 応答 / 保留に使用する方式を言います。DGL(=Direct Group Line) 着信をさらに進化させた方式で、そのグループに着信可能な数の MSA キーを割り付けることで、例えば総務に着信があると総務の MSA キーのうち、空いているランプが点滅します。発信や保留も同じキーで行えるので、従来の操作と同様の使い方で PBX ダイヤルインを利用できます。

PBX ダイヤルイン

公衆網から受信するダイヤルイン番号に応じて着信先の内線を指定する機能のことです。外線にはダイヤルイン回線を使用する必要があります。

T-T 転送

指定した外線からかかってきた電話を、別に指定した外線へ自動的に転送する機能のことです。「トランクートランク転送」、「指定外線転送」とも言います。

五十音

【ア行】

一般着信
外線からの着信には、複数の内線に着信する一般着信と 1 つの内線のみに着信する個別着信の 2 つのパターンがあります。一般着信は、外線からの電話を、工事設定したすべての電話機に着信させる方法です。これに対し、個別着信とは外線からの電話をグループに着信させる方法で、DGL/MSA 着信などがあります。

オートダイヤル
ワンタッチキーに相手先番号を登録しておき、そのキーを押すだけで、登録されている相手先へ電話をかけることができる機能のことです。

オフフック外線自動捕捉
受話器を上げるだけで外線にかけられる機能のことです。工事設定された内線電話機だけからこの機能を使うことができます。

オフフック外線自動応答
外線から電話がかかってきた場合、受話器を上げるだけで応答できる機能です。工事設定された内線電話機だけからこの機能を使うことができます。

音声呼出し
内線を呼び出す方法の一つで、相手電話機のスピーカから音声を流して呼び出す方法です。

【カ行】

外線乗り換え
使用している回線を切断して指定した別の外線に乗り換えることを言います。現在使用している回線が切断され、新たに指定した回線と接続されます。

外線発信
外線へ電話をかけるときに通常使われる機能です。外線発信特番または外線発信用のフレキシブルキーを押した後に、相手の番号をダイヤルすると、ARS 機能が自動的に最適ルートを選択するため、そのルートで空いている外線を使用して発信できます。

回線保留
通話中に［保留］キーを押すことにより、通話相手を保留する機能のことです。自己保留機能とは異なり、別の電話機でも保留を解除することができます。

キャンプオンリンギング
通話中の外線（または内線、ドアホン）を他の内線へ転送するとき、転送先の内線番号をダイヤルし呼出し音を確認した段階で受話器を元の位置に戻して、回線から抜ける方法を言います。転送先の内線が応答することで、保留中の相手と通話することができます。

グループ音声呼出し
複数の内線を音声で同時に呼び出す機能のことです。

グループ指定代理応答
「代理応答」を参照。

グループ着信
グループ内のすべての電話機に着信させる方法です。

グループ内代理応答
「代理応答」を参照。

個別着信
内線電話機に個別に着信させる方法です。

【サ行】

自己保留

通話中に「自己保留」機能が割り付けられているフレキシブルキーを押して、通話相手を一時的に保留状態に置くことです。保留状態の解除ができるのは、自己保留した電話機からのみです。

指定外線自動転送

夜間や外出中の電話をあらかじめ登録された電話番号へ自動的に転送します。フレキシブルキーに割り付ける機能名では「Ｔ－Ｔ転送」と言います。

自動転送

内線にかかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた転送先へ自動的に転送する機能の総称です。本システムでは自動転送機能として、不在転送（内線が不在のとき、その行き先へ転送する）、発番号不在転送（網からの発信者番号ごとに不在転送先を選択できる）、シフト着信（外線からの着信に対して、応答がないときの内線へ転送する）、DID 着信自動
転送（DID 着信を外線へ転送する）、フォローミー（不在転送登録を不在転送先から行なう）、選択転送（不在転送の転送先を被転送者が選択する）、転送電話（外線からの着信を外線へ転送する）などの機能を提供しています。

シフト着信

外線からかかってきた電話に対して一定時間応答しない時、別の内線に着信を転送（シフト）する機能です。シフト先はシステム設定で内線ごとに設定することができます。

主装置

ビジネスホンの本体のこと。
通常、ビジネスホンは 1 台の主装置と複数のビジネスホン用電話機から構成されます。

選択転送

外線からかかってきた電話に対して、メッセージトランクから転送先の選択を促す選択転送ガイダンスを送り、発信者側の操作で外線への転送、代表グループへのスライドのいずれかを選択させてから、選択された転送先に電話をつなぐ機能です。ただし、この機能を行うには、以下の設定を行う必要があります。

①転送先登録
②選択転送を有効にする登録
③選択メッセージ用の音声ガイダンス（選択転送ガイダンス）を付加番号 DID の音声ガイダンスに録音（例：ただ今外出中です。外出先の携帯電話へ転送する場合は 0 を、そうでない方は 2 をダイヤルしてください。）

【タ行】

ダイヤル転送

通話中の外線（または内線、ドアホン）を他の内線へ転送するとき、転送先の内線番号をダイヤルし、応答を待って転送する旨を伝えてから受話器を元の位置に戻して、回線から抜ける方法です。

代理応答

複数の内線電話で構成される代理応答グループ内の特定の電話機に着信があったとき、その電話機の代わりにキー操作または特番で応答できます。これを「グループ内代理応答」と言います。また他の代理応答グループ内の内線電話機に着信があったときも、その電話機に代わって応答できます。これを「グループ指定代理応答」と言います。

短縮オート

フレキシブルキーに割り付けられた短縮ダイヤル機能のことです。キーを押すだけで短縮ダイヤル発信ができます。

短縮ダイヤル

システム内のすべての内線が共通に使用する短縮ダイヤルサービスを言います。短縮番号はあらかじめシステム管理者によって登録されています。「短縮ダイヤル」機能が割り付けられたフレキシブルキーを押して、短縮番号をダイヤルすることで発信できます。相手先の電話番号や名前から短縮ダイヤルを検索・確認して発信することもできます。

チェンジオーバー

ダイヤル転送の操作中、または転送先相手と通話中に、転送者が内線キーまたはフッキング操作を繰り返すことにより発信元（電話をかけてきた人）と転送先内線を交互に切り替えて通話することを言います。

遅延転送

指定外線自動転送で「遅延タイマー」を指定したとき、一定時間の呼出しに応答がない場合に転送を行う機能です。

着信音

電話がかかってきたことを知らせる音がスピーカから出ます。発信元のタイプに応じてさまざまな音色があります。内線電話機の好みの音を選択することも可能です。

着信音識別

着信種別（内線／外線一般／外線個別）ごとに、あるいは網からの鳴動リンガごとに内線への鳴動リンガ周期を変える機能です。さらに、各内線／回線／発信者番号ごとに 4 種類の異なった音色により着信音を識別できるように設定できます。各内線ごとの着信音色は電話機からの操作によっても選択できます。

着信通知

ボイスメールが到着した場合、メールボックスごとに指定された内容に従って、音声ガイダンス、ポケベル、文字メッセージ、電子メールにより自分のメッセージが到着したことを通知する機能です。

着信テナント

外線から一般着信があったときに接続するように工事設定されている内線のことです。外線ごとに接続する内線を指定できます。

着信履歴

外線からの電話に発信者番号情報が付属している場合、こちらが応答したとき、またはこちらが応答前に相手が呼を放棄してしまったとき、システムは受信した発信者番号をメモリに蓄積します。これを着信履歴と言います。蓄積された着信履歴を参照して、電話をかけてきた相手にこちらから発信することができます。

転送電話

指定した外線からの電話を、別の外線へ転送する機能です。転送先をあらかじめ登録しておいたり、登録してある転送先を変更することができます。

ドアホン着信応答

ドアホンからの呼出しがあったとき、内線電話機から応答できる機能のことです。

ドアホン呼出し

内線電話機からドアホンで扉の外にいる人を呼び出す機能のことです。

【ナ行】

内線相互通話

内線番号をダイヤルして、システム内の端末同士でお互いに通話することをいいます。相手を呼び出す方法としては、ダイヤルして電話機のベルを鳴らす、スピーカで呼び出すなどいろいろな方法があります。

内線ハンズフリー

内線音声呼出しに対して、受話器を上げずにハンズフリーの状態で応答ができる機能のことです。あらかじめマイク状態を ON にしておくことにより、内線音声呼出しで双方向通話ができます。

内線ワンタッチコール

フレキシブルキーに「DSS」キーを割り付け、DSS キーを押すだけで、指定した内線電話機を呼び出したり、応答できる機能のことです。内線電話の転送にも使います。キーのランプで内線が使用中かどうかを確認できます。

任意外線発信

外線ごとに設定できる［回線］機能を割り付けたフレキシブルキーを押すことにより、その回線を使用して発信できる機能のことです。この機能はＩＭ３０「 」電話機でのみ使用できます。

【ハ行】

パーク保留

［回線］機能をフレキシブルキーに割り付けられない電話機、または内線電話を保留にする場合に用いられる保留機能です。パーク保留に応答できる電話機をグループ化して、グループ内保留に応答できるグループパークと、システム全体に応答できるシステムパークを構成することができます。例えば、会社の受付はシステムパーク、課内はグループパークとして運用することができます。パークの種類に応じて、パーク保留にもグループパーク保留とシステムパーク保留があります。

発信音

電話をかけるとき受話器またはスピーカから出る音のことです。外線発信音と内線発信音があります。外線発信音は「ツー」、内線発信音は「ツーツー」という音がします。

発信者番号通知

公衆網から着信があったとき、発信者番号情報を網から受け取ることができる機能です。発信者番号をディスプレイに表示したり、着信音を選択したり、リダイヤルへ蓄積したり、あるいは着信履歴情報として蓄積するなど、さまざまなことができます。

発信者番号リダイヤル発信

外線から電話をかけてきた相手に対して、こちらから［リダイヤル］キーを押すことで電話がかけられる機能のことです。この機能が利用できるのは、外線から電話があったとき、発信者番号も一緒に送られている場合のみです。

発番号不在転送

自動転送機能の一つで、網から受け取る発信者番号ごとに不在転送先を指定できる機能のことです。

フォローミー (follow-me)

自分の内線にかかってくる電話を、移動先の内線に不在転送するように、移動先の電話機から登録する機能のことです。

付加番号 DID (Direct Inward Dialing)

外線からの着信に自動で応答して音声ガイダンスを流し、次に外線からの PB 信号を受信することで、指定された着信先に電話をつなぐ機能のことです。たとえば、外線から電話があった場合、音声ガイダンスで「こちらは○○です。この回線はダイヤルイン回線です。続けて内線番号をダイヤルして下さい」と応答し、続いて内線番号を受信したとき、指定された内線に接続します。

不在設定

内線からの電話に対して、不在メッセージを相手の電話機のディスプレイに表示させる機能です。メッセージは、「不在」、「外出」または「会議」の中から選択できます。

不在転送

離席の際、行き先の相手先番号を登録すると、それ以後にかかってきた電話を、自動的に登録先へ転送する機能のことです。転送先は、着信種別に応じて設定することができます。

フレキシブルオート

フレキシブルキーに割り付けられたオートダイヤル機能のことです。オートダイヤル機能はワンタッチキーに割り付けられていますが、ワンタッチキーだけでは足りなくなったときなどに、この機能をフレキシブルキーに割り付けて使います。

フレキシブルキー
ファンクションキーやシステム短縮ダイヤル番号などを割り付けて使うキーのことです。

ボイスワープ
NTT 東日本 / 西日本の転送電話サービスです。無条件転送 / 無応答時転送 / 話中時転送などのサービスがあります。

放送結合
内線電話機から構内放送装置にアクセスし構内放送を行なう機能です。構内放送で呼び出された場合、電話で応答できます。

ホットライン
受話器を上げるだけで、登録されている内線を呼出すことができる機能のことです。

保留音
回線を保留にしたとき、相手に送られるメロディのことです。

【マ行】

無線 LAN デュアル端末
通常の携帯電話の方式とは別に、もう一つの無線方式が搭載された携帯電話端末。
日本では、無線 LAN（IEEE802.11b/g）を採用したものが一般的です。

【ヤ行】

夜間切替
フレキシブルキーに割り付けられた［夜間切替］キーの操作によって、外線からの着信形態の昼 / 夜モードを手動により切替えることができる機能のことです。あらかじめシステム設定しておけば、指定時刻および指定曜日に外線からの着信形態の昼 / 夜モードを自動的に切替えることもできます。

【ラ行】

リダイヤル
外線に電話をかけ、その直後にまた同じ相手に電話をかけたいとき、［リダイヤル］キーを押すだけで、相手先を呼び出すことができる機能のことです。直前に電話したときの相手先番号をシステムのメモリに記憶しておくことで、この機能を実現しています。

ルート選択発信
ルート別に外線のグループが割り付けられた回線捕捉特番または［発信］キーを使って、そのルート内で空いている外線を使用して発信する機能のことです。

【ワ行】

話中音
相手が話し中または途中の回線が混雑しているため相手を呼び出せないことを知らせる音です。「ツーッツーッ」という音が受話器またはスピーカから出ます。

故障かな？とお考えになる前に

症状	原因と対処
多機能電話機のディスプレイに何も表示されていない。	1. 主装置の電源がオフになっているか、または電源コードの抜けが考えられます。POWER ランプが消えている場合、電源スイッチをオンにしてください。または、電源コードが確実に入っているかを確認してください。 2. 電話機コードの抜け、接触不良が考えられます。確実に入っているかを確認してください。
受話器から " ツー " という音が聞こえない。	受話器（ハンドセット）のカールコードの抜け、接触不良が考えられます。確実に入っているかを確認してください。
こちらの声が相手に伝わらない。	ミュート状態であることが考えられます。［ミュート］キーのランプが点灯しているときは、［ミュート］キーを押して、ミュートを解除してください。
［スピーカ］キーを押したのに、スピーカから音が出ない。	電話機設定機能の「ハンドセット切替」が「ヘッドセット」に設定されていることが考えられます。「ハンドセット」または「ハンズフリー」に設定してください。 詳細は、p.165「5-9 ハンドセット／ハンズフリー／　ヘッドセットを切り替える」を参照してください。

操作早見表

■ 電話をかける

注）・受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、＊の部分で 内線 を押してください。
・特番をダイヤルする箇所には、[　] 欄を設けていますので、実際にご使用になる特番をご記入ください。

機能名称		操作手順
外線	受話器を上げてからかける	① 待受状態で、受話器を上げる ② 外線キー／(O)／発信 のいずれかを押す ③ 相手の電話番号をダイヤルする
	受話器を置いたままかける	① 待受状態で、外線キー／(O)／発信 のいずれかを押す ② 相手の電話番号をダイヤルする ③ 受話器を上げる
	電話番号を確認してからかける	① 待受状態で、相手の電話番号をダイヤルする ② 外線キー／発信 のいずれかを押す ③ 受話器を上げる
内線	通常呼出し	① 待受状態で、受話器を上げる＊ ② 相手の内線番号をダイヤルする
	音声呼出し	① 待受状態で、受話器を上げる＊ ② 相手の内線番号をダイヤルする ③ (＊) を押す ④ 受話器に向かって、音声で相手を呼び出す
	グループ音声呼出し	① 待受状態で、受話器を上げる＊ ② グループ呼出し特番 (＊)(O) [　　] を押す ③ グループ番号 (O)(O) [　　] を押す（(O)(O) は初期値です。） ④ 受話器に向かって、音声でグループを呼び出す
	DGL グループ呼出し	① 待受状態で、受話器を上げる＊ ② DGL 特番 [　　] をダイヤルする ③ DGL グループ番号 [　　] をダイヤルする
内線・外線 共通	短縮ダイヤルで電話をかける	① 待受状態で、受話器を上げる ② 短縮 を押す ③ 短縮番号をダイヤルする
	ワンタッチで電話をかける	① 待受状態で、受話器を上げる ② 電話番号が登録されているフレキシブルキーを押す
	電話帳を使ってかける	① 待受状態で、▽ を押す ② パスワードを設定している場合は入力する ③ 電話帳検索メニューで検索方法を選択する 「1：名前検索」→ フリガナを入力して 決定 を押す 「2：メモリ検索」→ メモリ番号を入力して 決定 を押す 「3：グループ検索」→ グループ検索画面が表示されるので、グループ番号を △ ▽ を押して選択し、決定 を押す ④ 検索結果を確認する ⑤ 内線 を押す（自動的にダイヤルされる） ⑥ 受話器を上げる

機能名称		操作手順
	発信記録を使ってかける	① 待受状態で、◁を押す ② パスワードを設定している場合は入力する ③ △/▽を押して発信記録を選択する ④ 内線を押す（自動的にダイヤルされる） ⑤ 受話器を上げる
	着信記録を使ってかける	① 待受状態で、▷を押す ② パスワードを設定している場合は入力する ③ △/▽を押して着信記録を選択する ④ 外線キーを押す（自動的にダイヤルされる） ⑤ 受話器を上げる
	リダイヤルする	① 待受状態で、受話器を上げる ② リダイヤルを押す
	ハンズフリーで電話をかける（電話機にハンズフリー設定が必要）	① 待受状態で、スピーカを押す ② 外線にかける場合は、外線キーを押す ③ 相手の電話番号をダイヤルする

■ 電話を受ける

注）★印のついている項目は、あらかじめフレキシブルキーへの設定が必要です。

機能名称		操作手順
外線を受ける		① 着信音が聞こえる ② 受話器を上げる ③ ランプが点滅している外線キーを押す
内線を受ける		① 着信音が聞こえる ② 受話器を上げる
内線（音声呼出し）を受ける		① 声が聞こえる ② 受話器を上げる
内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける		① 声が聞こえる ② ミュートを押す ③ マイクに向かって話す ④ 通話を終えるときはスピーカを 2 回押す
代理応答	グループ内代理応答	① 内線グループ内の内線電話に着信がある ② 代理応答を押す ③ 受話器を上げる
	グループ指定代理応答	① 他のグループの内線電話に着信がある ② 指定代理応答を押す ③ 着信中 のグループ番号をダイヤルする ④ 受話器を上げる
DGL/MSA グループ呼び出し		① 着信音が聞こえる ②［DGL］キー /［MSA］キーを押す ③ 受話器を上げる

■ 電話を保留する／転送する

注）★印のついている項目は、あらかじめフレキシブルキーへの設定が必要です。

機能名称			操作手順
保留	他の電話で取れるように保留する		外線の場合： ① 通話中、保留を押す ② 受話器を置く ③ 通話を再開するときは、保留している外線キーを押す 内線の場合： ① 通話中、保留を押す ② 受話器を置く ③ 通話を再開するときは、パーク保留を押す
	他の電話で取れないように保留する★		① 通話中、自己保留を押す ② 受話器を置く ③ 通話を再開するときは、自分の電話機で自己保留を押す
	グループ内で取れるように保留する★		① 通話中、パーク保留を押す ② 受話器を置く ③ 通話を再開するときは、グループ内の電話機でパーク保留を押す
内線への手動転送	転送先と話してから取り次ぐ（ダイヤル転送）		① 通話中、内線を押す ② 転送先の内線番号をダイヤルする ③ 転送先の内線と通話する ④ 受話器を元に戻す（元の相手と転送先の相手が通話できる）
	転送先と話さないで取り次ぐ（キャンプオンリンギング）		① 通話中、内線を押す ② 転送先の内線番号をダイヤルする ③ 呼出し音を確認して受話器を元の位置に戻す （元の相手と転送先の相手が通話できる）
	元の相手と転送先と交互に通話する（チェンジオーバー）		① 通話中、保留する ② 内線を押す ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 内線と通話する ⑤ 内線を押す ⑥ 保留にした相手と通話を再開する
外線への手動転送★			① 通話中、内線を押す ② 空いている外線キーを押す ③転送先の電話番号をダイヤルする ④ 相手が応答したら、用件を伝えてT－T転送を押す ⑤ 受話器を元に戻す（元の相手と転送先の相手が通話できる）
自動転送	不在転送★	設定／解除	① 受話器を置いたまま不在転送を押す ② 保留を押す
	転送電話★	設定	① 受話器を置いたままT－T転送を押す ② 転送する回線のキーを押す ③ 保留を押す
		解除	① 受話器を置いたままT－T転送を押す

■ その他の操作

注）★印のついている項目は、あらかじめフレキシブルキーへの設定が必要です。

機能名称		操作手順
秘話解除★		解除者：① 通話中 ② 秘話/会議を押す ③ 口頭で呼びかける ④ 3者で通話する 参加者：① 受話器を上げる ② 外線キーを押す
会議通話★		① 通話中 ② 参加者が外線の場合：外線キーを押して、番号をダイヤルする 参加者が内線の場合：内線を押して内線番号をダイヤルする ③ 参加者が応答したら秘話/会議を押す ④ 3者で通話する
集中着信★	設定／解除	① 受話器を上げて集中着信を押す
夜間切替★	設定／解除	① 受話器を置いたまま夜間切替を押す
不在設定★	メッセージの選択	① 待受状態で決定を押し、（パスワードを設定している場合は入力して）メインメニューを表示する ② 4 GHI → 3 DEF を押す ③ 不在理由を 1 ：不在／ 2 ABC ：外出／ 3 DEF ：会議　から選ぶ ④ 決定 を押す
	設定／解除	① 受話器を置いたまま 不在設定 を押す
ドアホン★	呼出しに応答	① ドアホンから着信がある　② 受話器を上げる ③ ドアホンを押す
	ドアホン周辺の音を聞いてから呼出す	① 待受状態で、受話器を上げる　② ドアホンを押す ③ ドアホンの周辺の音声を聞く　④ ドアホンを押す ⑤ ドアの外の相手とドアホン通話を行う

■ 音量・ディスプレイの調整

機能名称	操作手順
着信音量	① 待受状態で △ → 1 → 1 を押す　② △ ▽ で音量を調整する（5段階） ③ 決定 を押す
受話音量	① 待受状態で △ → 1 → 2 ABC を押す　② △ ▽ で音量を調整する（5段階） ③ 決定 を押す
スピーカ音量	スピーカ受話中に △ ▽ で音量を調整（8段階）
ディスプレイの濃淡	① 待受状態で △ → 3 DEF → 1 を押す　② △ ▽ で濃度を調整する（8段階） ③ 決定 を押す
バックライトベースの色	① 待受状態で △ → 3 DEF → 4 GHI を押す ② 1 （グリーン）または 2 ABC （オレンジ）を押す

■ いろいろな登録

機能名称	操作手順
履歴から電話帳への登録	① 待受状態で◁または▷を押し、（パスワードを設定している場合は入力して）発信記録または着信記録を表示する ②△、▽を押して登録する履歴を表示する ③決定を押して編集メニューを表示する ④ 1 を押して電話帳登録画面を表示する ⑤ 空いているメモリ番号が表示されるので、その番号に登録する場合は決定を押す。メモリ番号を変えたい場合はクリアを押して番号をクリアしてから入力する ⑥ ダイヤル番号を確認して決定を押す ⑦ 名前を漢字で入力して決定を押す ⑧ 自動表示される名前のフリガナを確認して決定を押す ⑨ 登録するグループを選択して決定を押す
電話帳の新規登録操作	① 待受状態で決定を押し、（パスワードを設定している場合は入力して）メインメニューを表示する ② 1 → 1 → 1 を押して電話帳新規登録画面を表示する ③ 空いているメモリ番号が表示されるので、その番号に登録する場合は決定を押す。メモリ番号を変えたい場合はクリアを押して番号をクリアしてから入力する ④ 登録する相手が外線の場合は 1 を、内線の場合は 2 ABC を、PBX の場合は 3 DEF を押す ⑤ 相手先の番号をダイヤルキーで入力して、決定を押す ⑥ 相手先の名前を漢字で入力して決定を押す ⑦ 自動表示される名前のフリガナを確認して決定を押す ⑧ 登録するグループを選択して決定を押す
オートダイヤルの登録	① 待受状態で決定を押し、（パスワードを設定している場合は入力して）メインメニューを表示する ② 5 JKL → 3 DEF → 1 を押してオートダイヤルキー登録画面を表示する ③ オートダイヤルキーとして登録するフレキシブルキーを押す ④ 相手先が外線の場合は 1 を、内線の場合は 2 ABC を、PBX の場合は 3 DEF を押す ⑤ 登録する番号をダイヤルする ⑥ 決定を押す

機能名称	操作手順
短縮ダイヤルの登録 （ 管理者用パスワード（工場出荷時：1234）を入力した一般電話機、またはシステム管理電話機のみ）	① 待受状態で決定を押し、（パスワードを設定している場合は入力して）メインメニューを表示する ② 0を押して、管理者用パスワードを入力する ③ 3→2→1を押して短縮ダイヤルの登録画面を表示する ④ 空いている短縮番号（メモリ番号）が表示されるので、その番号に登録する場合は決定を押す。メモリ番号を変えたい場合はクリアを押して番号をクリアしてから入力する ⑤ 相手先が外線の場合は1を、内線の場合は2を、PBX の場合は3を押す ⑥ 登録する番号をダイヤルする ⑦ 相手先の漢字名を入力して決定を押す ⑧ 自動表示される名前のフリガナを確認して決定を押す ⑨ 相手先が外線の場合は、着信音を1～9からを選ぶ ⑩ 相手先が外線の場合は、ディスプレイのバックライトの色を1または2から選ぶ

索引

数字

3人以上で通話する…… 115

アルファベット

D

DGL（ダイレクトグループライン）モード …… 29
DGL グループ呼出し …… 124
ＤＧＬ着信…… 72
DIL (Direct-In-Line) 方式…… 32
DSS キー …… 19

M

MSA（マルチステーションアクセス）モード… 29, 131

P

PBX ダイヤルイン方式 …… 32
PB 保守 …… 132
PHS …… 176

かな

あ

アナログ単独電話機…… 172

い

一般電話機…… 13

お

オートダイヤル…… 27
オフフック外線自動捕捉…… 17
音量を調節する…… 155

か

会議通話…… 117
回線使用制限…… 130
カナの入力…… 50
漢字の入力…… 49
管理者用パスワード…… 55

き

キータッチ音のオン／オフを切り替える…… 160
機能（十字）キー…… 46
キャッチホン…… 33
キャンプオンリンギング…… 39

く

グループ音声呼出し…… 122
グループ着信…… 72
グループ呼出し応答…… 123

こ

構内放送装置…… 168
個別着信…… 72

し

自己保留…… 35
システム管理電話機…… 13
指定代理応答…… 126
集中着信…… 107
主装置……3
シリーズコール…… 129

た

ダイヤル転送…… 38
代理応答…… 125
短縮キー…… 85
短縮ダイヤル
　相手の名前から短縮ダイヤルを検索する…… 76
　短縮ダイヤルの登録をすべて消去する…… 82
　短縮ダイヤルを登録する…… 79
　メモリ番号から相手の名前を検索する…… 78
端末設定メニュー…… 166

ち

チェンジオーバー…… 40
着信音…… 105, 153
着信拒否…… 108
着信方式…… 32
昼夜切替え…… 104

て

ディスプレイ
　ディスプレイの角度を変える…… 146
　ディスプレイの濃度を調節する…… 164
　ディスプレイの見方…… 12
　バックライトタイマを調節する…… 163
　バックライトの色を選択する…… 162
停電……8
転送
　かかってきた電話を外線に転送する…… 42
　指定した外線を別の外線へ転送する…… 94
　転送先の内線から転送指示をする…… 121
　転送先の内線と話さずに取り次ぐ…… 39
　転送先の内線と話してから取り次ぐ…… 38
　不在時に他の電話へ転送する…… 97
転送電話…… 94
電話機の角度を変える…… 144
電話帳
　電話帳から 1 件削除する …… 67
　電話帳にグループ名を登録する…… 62
　電話帳に新規に登録する…… 59
　電話帳の内容を修正する…… 66

電話帳の内容をすべて消去する…… 68
電話帳をグループで検索する…… 65
電話帳を名前で検索する…… 63
電話帳をメモリ番号で検索する…… 64
電話を受ける
外線を受ける…… 28
特殊な着信音／着信ランプの電話を受ける…… 31
内線（音声呼出し）を受ける…… 30
内線（音声呼出し）を受話器を上げずに受ける…… 31
内線（着信音）を受ける…… 30
電話をかける
音声で内線を呼び出す…… 20
外線にかける…… 16
ダイヤルしてから受話器を上げる…… 21
短縮番号をダイヤルして電話をかける…… 26
電話帳を使って電話をかける…… 24
内線にかける…… 19
ハンズフリーで電話をかける…… 22
リダイヤルする…… 23
履歴を使って電話をかける…… 25
ワンタッチで電話をかける…… 27
電話を取り次ぐ…… 37
電話を保留する…… 34

と

ドアホン…… 170
トランクキャンプオン…… 18

な

内線 DSS …… 88
内線音声呼出し…… 20
内線キャッチホン…… 127
内線キャンプオンビジー…… 128
内線の名前…… 57

に

入力モード…… 47

は

パーク保留…… 36
パスワード…… 53
ハンズフリー…… 22
ハンドセット／ハンズフリー／ヘッドセットを
切り替える…… 165

ひ

日付・時刻を合わせる…… 149
昼／夜モード…… 104
秘話解除…… 115

ふ

ファンクションカード…… 142
ファンクションキー…… 86
フォローミー…… 121
付加番号 DID 方式 …… 32
不在設定…… 119
不在転送…… 98
フッキング…… 172
フレキシブルキー
オートダイヤルを割り付ける…… 83
短縮キーを割り付ける…… 85
内線 DSS を割り付ける …… 88
ファンクションキーを割り付ける…… 86
割付けをクリアする…… 90
フレキシブルキー機能一覧 …… 184

ほ

ボイスワープ …… 135
ホットライン …… 19
保留 …… 34

ま

マイｅおと …… 161

む

無線 LAN デュアル端末 …… 180

め

迷惑電話 …… 108
メインメニュー …… 52

も

文字入力 …… 47

よ

予約
外線が空いていないときは…… 18
話し中の内線を予約する…… 128

り

リダイヤル …… 23
履歴
着信記録を表示する…… 71
発信記録を表示する…… 69
履歴を１件ずつ削除する…… 74
履歴をすべて削除する…… 75
履歴を電話帳に登録する…… 73

わ

ワンタッチキー …… 83, 91